

カリキュラムガイダンス

授業科目概要

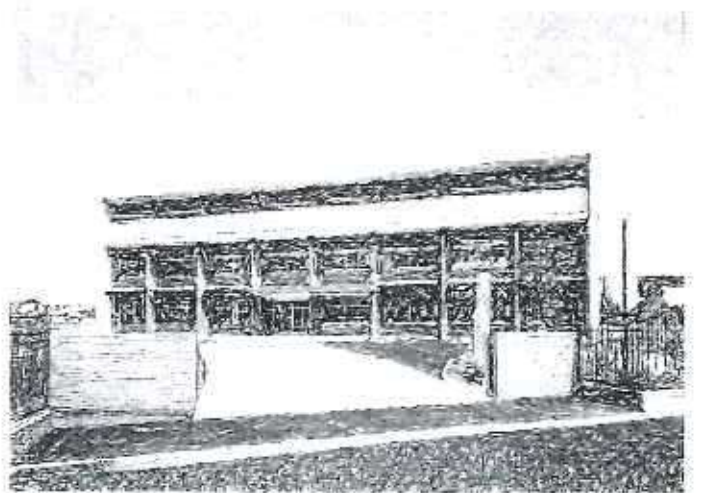


令和2年度

1年生（11回生）

あさくら看護学校

ASAKURA
MEDICAL
ASSOCIATION NURSING
COLLEGE



令和2年度 教職員氏名一覧

名称		氏名	担当領域
校 長		坂 田 高	
副 校 長		中 原 彩 実	
学校担当理事		杉 山 正 治	
健康管理医		安 永 祐 三	
教科長/1年担任補佐		伊 藤 哉 女	老年看護学
教科長(新カリ担当)/実習補佐		瓜 生 知 佳 子	在宅看護論
実習調整/2年生担任補佐		江 藤 則 子	成人看護学
1年生担任		瓜 生 知 佳 子	
専任教員/2年生担任		宮 川 理 恵	小児看護学
専任教員/3年生担任		堀 内 幸 代	基礎看護学
専任教員	国試補佐	池 田 陽 子	看護の統合と実践
	健康管理	白 瀧 美 香	成人看護学
	1年生副担任	前 川 彩	母性看護学
		中 村 一 孝	精神看護学
実習担当教員		月 俣 里 美	
		小 河 恵 美 子	
		今 村 佳 代	
事 務 長		衛 藤 昌 一	
事 務		鳥 越 恵 理	
事 務		原 田 亮 二	
事 務		藤 本 喜 代 美	
事 務		養 父 ミ 子	
図 書 司 書		中 原 織 音	
		吉 岡 由 美 子	

目 次

はじめに	・ ・ 1 ~ 22
教育理念・教育方針・教育目的・教育目標	・ ・ ・ 4
授業科目進度表	・ ・ ・ 5 ~ 6
臨地実習進度表	・ ・ ・ 6
分野別ねらい・看護技術の学び方	・ ・ ・ 7 ~ 8
各学年の到達目標	・ ・ ・ 9 ~ 10
分野別教科	・ ・ ・ 11 ~ 20
教科外活動のねらいと内容	・ ・ ・ 21
学年歴	・ ・ ・ 22
【基礎分野】	・ ・ 23 ~ 28
論理学	・ ・ ・ 23
物理学	・ ・ ・ 24
発達心理学	・ ・ ・ 25
心理学	・ ・ ・ 26
文化人類学	・ ・ ・ 27
看護と英語	・ ・ ・ 28
【専門基礎分野】	・ ・ 29 ~ 43
解剖生理学	・ ・ ・ 29 ~ 30
生化学	・ ・ ・ 31
微生物学	・ ・ ・ 32
病理学	・ ・ ・ 33
疾病と治療 I・II・III・IV・V	・ ・ ・ 34 ~ 38
栄養学	・ ・ ・ 39
薬理学	・ ・ ・ 40 ~ 41
保健医療論 I	・ ・ ・ 42
保健医療論 II	・ ・ ・ 43
【専門分野 I】	・ ・ 44 ~ 64
看護学概論	・ ・ ・ 44 ~ 45
基礎看護学方法論 I・II・III	・ ・ ・ 46 ~ 53
成人看護学概論	・ ・ ・ 54 ~ 55
成人看護学方法論 I・IV	・ ・ ・ 56 ~ 57
母性看護学概論	・ ・ ・ 58 ~ 59
小児看護学概論	・ ・ ・ 60 ~ 62
精神看護学概論	・ ・ ・ 63 ~ 64
【その他：ルール】	・ ・ ・ 65 ~ 71
【実務経験のある教員等による授業科目の一覧表】	・ ・ ・ 72 ~ 74

はじめに

学習をはじめるとあって、本校では何をどのように学ぶのかについて説明したいと思います。

すべての看護活動は、健康の保持・増進及び回復のため、あるいは死のために行うものです。看護学は「看護の対象としての人間」や「看護を行う場」を中心にすえ、技術や看護過程等の方法論を学びます。

学生の皆様が生涯にわたって必要な素地と発展性にかかわる能力の修得を目指しています。

3年間で修得する科目は70科目で98単位です。

内訳は、基礎分野 14科目－14単位 専門基礎分野 18科目－21単位
専門分野 38科目－63単位 でありこの中に臨地実習を含みます。

図 I

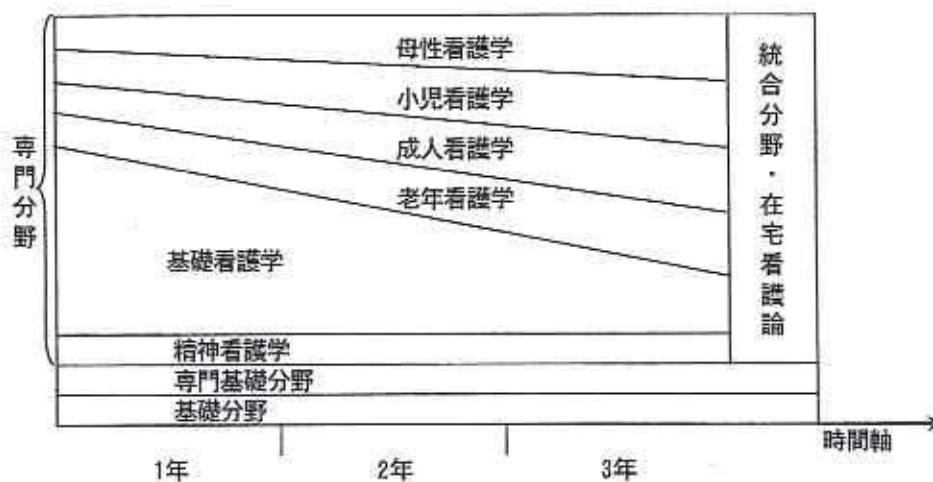


図 I の各分野の構成を参照に説明します。

基礎分野 **専門基礎分野**

看護学は、人間を対象とする実践の科学です。それに役立つ人文、社会、自然科学の関連項目を看護学のニーズから幅広く設定しています。その科目と内容は、すべての看護学の教育課程で統合され、看護の実践内容を効率的にするために生かされます。

その教育内容として基礎分野は

1. 科学的思考の基盤
2. 人間と生活・社会の理解

専門基礎分野は

1. 人間の構造と機能
2. 疾病の成り立ちと回復の促進
3. 健康支援と社会保障制度

専門分野

看護学の基盤を基礎看護学とし、それに精神看護学が連なります。

各看護学は、講義、演習、学内実習と臨地実習で構成されそれぞれの看護の対象と生活の場によって異なる看護についての知識や技術を修得します。必要な看護技術は対象や場の違いに応じてそれぞれの看護学で繰り返し身につけることが大切になります。

技術の到達目標を目指して、学内でも臨地でも実践を試してみてください。

臨地実習はそれまでに修得した知識を臨地で「何が活かせるのか」を考えながら対象を観察することにより深く理解し、必要な看護を計画し実施していく過程を学び経験することです。

卒業後の継続

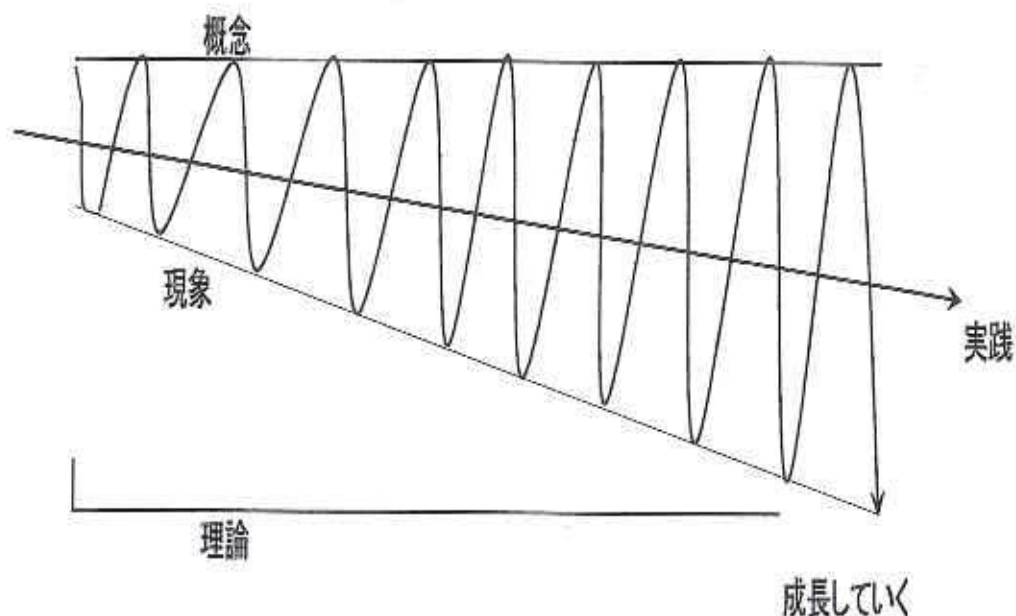
看護を学ぶことは、終わりというものはありません。卒業後は就職した病院の専門の看護に学びが生かされ更なる専門性を高めてゆきます。

学び方の基本

1. 知識は知ることだけではなく技術を通して対象に実践され又それが知識となって整理されるものです。

概念と現象の繰り返えしが学びです。

図Ⅱ



2. 理論を学び実践し、それを検証するために更に理論を学ぶ、を繰り返して実践につなげてゆきます。

以上の教育の課程には、教育目標や、各学年の到達目標、そして各科目の目標や看護技術の目標が具体的に記載されています。基本から応用へあるいは単純なものから複雑な学びへとカリキュラムは運営されています。

最後に皆様が学習する場を教育環境といいますが、学び易く安全に学習が可能な様に整えています。又、教育環境は更に質的にも量的にも多くの意見を吸収しながら充実させていきたいと思えます。

主体的に参加することによって、より多くの学びが得られると思えます。皆様が看護職として立派に自律されることを期待しながら共に研鑽いたしましょう。

教育理念

「人間の探求と尊き愛」

看護は人間のあり方や命の意味を命題とし、それに基づき健全で完全な生活のあり方を希求するものである。そこには人間愛が基本になっていることはいうまでもない。「尊き愛」が意味するものは、共感や思いやりという人間らしい感性を大切にすること、及び自己である人間としてよりよく生きるという自己への愛を大切にすることである。この看護の真理を探究することにより、人間性豊かな有能な臨床実践能力を備えた人材を育成する。

教育方針

- 1 倫理観を高め、人格の高揚を目指し人間らしい感性の育成と人間としてよく生きる教育を行う。
- 2 有能な臨床実践能力を備えた医療人の育成を行う。

教育目的

人間への関心を深め、感性豊かな技術を追求し、看護の真理を探究することにより高度な知識に裏づけられた看護を教授し、有能な臨床実践能力を備えた看護師を育成する。

教育目標

- 1 人間愛に基づき、共感と思いやりとともに誠実な専門職業人の育成を行う。
- 2 人間を身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面をもった統合体であり環境の中で絶えず変化する存在として幅広く理解できる能力を養う。
- 3 人々の健康な生活過程を整える技術を学ぶ。
- 4 科学的根拠に基づいた看護を推論・判断・実践出来る基礎的能力を身につけるとともに、主体的に自ら学び続ける研究的態度を養う。
- 5 健康の保持増進・疾病予防と治療・リハビリテーション・終末期の状態に応じた看護を実践する看護過程の基礎的能力を養う。
- 6 人々の心の反応を感じとり、受けとめ良好な人間関係を成立発展させる能力を養う。
- 7 保健医療福祉制度と他の職種との役割を理解し、チーム医療メンバーの一員として力を培うと共に看護者として自律する能力を養う。

卒業時の到達目標

- 1 看護に必要な知識と正確な看護技術及び臨地に適応出来る力
- 2 科学的根拠・論理的思考に基づいた問題解決能力
- 3 人間をその人がその人らしく、そして統合体として捉えることが出来る力
- 4 他者を思いやる誠実な人間性
- 5 チーム医療のメンバーとしてのコミュニケーション能力
- 6 自己学習力と自律する力

		授業科目	単位	時間数	1年次		2年次		3年次	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考	論理学	1	30						
		物理学	1	30						
		情報科学	1	30						
	コミュニケーション能力	人間関係論	1	15						
		発達心理学	1	30						
	人間と社会を幅広く理解できる内容	心理学	1	30						
		家族論	1	30						
		文化人類学	1	30						
		カウンセリング方法論	1	30						
		健康運動論	1	30						
		看護と英語	1	30						
		中国語	1	30						
	専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	2	60					
解剖生理学Ⅱ			2	60						
生化学			1	30						
疾病の成り立ちと回復の促進		微生物学	1	30						
		病理学	1	30						
		疾病と治療Ⅰ(呼吸器・血、造血器・アレルギー、皮膚、膠原病)	1	30						
		疾病と治療Ⅱ(循環器・運動器)	1	30						
		疾病と治療Ⅲ(腎、泌尿器・内分泌、代謝)	1	30						
		疾病と治療Ⅳ(小児・消化器)	1	30						
		疾病と治療Ⅴ(脳神経・リハビリ・女性疾)	1	30						
		疾病と治療Ⅵ(眼・耳・歯口腔・精神)	1	30						
		栄養学	1	30						
薬理学		1	30							
健康支援と社会保障制度	保健医療論Ⅰ(医学と医療の歴史)	1	15							
	保健医療論Ⅱ(公衆環境衛生)	1	15							
	社会福祉学概論	1	15							
	社会福祉法制論	1	15							
	関係法規Ⅰ(医療と法律)	1	15							
	関係法規Ⅱ(看護と法律)	1	15							
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	2	30						
		基礎看護方法論Ⅰ	2	90						
		基礎看護方法論Ⅱ	2	90						
		基礎看護方法論Ⅲ	1	45						
		臨床看護総論	2	90						
		看護研究	1	30						

授業科目			単位	時間数	1年次		2年次		3年次		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学・概論	1	15	—						
		成人看護学・方法論Ⅰ	1	15	—						
		成人看護学・方法論Ⅱ	1	45			—				
		成人看護学・方法論Ⅲ	1	30			—				
		成人看護学・方法論Ⅳ	1	30			—				
		成人看護学・方法論Ⅴ	1	15			—				
	老年看護学	老年看護学・概論	2	30			—				
		老年看護学・方法論Ⅰ	1	30			—				
		老年看護学・方法論Ⅱ	1	30			—				
	小児看護学	小児看護学・概論	2	30			—				
		小児看護学・方法論Ⅰ	1	30			—				
		小児看護学・方法論Ⅱ	1	30			—				
	母性看護学	母性看護学・概論	2	30			—				
		母性看護学・方法論Ⅰ	1	30			—				
		母性看護学・方法論Ⅱ	1	30			—				
	精神看護学	精神看護学・概論	2	30			—				
		精神看護学・方法論Ⅰ	1	30			—				
		精神看護学・方法論Ⅱ	1	30			—				
	統合分野	在宅看護論	在宅看護概論Ⅰ	1	15			—			
			在宅看護概論Ⅱ	1	15			—			
			在宅看護方法論	2	60			—			
看護の統合と実践		看護技術統合	2	60					—		
		看護管理Ⅰ	1	15					—		
		看護管理Ⅱ	1	15					—		
計			75単位	1995時間	38単位	29単位	6単位				

臨地実習進度表

専門分野Ⅰ	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	—				
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90	—				
専門分野Ⅱ	臨地実習	成人看護学実習	6	270				—	
		老年看護学実習	4	180			—		
		小児看護学実習	2	90			—		
		母性看護学実習	2	90			—		
		精神看護学実習	2	90			—		
統合分野	臨地実習	在宅看護論実習	2	90				—	
		看護の統合と実践	2	90				—	
計			23単位	1035時間	3単位	6単位	14単位		

授業科目各分野のねらいを説明します。

基礎分野 ; 人間と生活、社会を幅広く理解し人間への関心と倫理観を深めると共に、コミュニケーション能力を高める基盤を身につけます。また、人々の健康上の課題に対応するための科学的思考の基盤を身につけます。

専門基礎分野 ; 人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進、健康障害をきたした人々の病態、症状と治療の理解をします。人々が生涯を通して、健康や障害の状態に応じた社会資源の活用
の必要性を理解します。

専門分野Ⅰ ; 看護の概念や役割を学ぶ中で人間についての理解を深め、看護実践のための基礎となる看護技術を身につけます。また、対象者の生活過程を整えるという看護援助の基本を身につけていきます。

専門分野Ⅱ ; 専門領域における対象の理解を深め、看護師が生活過程を通してその生命体に働きかける援助者であることを理解し、専門領域での事例を通して、具体的な場面での看護援助を身につけます。看護技術は、看護の対象や場に応じて、繰り返しての経験ができるように工夫し、目標に即し習得できるようにします。

統合分野 ; 既習の知識を統合し、人々の健康と生活、社会との関連を理解する中で、チーム医療及び他職種との協働の中での看護師としての役割を理解します。また、複数患者を対象とした看護技術の統合を身につけます。

看護技術の学び方

看護技術とは（本校の定義）

看護技術とは、対象によってより良い看護ケアを適用するために習得する「技」の1つであり、またその技の体系のことである。つまり、ひとつの技のことも看護技術というし、その全体のことや全体を構成する仕組みも同じ看護技術という言葉で表現されている。そして、『豊かな意味合いをもつ看護技術の一つひとつについて、個人が援助者として対象にその技を十分に表現でき、説明できること』『看護学全体としては、了解可能な言葉で技の技たるゆえんや、それを理論的に説明できること』の2つの側面を持ち、かつ、両方の立場を融合させた試みを持つ技術をいう。

基礎看護技術：

基礎看護技術とは、看護師として臨床にたつ前に学生が学習しておくべき範囲の技術をいう。

診療技術：診療の技術とは、保健師助産師看護師法に基づく診療の補助業務についての技術をいう。

1年生	科目名	基礎看護学方法論Ⅰ・基礎看護学方法論Ⅱ・基礎看護学方法論Ⅲ
	学び方	学内で基礎看護技術（臨地実習に行くまでに学内で学ぶ看護技術）を身につける。学生同士又は、モデルを使って具体的な基礎看護技術を身につける。基礎看護技術は、科学的根拠に基づいた個々の技術を確実に身につけます。「理にかなった方法」で何度も反復練習し、自信が持てるようにしてください。
2年生	科目名	臨床看護総論・成人看護学・老年看護学・母性看護学・小児看護学・精神看護学・在宅看護 論臨地実習（母性看護実習Ⅰ・Ⅱ、小児看護実習Ⅰ・Ⅱ、老年看護実習Ⅰ）
	学び方	1年生時に学んだ基礎看護技術を統合して、学内でそれぞれの専門領域における患者の特性を学び、患者の状態をシミュレーションし看護技術を身につけます。看護技術は、基礎看護学での既習の個々の看護技術を統合し、疾病・障害を持った患者に対し応用する事を学びます。看護技術を患者に適した選択方法を学び、実践することです。技術に対し、反省を加え、批判を受け止め建設的に組み合わせる科学性を学びます。
3年生	科目名	臨地実習 （成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、老年看護学実習Ⅱ、精神看護学実習、在宅看護論実習、統合と実践実習）
	学び方	臨床実習では、患者と医療の目的、状況に応じて必要な知識を事前学習して、患者個人の看護技術に反映させます。その場その場の具体的な状況に応じたさまざまな判断基準を使い、技術を行う事ができるように学習します。 統合実習では、看護実践の場で患者と医療の状況に応じて必要な専門的知識を取り出して看護技術に反映させます。個々では、自己決定する力、自分で学習を進める力、判断する力、特に自己の限界を知り他者に援助を求める力が必要になります。卒業前の臨床実践能力を判定する場にもなります。

各学年の到達目標

1年	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間を解剖生理の側面、生化学の側面から理解できる 2. 人間を精神の側面から理解できる 3. 人間である自分や、他者について関心をもつことができる 4. 人を思いやる行動がとれる 5. 教師や指導者との良好な人間関係づくりができる 6. 患者と看護者との良好な人間関係を模倣する 7. 必要な情報の収集、フィジカルアセスメントを行うことができる 8. 根拠にもとづいた安全・安楽を考え、個々の基礎看護技術ができる 9. 健康を守る技術、及び単独でできる看護技術を身につける 10. 看護過程の基本要素を理解できる 11. 人間の生活の仕方をアセスメントできる 12. 自分の健康のデータを収集し評価できる 13. 生活者の視点で看護を考えることができる 14. 死とは何か、生とは何かについて関心をもつことができる 15. 学校祭を主体的に企画・運営できる 16. 自己理解、他者理解やストレス・不安・危機について基本的理解ができる 17. 職業人としての身だしなみ・言葉遣いが身につく 18. 患者の人権について考えて接することができる 19. 職業人として文章の書き方や文献の検索の方法が身につく
2年	<ol style="list-style-type: none"> 1. ラポールの形成過程がわかり、自分の行動を見つめることができる 2. 患者との良好な人間関係づくりができる 3. コミュニケーションを発展させるための共感や思いやりを持った行動がとれる 4. 家族と看護者との良好な人間関係を模倣する 5. 健康指標を用いて測定できる 6. 患者のアセスメントができ、問題点を明確にすることができる 7. 既習の知識を活用し、個々の基礎看護技術を統合できる 8. 疾病・障害をもった対象者に応じた看護技術ができる 9. 身体侵襲の著しい診療補助技術について、見学し理解できる 10. その人なりの生き方・価値観・習慣が理解できる 11. 生活の中での死について考えることができる 12. 自ら役割を見出し、自分の役割を遂行できる 13. 看護学生として責任ある行動がとれる 14. 地域社会とのつながりのなかで行動できる 15. 患者や家族及び障害者の人権について述べるができる 16. 社会人としての、プレゼンテーションの方法を身につけることができる

3年	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療チームの人々との良好な人間関係づくりができる 2. 疾病・症状をアセスメントし、優先順位を考えた看護技術を行うことができる 3. 自分の技術の能力を判断でき、他者の助けを求めることができる 4. 個別性のある看護過程を展開し援助を提供できる 5. 患者の健康教育ができる 6. 在宅の死について考えることができる 7. 自己の人間観や死生観を持つことができる 8. 災害・世界的な感染症等、国際的視点から健康を考えることができる 9. 国際感覚を身につけ異文化を受け入れる柔軟な感性を養うことができる 10. 基礎理論をもとにケース研究に課題を持って取り組むことができる 11. 自分の将来像について説明することができる 12. 専門職業人として責任のある行動がとれる 13. 専門職業人として倫理的配慮に基づいた行動がとれる 14. 看護に必要な知識と正確な看護技術を身につけることができる
----	--

基礎分野

ねらい：人間と生活社会を幅広く理解し人間への関心と倫理観を深めると共に、コミュニケーション能力を高める基盤を身につけます。また、人々の健康上の課題に対応するための科学的思考の基盤を身につけます。

教育内容	科目	単位	時間	講義形態	科目目標
科学的思考の基盤	論理学	1	30	講義 演習	1、先入観を捨てて物事を冷静かつ論理的にそして多面的に見るための思考の方法を学ぶ。 2、日常の出来事（事実）に対して、自分で考えるという力をつけ、言語化表現や、討論法を学ぶ。
	物理学	1	30	講義	1、「力」「圧力」「熱」など日常生活の工学的視点を学ぶ。 2、人体の運動力学や、医療機器の作動原理に関する基礎知識を理解する。
	情報科学	1	30	講義 演習	1、情報科学の基礎知識や情報整理について学び科学的思考を身につける。 2、情報と社会の関連について考え、臨床現場に生かす医療情報システムや病院情報システムを理解する。
人間と生活・社会の理解	人間関係論	1	15	講義	1、仕事のストレスをどのように捉えるかの学習を深める 2、自分自身でストレスを捉えることができ、調査票、観察法など多様な方法で測定する方法を学び判定できるようになる 3、仕事のストレスと関連する疾患（心疾患、うつ等）について理解を深める
	発達心理学	1	30	講義	1、看護の対象を「一生発達し続ける存在」として捉え、心理的発達が、乳幼児期から老年期までのライフサイクルの中で密接に関連していることを理解する。
	心理学	1	30	講義	1、人間の心や行動を理解するための学問であるが、学生が自己をよく理解するためと患者の心理をよく理解するための2つの目的がある。ここでは心理学の入門として、人間の心理や行動の基礎にある原理を学ぶ。
	家族論	1	30	講義	1、わが国の家族は、少子・高齢化が進む中で育児不安や離婚の増加、高齢者のケアなど諸問題に直面している。このような中で、家族の構造や機能を含めて家族とはなにかについて考える。社会的要因の家族への影響や家族支援など看護師に求められる看護ケアの進め方を学ぶ。
	文化人類学	1	30	講義	1、文化によって異なる家族や宗教などのさまざまなあり方を学習し、異文化の存在や新しい視点を理解する。 2、人間の身体や死や誕生といった状況の意味が大きく変化する

教育内容	科目	単位	時間	講義形態	科目目標
					る現代にあつて、身体観・病気観・死生観を養う第一歩とする。
	カウンセリング方法論	1	30	講義 演習	1、私たちは社会生活をしていく中で、自分では処理しきれない困難や悩みに出会うことがある。そのようなときに、クライアントとカウンセラーの人間関係をもとに問題解決を試みようとする。言語的・非言語的コミュニケーションを通して相手の行動の変容を試みる人間関係の方法を知ること、受容と共感について学ぶ。
	健康運動論	1	30	講義 演習	1、看護は健康障害時の援助のみならず、健康の保持増進にも重要である。運動・スポーツを中心とした健康づくりの理論と方法について学ぶ。 2、各健康レベルに応じた援助ができるようにすると共に、運動・スポーツの特性に触れ、生涯にわたって運動に親しめる能力を養う。
	看護と英語	1	30	講義 演習	1、看護の文献「看護覚書」を講読することで、看護の本質に近づく。 2、楽しみながら英語力を培い、異文化を理解する。
	中国語	1	30	講義 演習	1、私達の住むアジアの中で特に関係の深い中国の日常会話や歴史物語、漢詩を学ぶ中で異文化理解を深める。
	人権論	1	30	講義	1、社会学的なものの方や考え方を身につけ、偏見や感情や自分の立場に支配されずに現実を見る目を養う。
	職業の倫理	1	15	講義	1、人間としてのあるべき姿、道徳的感受性や倫理の理論を学び、現代の課題を考えるとともに、職業倫理としての社会的意味を学ぶ中で、共感と思いやりの理論を学ぶ。

専門基礎分野

ねらい：人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進健康障害をきたした人々の病態、症状と治療を理解します。又、人々が生涯を通して、健康や障害の状態に応じた社会資源活用の必要性を理解します。

教育内容	科目	単 位	時 間	講義形 態	科目目標	
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	2	60	講義 演習	1、看護に必要な人体の構造（解剖）と機能（生理）について系統立てて理解し、健康、疾病に関する観察力を養い、人間を対象とした看護に応用できる基礎的能力を身につける。 2、人体の構成成分である化学物質の性状及び分布、代謝について学び、健康や疾病のメカニズムを判断できる力を養う。
		解剖生理学Ⅱ	2	60		
		生化学	1	30	講義	
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1	30	講義	1、微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解し、その対応について学ぶ。 2、近年の感染症の特徴（新興・再興感染症、国境なき感染症、動物由来感染症）について学習し観察力を高め判断力を養う。
		病理学	1	30	講義	1、疾病になる原因を探り、疾病によって患者の身体に生じている変化を明らかにし、診断や予防において観察力を高め判断力を養う。
		疾病と治療Ⅰ	1	30	講義	1、呼吸器疾患・アレルギー疾患、血液・造血器疾患、膠原病、皮膚疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。
		疾病と治療Ⅱ	1	30	講義	1、循環器疾患、運動器疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。
		疾病と治療Ⅲ	1	30	講義	1、腎・泌尿器疾患、内分泌・代謝疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。
		疾病と治療Ⅳ	1	30	講義	1、小児疾患や消化器疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。
		疾病と治療Ⅴ	1	30	講義	1、脳神経疾患、リハビリテーション、女性疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。
疾病と治療Ⅵ		1	30	講義	1、眼科疾患、耳鼻咽喉器疾患、歯科口腔疾患、精神疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。	
栄養学		1	30	講義 演習	1、生体に必要な栄養素のはたらきを理解する。 2、食事の重要性や食生活に伴う健康問題について学び臨床で活用できる知識を養う。	

教育内容	科目	単位	時間	講義形態	科目目標
健康支援と社会保障制度	薬理学	1	30	講義	1、薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び薬物の管理について理解し臨床で活用できる。
	保健医療論Ⅰ	1	15	講義	1、人々が生涯を通じて健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できる必要な知識を学ぶ。 2、保健医療に関する基本概念・関係制度から関係職種役割を理解する。
	保健医療論Ⅱ	1	15	講義	1、健康の保持増進や疾病予防のための基礎として公衆衛生を学び、保健医療に関する基本概念を学ぶ。
	社会福祉学概論	1	15	講義	1、社会福祉の変遷や基本理念・概念を理解し、社会保障制度の内容とその背景を理解する。 2、人々が生涯を通じて健康や障害の状況に応じて社会資源を活用できるように必要な知識と基本的能力を養う。
	社会福祉法制論	1	15	講義	1、社会福祉の法制度及びその活用方法を理解し、臨床現場での他職種との連携に役立てることができる。
	関係法規Ⅰ	1	15	講義	1、法律の基礎を学び、人間の生活と健康との関係について理解する。
	関係法規Ⅱ	1	15	講義	1、看護職に必要な法令を学び、看護業務及びその法的責任について理解する。

専門分野Ⅰ

ねらい：看護の概念や役割を学ぶ中で人間についての理解を深め、看護実践のための基礎となる看護技術を身につけます。又、対象者の生活過程を整えるという看護援助の基本を身に付けて生きていきます。

教育内容	科目	単位	時間	講義形態	科目目標
専門分野Ⅰ 基礎看護学	看護学概論	2	30	講義	1、「看護」「健康」「人間」「環境」を看護に活用できるように基本要素を学ぶと共に意義を理解する。 2、看護の対象や看護の場、看護倫理、看護システム、看護の国際化の学びを通し、実際の看護活動や今後の看護のあり方について考える。
	基礎看護学方法論Ⅰ	2	90	講義 実験 実習	1、科学的な根拠に基づいた看護技術を習得する。 2、コミュニケーション、フィジカルアセスメントを強化し看護過程を学び実践のための基礎技術を習得する。 3、事例を通し看護技術を適用する方法を学ぶ。
	基礎看護学方法論Ⅱ	2	90	講義 実験	1、健康生活の維持や疾病回復の過程を「生活する視点」から諸科学を結びつける形で援助を捉える。

教育内容	科目	単位	時間	講義形態	科目目標
基礎看護学				実習	2、看護の対象の生活過程を整えるため、その援助方法を習得する。
	基礎看護学 方法論Ⅲ	1	45	講義 実験 実習	1、診療、検査・治療処置をうける患者への援助及び診療補助技術が身体に及ぼす影響を理解する。 2、患者への安全な看護技術の援助方法を身につける。
	臨床看護総論	2	90	講義 実験 実習	1、さまざまな健康上のニーズをもつ人々に、既習の個々の看護技術を統合し、主要症状別看護、経過別看護で疾病・障害をもった患者に対しての看護技術の応用を学ぶ。
	看護研究	1	30	講義 演習	1、看護における研究の意義・役割を理解し、文献検索の重要性と積極的活用を学ぶと共に、研究の方法についての基本的知識を習得する。

専門分野Ⅱ

ねらい：専門領域における体調の理解を深め、看護師が生活過程を通してその生命体に働きかける援助者である事を理解し、専門領域での事例を通して、具体的な場面での看護援助を身につけます。

教育内容	科目	単位	時間	講義形態	科目目標
専門分野Ⅱ 成人看護学	成人看護学概論	1	15	講義	1、青年期以降50年間にわたる成人期にある人々の生活が時代と共に様変わりすること、及びライフサイクルにおける対象を理解し、成人期の特徴、成人保健の動向や成人期の健康問題を学ぶ。
	成人看護学方法論Ⅰ	1	15	講義	1、社会の中核となる成人期のさまざまな健康レベルにある人々を支える看護のあり方を学び、身体的精神的社会的に複雑な様相を呈する成人の健康状態に焦点を合わせて、健康生活を促す看護を学ぶ。
	成人看護学方法論Ⅱ	1	45	講義 実験 実習	1、急性期にある患者の特徴を理解し、手術療法をうける患者への看護援助や生命の危機的状況にある患者への看護援助を学ぶ。 2、救急看護における知識・技術・態度を学び、看護過程を通し臨床実践能力の向上を図る。
	成人看護学方法論Ⅲ	1	30	講義 演習	1、身体の喪失や身体機能の障害をもつ人の、回復期の患者を理解し、その人らしく生活できるための生活過程を整える知識・技術・態度を学ぶ。 2、事例を通し臨床実践能力の向上を図る。

教育内容	科目	単位	時間	講義 形態	科目目標
	成人看護学 方法論Ⅳ	1	30	講義 演習	1、長期にわたって治療を必要とする慢性疾患をもつ患者の、 生涯疾病と共に生活するためのマネジメントが出来るよ うな看護援助に必要な知識・技術・態度を学ぶ。 2、看護過程の展開を通して臨床実践能力を図る。
	成人看護学 方法論Ⅴ	1	15	講義	1、がん等の治療困難な疾病を持つ患者の終末期の苦痛を理 解し、がん看護における緩和ケアを学ぶ。 2、生命の尊厳やQOL等、倫理的配慮を含め事例を通して学 ぶ。
老 年 看 護 学	老年看護学概 論	2	30	講義 演習	1、老年看護学の概念を理解し、加齢に伴う身体的・生理的・ 社会的変化を理解する。 2、高齢化社会の現状やライフスタイル、ニーズを理解し、 老年看護の対象、目的、役割について学ぶ。
	老年看護学 方法論Ⅰ	1	30	講義 演習	1、老年期の健康状態を疾病と老化の側面から把握し、生活 機能の観点からアセスメントすることで看護を展開する 方法を学ぶ。
	老年看護学 方法論Ⅱ	1	30	講義 演習	1、健康障害のある老年者を理解し、疾病予防・健康の回復・ 保持増進の視点を含め、看護過程の展開を通し看護実践 能力を養う。
小 児 看 護 学	小児看護学概 論	2	30	講義	1、小児看護の特徴、小児各期の生活と環境について理解し、 健康な小児の日常生活の保持・増進さらに小児看護の目 的、役割、機能について学ぶ。 2、健康障害が小児と家族に与える影響を理解し予防、健康 の回復及びよりよい成長・発達への看護支援を学ぶ。
	小児看護学 方法論Ⅰ	1	30	講義 演習	1、健康障害が小児及び家族に及ぼす影響を理解し、小児の 症状・検査・処置に応じた看護援助の方法と看護アセス メントを学ぶ。 2、小児と家族のおかれた環境、生活に適応できるための援 助を理解する。
	小児看護学 方法論Ⅱ	1	30	講義 演習	1、小児の疾病・障害の病態を理解し、健康障害に応じた看 護を理解する。 2、小児の成長・発達をふまえたアセスメント力を高め、健 康問題を理解する中で臨床実践能力の向上を図る。
	母性看護学概 論	2	30	講義	1、母性看護の対象を理解し、母性看護の意義を学ぶ。 2、母性を取り巻く社会情勢と法制度、母子保健の動向を理 解し母性看護の役割を学ぶ。

教育内容		科目	単位	時間	講義形態	科目目標
専門分野Ⅱ	母性看護学	母性看護学方法論Ⅰ	1	30	講義 演習	1、妊娠・分娩・産褥期における対象理解と健康の保持増進の看護を学ぶ。 2、新生児の看護と保健指導の意義を理解する。
		母性看護学方法論Ⅱ	1	30	講義 演習	1、産褥期の看護、正常分娩の経過からハイリスクな状況の人々の分娩経過とその看護を学ぶ。 2、新生児の看護と産後の保健指導を理解し看護過程の展開を通して臨床実践能力の向上を図る。
	精神看護学概論	2	30	講義	1、精神の健康の保持増進と、健康障害時の看護を理解する。 2、人間の心の健康と精神障害者を理解し生活の場及び精神の健康問題について考え、ストレスの状況と危機の状況に対する適切な危機介入や精神保健活動を通し精神看護の意義・役割・機能について学ぶ。	
	精神看護学方法論Ⅰ	1	30	講義 演習	1、精神を病む人への看護援助を学ぶ中で、精神看護師の役割及び知識・技術・態度を理解し対象に応じた援助を学ぶ。	
	精神看護学方法論Ⅱ	1	30	講義 演習	1、患者と看護者関係を築いていく上で必要な自己理解、他者理解のための知識・技術・態度を学ぶ。 2、精神障害の特徴的な症状とその看護を理解する。	

統合分野

ねらい：既習の知識を統合し、人々の健康と生活、社会との関連を理解する中で、チーム医療及び他職種との協働の中での看護師としての役割を理解する。又、複数患者を対象とした看護技術の統合を身につけます。

教育内容		科目	単位	時間	講義形態	科目目標
在宅看護論	在宅看護概論Ⅰ	1	15	講義	1、地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し在宅での看護の基本概念を学ぶ。 2、在宅看護を取り巻く社会の現状や時代背景及び歴史的変遷を学び、在宅看護の意義や目的、更に他職種との連携を理解する。	
	在宅看護概論Ⅱ	1	15	講義	1、在宅看護の対象となる人とその家族を理解し在宅で療養する看護の実際を学ぶ。 2、療養者が生活する地域の特徴と地域が療養者、家族に及ぼす影響が理解できる。	

教育内容		科目	単位	時間	講義 形態	科目目標
統合分野		在宅看護 方法論	2	60	講義 演習	1、在宅看護を実施する上で必要とされる実践に必要な知識・技術、態度を実践的に習得する。 2、事例を通して、在宅看護における看護過程の展開方法を学ぶ。
	看護の 統合と 実践	看護技術統合	2	60	講義 演習	1、臨地に近い状況で看護を学び複数患者を受け持ち、優先順位を判断し実施することができる判断力と日常生活技術を習得する。 2、医療機器を装着している患者の観察と判断力・マネジメント力・実践のためのコミュニケーション能力を学ぶ。看護技術の総合的評価を行う。
		看護管理Ⅰ	1	15	講義	1、既習の知識・技術・態度を統合し望ましい臨床実践マネジメント基礎能力を身につける。 2、チーム医療及び他職種との協力の中で看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解する。
		看護管理Ⅱ	1	15	講義	1、災害直後から支援できる看護の基礎知識を理解すると共に医療安全の臨床に近い体験を事例を用いて認識を高める。 2、国際社会において看護師として諸外国との協力を考えることを目的に異文化を理解しとの看護交流を学ぶ。

臨地実習

ねらい：学内で学んだ知識・技術を看護実践の場に適応し、科学的根拠・論理的思考に基づき、対象者を生活者として捕らえた上で、対象者個々に応じた看護を判断し、提供できる臨床実践能力を身につけます。

教育内容		科目	単位	時間	講義 形態	科目目標
専門 分野 Ⅰ		基礎看護学 実習Ⅰ	1	45	実習	1、学内での既習の基礎看護技術を踏まえて、患者の身体診査、日常生活援助を実践する。
		基礎看護学 実習Ⅱ (Ⅱ-①、②)	2	90		1、マジョリー・ゴードンの理論を用い、健康上の問題をもつ患者の身体アセスメントを行い、看護実践のプロセスを学ぶ。
		成人看護学 実習Ⅰ	2	90		1、その人らしい生活過程を整えるために、成人期に健康障害をきたした患者の急性期、回復、リハビリ期・慢性期の看護の特徴と看護の実際を看護理論と結びつけ、看護過程を展開する。

教育内容	科目	単位	時間	講義 形態	科目目標	
専門分野Ⅱ	実習	成人看護学 実習Ⅱ	2	90		1、成人Ⅰ実習内容に加えて、各病期における患者の家族への援助を深め看護アセスメント能力を高める。 2、可能であれば、終末期の患者も受け持ち患者の対象とする。 3、看護過程では対象の個性、目標の明確化、患者に応じたケアを看護理論と結びつける。
		成人看護学 実習Ⅲ	2	90		1、成人Ⅱ実習内容に加えて、患者個々に適した問題解決の力をつけることを目指す。 2、保健医療福祉チームの機能を理解し、医療チームの人々との連携・協働を学ぶ。
		老年看護学 実習Ⅰ	1	45		1、生活する高齢者をアセスメントする。 2、家庭での治療の継続と、充実した生活を送るために必要な援助について考える。 3、高齢者の人生の価値観をまなぶ。
		老年看護学 実習Ⅱ	1	45		1、施設に入所する高齢者を理解し、家族への支援の必要性を学ぶ。 2、高齢者に対して安全な看護技術の実施を行う。 3、高齢者ケアシステムを理解し、他職種との連携・協働の実際を学ぶ。
		老年看護学 実習Ⅲ	2	90		1、高齢者の意思を尊重し「意図的行動」への支援について学ぶ。 2、看護の実際をセルフケア理論と結びつけ、看護過程を展開し、臨床実践能力を高める。
		小児看護学 実習Ⅰ	1	45		1、小児各期の成長・発達に応じた健康な日常生活の援助を理解する。 2、地域における子どもの健康管理と継続看護の機能を学ぶ。
		小児看護学 実習Ⅱ	1	45		1、健康障害が患児と家族に及ぼす影響を理解する。 2、入院中の患児と家族の看護上の問題を理解する。 3、子どもに対し安全で安楽な援助技術を実践する。
		母性看護学 実習Ⅰ	1	45		1、ハイリスク妊娠、分娩、産褥の母親のアセスメントをし、看護上の問題を理解する。 2、ハイリスク新生児の生理的特徴と起こりやすい健康問題を理解する。
		母性看護学 実習Ⅱ	1	45		1、正常な妊娠、分娩、産褥の母親のアセスメントをし、援助方法を学ぶ。

教育内容		科目	単位	時間	講義形態	科目目標
						<ul style="list-style-type: none"> 2、新生児のアセスメントをし、援助方法を学ぶ。 3、母親としての自覚を高める援助や、家族の支援の方法を学ぶ。 4、母性看護の技術を学ぶ。
		精神看護学 実習	2	90		<ul style="list-style-type: none"> 1、患者との関わりを通して自己理解を深め、コミュニケーション技術を学ぶ。 2、精神に健康障害のある一人の人間を理解する。 3、精神障害が日常生活に及ぼす影響と対象にあわせた援助のアセスメントを学ぶ。 4、精神症状のアセスメントを学ぶ。
統合分野	実習	在宅看護論 実習	2	90		<ul style="list-style-type: none"> 1、地域で療養しながら生活する人とその家族を理解する。 2、療養者と家族の自立、生活の質の向上を支援するための基礎的能力を高め、培う。 3、療養者と家族への権利保障（人権尊重・倫理的配慮）について考え行動する。
		看護の統合と 実践実習	2	90		<ul style="list-style-type: none"> 1、看護のリーダーシップ・メンバーシップを体験し、実務に即した学習をする。 2、複数患者を受け持つ事により、看護マネジメントを体験する。 3、診療の補助技術を見学及び経験する。 4、夜間実習を体験する。 5、自己の課題を明らかにし、自分の将来像について述べる。 6、自己が判断できることと判断できないことの区別ができるようにする。

教育内容別、教科外活動時間数

目的			1年	2年	3年	
1、社会に適応する能力を養う。	入学式		入学に際し看護学生としての自覚と誇りをもつ。	2		
	戴帽式		看護を志すものとして役割と責任、誇りを自覚すると共に、今後の学習への動機づけとする。	2		
	卒業式		専門職業人として、社会の中で貢献する事への自覚をもつ。	2	2	2
2、探究心を刺激し、主体的行動を支援する。	研究指導	64	学生の基礎能力に応じ、基本となる知識及び方法を身につける。	6	12	46
	オリエンテーション	62	看護への興味・関心を示し、主体的学習の動機づけとする。	26	8	28
	学校祭及び自治活動	54	主体的活動を通して、人間関係・コミュニケーション・自主性・創造性を養う。 地域との交流を深め、社会に還元する力や感性を養う。 さまざまな芸術文化に触れ、人としての常識・礼節を学び、豊かな感性、創造性を育む。 生活の中に必要な個人そして人と人との関係におけるコミュニケーションを学ぶ。	20	22	12
	健康診断	6	自己の健康に関心を持ち、健康管理の重要性を理解する。	2	2	2
	特別講義	18	豊かな人間性を育むとともに、人権意識を高め、社会人としての責任感を身につける。医療英語を楽しむ。	2	8	8
	防災訓練	6	災害時の対応の仕方を学ぶ。集団としての防災活動と個人としての役割を訓練を通して学ぶ。	2	2	2
	合計	220		64	56	100

令和2年度 学年歴

行 事	学 年	予 定 日
入学式	1	令和2年4月9日(木)
入学時オリエンテーション	1	令和2年4月10日(金) 4月13日(月)
健康診断	全	1年生 令和2年4月28日(火) 2年生 令和2年4月16日(木) 3年生 令和2年4月6日(月)
てふてふ祭(学校祭)	全	中止
防災訓練	全	令和2年6月10日(水)
宿泊研修	1	令和2年11月20日(金)～11月21日(土)
夏季休業	全	令和2年7月27日(月)～9月4日(金)
戴帽式	1	令和2年10月29日(木)
冬季休業	全	令和2年12月22日(火)～令和3年1月4日(月)
看護学会	2	未定
運動会(学校祭)	全	令和3年 2月18日(木)
国家試験	3	令和3年2月14日(日)予定
卒業式	全	令和3年3月4日(木)
春季休業	全	令和3年3月19日(金)～4月1日(木)

授業科目	論理学	講師名	末吉 康幸		開講年次:1年次前期	
			単位	時間数	1	30時間(試験含)
			ねらい	先入観を捨てて物事を冷静かつ論理的にそして多面的に見るための思考の方法を学び、日常の出来事(事実)に対して、どのような推理が可能なのか、体系的に考えられる力を養う。		
授業計画						
單元名	教育内容				時間	方法
1. 否定	① 両立可能・対立・否定 ② 全称(非存在)文と特称(存在)文・ドモルガンの法則 ③ 否定練習問題				30	講義
2. 条件構造	① 条件文の意味と構造 ② 条件文と推論 ③ 条件構造練習問題					
3. 推論の技術	① 全称文と特称文の推論・消去法 ② 背理法 ③ 推論の技術練習問題					
4. 論証の構造	① 前提と帰結					
5. 論証図式	① 複合論証 ② 隠された前提や結論					
6. 論証の評価	① 演繹的論証と帰納的論証 ② 複合論証の評価 ③ 論証の評価練習問題					
7. 試験						
評価方法及び 評価基準	筆記試験 80点 演習レポート 20点					
テキスト	講師作成					
参考文献	「新版論理トレーニング」 野矢茂樹 (産業図書)					

授業科目	物理学	講師名	大久保 博		開講年次：1年次前期～後期	
			単位	時間数	単位	時間数
			1	30時間(試験含)		
ねらい	「力」「圧力」「熱」など身の回りの現象を物理の視点で理解する。又、人体の運動力学や医療機器の動作原理に関する基礎知識を学ぶ。					
授業計画						
単元名	教育内容				時間	方法
1. 運動と力	①運動の法則 ・位置、速度、加速度 ・ニュートンの運動の法則 ・エネルギー ②物を支える姿勢と力 ・力のモーメント ・体位変換 ③姿勢と安定性 ・重力と重心 ・重心の高さと接地面積 ④血圧計 ・圧力 ・水圧 ⑤吸引器				10	講義
2. 熱	①身体の保温と冷却 ・温度と熱 ・熱の伝わり方 ②物質の三態と熱				4	
3. 音と光	①波の性質 ②聴診器 ③超音波エコー ④光の性質 ⑤パルスオキシメーター				4	
4. 電気と磁気	①電気機器の安全性 ・電気の基本法則 ・電流 ②AEDの原理 ③磁気と交流電流				6	
5. 放射線	①放射線の正体 ・放射線の発生 ・放射線の単位 ②放射線が生体に及ぼす影響				4	
6. 試験					2	
評価方法及び評価基準	筆記試験 100点					
テキスト	豊岡 了編 「物理学」医学書院 2020年					
参考文献						

授業科目	発達心理学	講師名	穴井 千鶴	開講年次: 1年次後期	
				単位	時間数
				1	30時間(試験含)
ねらい	看護の対象を「一生発達し続ける存在」として捉え、心理的発達がライフサイクルの中で密接に関連していることを理解する。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
1、講義のガイダンス	① 授業の進め方・評価方法の確認 ② 発達心理学の概要			2	講義
2、発達理論	① 発達理論と歴史 ② 発達段階			2	
3、胎児期・新生児期	① 胎内で聞こえる母親の声 ② 胎児に害があるアルコール、タバコ ③ 赤ちゃんの性格の違い ④ 生まれたときにある力			2	
4、乳児期	① 微笑みと人見知り ② 言語の芽としての喃語 ② 子どもは親から学ぶ ④ 乳児の遊びの意味			2	
5、幼児期前期	① 親の言葉を真似して覚える言葉 ② 言葉を覚えはじめる時 ③ ものを見立てる遊び ④ 自分に目覚める			2	
6、幼児期後期	① 論理的に考える時期 ② 言葉の上達 ② ごっこ遊び ④ 自分の特徴を友達と比べて理解する			2	
7、児童期	① 学校への適応 ② 劣等感が生まれる ③ 科学的なものの考え方			2	
8、思春期	① 思春期の特徴 ② 第2次性徴 ③ 自分の身体の変化へのとまどい ④ 自分の身体の変化を受け入れる			2	
9、青年期の心の発達	① 自我同一性 ② エリクソンの発達理論			2	
10、成人初期	① どう生きていくべきか ② 初恋から始まる ③ 職業、パートナー選択			2	
11、成人中期	① 成人期のライフコース ② 子育ての楽しさ つらさ ③ 働く意味 仕事のやりがい			2	
12、成人後期	① 中年の危機 ② いつ起こる子離れ ② 退職後の人間関係の変化			2	
13、老年期	① 祖父母にとっての孫 ② 高齢期の健康 ③ 老年の生きがい ④ 人生を回顧する ⑤ 死をどう考えているか			2	
14、発達を援助する	● 近年の発達トピックスの解説			2	
15、試験				2	
評価方法及び 評価基準	筆記試験 70点 演習レポート 30点				
テキスト	無藤隆「よくわかる発達心理学」第2版ミネルヴァ書房				
参考文献					

授業科目	心理学	講師名	岡村尚昌		
			開講年次：1年次前期		
			単位	時間数	
ねらい	人間の心理学的な認知・行動・パーソナリティに対する基礎的な知識を理解し学生の自己理解や患者理解の基礎理論を学ぶ。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
1. 心理学の発展	①心理学の対象 ②心の見方の歴史 ③心理学の研究方法			2	講義
2. 知覚の心理	①知覚の成立 ②知覚の種類 ③知覚研究の応用			2	
3. 記憶の心理	①記憶の諸相 ②忘却の心理 ③記憶のくふう			2	
4. 思考・想像・言語の心理	①思考作用 ②思考力の発達 ③創造性 ④想像の心理 ⑤言語の心理			4	
5. 知能の心理と知能検査	①知能の心理 ②知能検査			4	
6. 学習の心理	①学習理論 ②学習に影響する条件 ③練習の心理			2	
7. 感情・情緒・情操の心理	①感情の心理 ②情緒の心理 ③情操の心理 ④気分 ⑤情緒障害			2	
8. 適応の心理	⑥感情・情緒の異常 ①人と環境の心理 ②適応・不適応 ③適応の機制			2	
9. 性格の心理と性格検査	①性格の形成 ②性格の理解			4	
10. 集団の心理	①集団の形成と機能 ②群集心理 ③世論 ④コミュニケーション			2	
11. 発達の心理	①発達の原理 ②発達段階の特徴			2	
12. 試験				2	
評価方法及び評価基準	筆記試験 100点				
テキスト	講師作成				
参考文献	シリーズ医療の行動科学Ⅰ 北大路書房				

授業科目	文化人類学	講師名	業山 アツコ		開講年次:1年次前期	
			単位	時間数	30時間(試験含)	
					1	
ねらい	文化によって異なる家族や宗教などのさまざまなあり方を学習し、異文化の存在や新しい視点の獲得につなげる。又身体観・病気観・死生観を養う第一歩とする。					
授業計画						
単元名	教育内容				時間	方法
1. 人間と文化	① 文化共生社会—何故異文化理解が必要か				4	講義
2. 人生と時間	①通過儀礼とは何か ②通過儀礼をめぐる議論(1) 女子割礼 ③ 通過儀礼をめぐる議論(2) 女子割礼				4	
3. 異文化理解	①異文化理解は難しい(1) 日本のイルカ漁、欧米の描き方 ②文化理解は難しい(2) 日本のイルカ漁、地元の反応				4	
4. 人と人とのつながり	④ 生殖、生、ジェンダー ⑤ 性をめぐる問題(1) ⑥ 性をめぐる問題(2)				4	
5. 身体・病気・治療	⑦ 文化と病気観(1)—病気概念 ⑧ 文化と病気観文気観(2)—伝統的医療と現代医療				4	
6. 人間と死	⑨ 死の判定、死の成立 ⑩ 死者儀礼—「チベット死者の書」 ⑪ 現代と死				4	
7. 試験	⑬試験				2	
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100点					
テキスト	講師紹介					
参考文献						

授業科目	看護と英語	講師名	井浦 葉子		開講年次:1年次前期	
			単位	時間数	単位	時間数
			1	30時間(試験含)		
ねらい	グローバル化が進む現代社会において、国際交流はこれまで以上に活発化している。看護の分野においても、自国の文化を知り、他国の文化を説教的に学ぶことが求められている。基本的な英語の習得に加え、近代的な看護理念の発展に尽力したフローレンス・ナイチンゲールの母国である英国の文化に触れることで、他国の文化に対する理解を深め、国際感覚を身につけることを目指す。					
授業計画						
教育内容					時間	方法
1. Notes on Nursing: what it is, and what it is not テキストの精読を通してナイチンゲールの看護理念を読み解く					28	講義 演習
2. 各種プリントを用いて、基本的な英文法の復習を行う。						
3. ① 参考文献や資料を用いて、ヴィクトリア朝の時代背景を学ぶ ② 西洋の文化に関する解説を行う ③ 英語の文献に触れる機会をもてるようにする ④ 医療関係の英語を覚えて使えるようになる。						
4. テキスト、および配布したプリントから問題を作成する					2	
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100点					
テキスト	原文 看護覚書 現代社					
参考文献	講義で講師が紹介					

授業科目	解剖生理学 I	講師名	首藤 隆秀	
			開講年次: 1年次前期	
			単位	時間数
			2単位	60時間(試験含)
ねらい	看護に必要な人間の「構造」と「機能」について系統立てて理解し、健康、疾病に関する観察力を養う。			
授業計画				
単元名	教育内容	時間	方法	
1章: 解剖生理の基礎知識	①人体の素材としての細胞、組織 ②構造と機能	4	講義	
2章: 栄養の消化と吸収	①口・喉頭・食道の構造と機能 ②腹部消化管の構造と機能 ③膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 ④腹膜	14		
3章: 呼吸と血液のはたらき	①呼吸器の構造と機能 ②呼吸 ③血液	28		
4章: 血液の循環と調節	①循環器系の構成 ②心臓の構造 ③心臓の拍出機能 ④末梢循環系の構造 ⑤血液の循環の調節 ⑥リンパとリンパ管			
5章: 体液の調節と尿の生成	①腎臓の構造と機能 ②排尿路 ③体液の調節	16		
試験				
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100点 試験時間は90分です。			
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院 2020年版			
参考文献				
備考				

授業科目	解剖生理学 II	講師名	首藤 隆秀		
			開講年次：1年次後期		
			単位	時間数	
ねらい	看護に必要な人間の「構造」と「機能」について系統立てて理解し、健康、疾病に関する観察力を養う。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
6章：内臓機能の調節	①自律神経による調節 ②内分泌系による調節 ③内分泌腺と内分泌細胞 ④ホルモン分泌の調節			12	講義
7章：からだの支持と運動	①骨格とは ②骨の連結 ③骨格筋 ④体幹の骨格と筋 ⑤上肢の骨格と筋 ⑥下肢の骨格と筋 ⑦頭頸部の骨格と筋 ⑧筋の収縮			10	
8章：情報の受容と処理	①神経系の構造と機能 ②脊髄と脳 ③脊髄神経と脳神経 ④脳の高次機能 ⑤運動機能と下行伝導路 ⑥感覚機能と上行伝導路 ⑦眼の構造と視覚 ⑧耳の構造と聴覚、平衡覚 ⑨味覚と臭覚 ⑩疼痛			22	
9章：外部環境からの防御	①皮膚の構造と機能 ②生体の防御機構 ③体温調節			10	
10章：生殖、発生と老化の仕組み	①男性生殖器 ②女性生殖器 ③受精と胎児の発生 ④成長と老化			10	
解剖生理学グループワーク					
試験					
評価方法及び評価基準	筆記試験90点 試験は、90分です 解剖生理学グループワーク10点(グループワーク発表・小テスト) *小テストを受験する事とグループワーク及び発表に参加しなければ解剖生理学IIの単位は認めません。 グループワーク発表は、ルーブリック評価でグループ評価をします				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院 2020年版				
参考文献					
備考					

授業科目	生化学	講師名	大沼 雅明	開講年次:1年次前期	
				単位	時間数
				1	30時間(試験含)
ねらい	人体の構成成分である化学物質の性状及び分布、代謝について学び、健康や疾病のメカニズムを判断できる力を養う。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
1. 生化学を学ぶための基礎知識	①生化学とは ③生命とは	②生体の化学の基礎知識 ④細胞の構造と機能	2	講義	
2. 代謝の基礎と酵素・補酵素	①代謝と生体エネルギー ③補因子	②酵素の基礎知識 ④ビタミン	2		
3. 糖質の構造と機能	①糖質とは ③二糖の構造と機能	②単糖の構造と機能 ④多糖の構造と機能	2		
4. 糖質代謝	①糖質の消化と吸収 ③グリコーゲン代謝 ⑤ペントースリン酸回路	②グルコースの分解 ④糖新生 ⑥糖質代謝に関する遺伝疾患	2		
5. 脂質の構造と機能	①脂質とは ③リポタンパク質	②脂質の種類	2		
6. 脂質代謝	①脂質の消化と吸収 ③脂質の合成	②脂肪酸の分解 ④脂質代謝に関する遺伝疾患	2		
7. タンパク質の構造と機能	①タンパク質とは ③タンパク質の構造	②アミノ酸	2		
8. タンパク質代謝	①タンパク質の消化と吸収 ③非必須アミノ酸の合成	②アミノ酸の分解	2		
9. ポルフィリン代謝と異物代謝	①ポルフィリン ③活性酸素とその除去反応	②生体異物代謝	2		
10. 遺伝子と核酸	①遺伝情報 ③核酸の構造と機能	②遺伝子の基礎知識 ④核酸の代謝	2		
11. 遺伝子の複製・修復・組換え	①DNAの複製 ③DNAの組換え	②DNAの修復	2		
12. 転写	①転写とは ③転写の終結・プロセッシング	②転写の開始とRNAの伸長 ④遺伝子の発現制御	2		
13. 翻訳と翻訳後修飾	①翻訳の概要 ③翻訳後修飾	②翻訳のメカニズム	2		
14. シグナル伝達	①シグナル伝達の概要 ③内分泌の生化学的基盤	②細胞内シグナル伝達の機序	2		
15. がん	①がんの性質 ③がん遺伝子	②細胞周期とがん ④がん抑制遺伝子	2		
6. 試験				2	
評価方法及び評価基準	筆記試験 100点				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体構造と機能[2] 生化学 医学書院 2020年				
参考文献					

授業科目	微生物学	講師名	濱田 信之		開講年次:1年次前期	
			単位	時間数	単位	時間数
			1	30時間(試験含)		
ねらい	微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解し、その対応について学ぶ。更に近年の感染症の特徴(新興・再興感染症、国境なき感染症、動物由来感染症)について学習し観察力を高め判断力を養う。					
授業計画						
単元名	教育内容				時間	方法
1. 微生物学の確立	① 自然発生説の否定と感染症の概念の成立 (パスツールの業績及びコッホの条件)				2	講義
2. 感染と発症	② 感染症の原因としての微生物(細菌、ウイルス、真菌、寄生虫)				2	
3. 感染と免疫	① 感染成立の要因(感染源、感染経路、感受性個体)と発症 ② 急性感染と持続感染 ③ 常在微生物叢 ④ 母子感染、人獣共通感染症				2	
4. 細菌の特徴	① 免疫の特徴(食べる、殺す、つくる) ② 免疫担当細胞と免疫応答 ③ 感染防御免疫 ④ アレルギーと自己免疫病				2	
5. グラム陽性菌の病原性	① 細菌の分類基準(グラム染色(陽性、陰性)、形態(球菌、桿菌、らせん菌)と構造 ② どうやって病原性を発揮するか。 ③ 培養(重要な性質:好気性、通性嫌気性、偏性嫌気性)				2	
6. グラム陰性菌の病原性	① 球菌(黄色ブドウ球菌、レンサ球菌、肺炎球菌) ② 桿菌(ジフテリア菌) ③ 芽胞形成菌(炭疽菌、破傷風菌、ボツリヌス菌)				2	
7. その他の細菌の病原性	① 桿菌(大腸菌、赤痢菌、チフス菌)らせん菌(ヒト菌など) ② 院内感染や日和見感染の原因となる菌(緑膿菌、レジオネラ菌) ③ 性感染症の原因となる菌(淋菌、クラミジア、梅毒トレポネーマ)				2	
8. ウイルスの特徴	① ワクチンの関連の菌(百日咳菌・インフルエンザ菌) ② 抗酸菌(結核菌) ③ 変わった細菌(マイコプラズマ・クラミジア、リケッチア)				2	
9. DNA ウイルスの病原性	① 構造と機能及び増殖 ② 分類(DNA ウイルスとRNA ウイルス) ③ どうやって病原性を発揮するか。				2	
10. RNA ウイルスの病原性1	① ヘルペスウイルス感染症(HSV、VZV、EBV、CMV) ② 咽頭結膜熱(アデノウイルス)子宮頸がん(HPV)、リゾ病				2	
11. RNA ウイルスの病原性2	① インフルエンザ及び風邪症候群 ② 発疹症(麻疹、風疹)および流行性耳下腺炎 ③ 下痢症(ロタウイルス、ノロウイルス)				2	
12. その他のウイルスおよび特殊な病原体の病原性	① 節足動物媒介ウイルス疾患(デング熱、日本脳炎) ② 出血熱(エボラ出血熱、腎症候性出血熱)				2	
13. 真菌、寄生虫感染症	① エイズ ② 肝炎 ③ プリオン				2	
14. 感染症の対策	① 真菌の構造 ② 深部真菌症および表在性真菌症 ③ 原虫症、蠕虫症(アニサキス症、日本住血吸虫症)				2	
15. 試験(及び講義)	① 滅菌と消毒 ② 感染症法 ③ 医療関連感染(院内感染)、標準予防策 ④ ワクチンと予防接種				2	
追加の説明および問題解説					2	
評価方法及び評価基準	筆記試験 100点					
テキスト	コンパクト微生物学(改訂第4版) 南江堂					
参考文献						

授業科目	病理学	講師名	田口 順	開講年次:1年次前期	
				単位	時間数
				1	30時間
ねらい	疾病になる原因を探り、疾病になった患者の身体に生じている変化を明らかにし、診断や予防に貢献するという病理を学ぶ。				
授業計画					
单元名	教育内容			時間	方法
1. 病理学の概要	①看護と病理学 ②病気の原因 ③疾病の分類			2	講義
2. 先天異常と遺伝子異常	①先天異常とは ②遺伝子異常 ③遺伝性疾患 ④染色体異常による疾患 ⑤胎児の障害 ⑥先天異常、遺伝子疾患の診断			6	
3. 代謝障害	①細胞の損傷と適応 ②物質沈着 ③脂質代謝障害と疾患 ④タンパク質代謝障害と疾患 ⑤糖質代謝障害と疾患 ⑥その他障害と疾患			4	
4. 循環障害	①局所性の循環障害 ②全身性の循環障害 ③リンパの循環障害			4	
5. 炎症と免疫	①炎症 ②炎症の各型 ③免疫 ④アレルギーと自己免疫 ⑤移植と免疫			4	
6. 感染症	①病原体と感染 ②宿主の防御機構 ③おもな病原体と感染症 ④感染症の治療 ⑤感染症の予防			2	
7. 腫瘍	①腫瘍の定義と分類 ②腫瘍の発生機序 ③悪性腫瘍の転移と進行度 ④腫瘍の診断と治療 ⑤腫瘍の統計			4	
8. 老化と死	①細胞の老化と個体の変化 ②加齢に伴う諸臓器の変化 ③個体の死			2	
評価方法及び評価基準	筆記試験 100点				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [1] 病理学 医学書院				
参考文献					

授業科目	疾病と治療Ⅰ 〔呼吸器、アレルギー 血液、造血器、膠原病 皮膚疾患〕	講師名	古賀 草場 松元	文晴 信秀 二郎	開講年次：1年次前期	
					単位	時間数
					1	30時間
ねらい	呼吸器疾患・アレルギー疾患、血液・造血器疾患、膠原病、皮膚疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。					
授業計画						
単元名	教育内容				時間	方法
《呼吸器》 (古賀先生) 10時間	1.呼吸器の構造と機能 2.症状とその病態生理 3.検査と治療・処置 4.疾病の理解・看護				2 2 6	講義
《アレルギー》 (古賀先生) 4時間	1.免疫とアレルギー 2.アレルギーの検査と治療 3.アレルギー疾患の理解 1)気管支喘息、アレルギー性鼻炎 2)アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触皮膚炎 3)食物アレルギー、薬物アレルギー 4)アナフィラキシー 4.アレルギー疾患患者の看護				2	
《血液 造血器》 (草場先生) 12時間	試験 1.血液、造血器疾患の構造と機能 2.症状と病態生理 3.診断と検査 4.主な疾病と治療 ①赤血球系の疾患 ②白血球系の疾患 ③出血性疾患				2 8	
《膠原病》 (草場先生)	1.自己免疫疾患と機序 2.症状とその病態生理 3.診断と検査 4.主な疾病と治療 ①関節リウマチ ②全身性エリテマトーデス ③全身性硬化症 ④ベーチェット病				4	
《皮膚疾患》 (松元先生) 4時間	1.皮膚の構造と機能 2.症状と病態生理 3.診断と検査 4.主な疾病と治療 ①表在性皮膚疾患 ②内臓疾患に伴う皮膚病変 ③感染症 ④腫瘍及び色素異常症 ⑤物理、化学的皮膚障害				2 2	
試験	呼吸器、アレルギー 筆記試験 100点 血液、造血器、膠原病、皮膚疾患 筆記試験 100点 最終評価は2回試験の平均点で評価する					
評価方法及び 評価基準						
テキスト	系統看護学講座 成人看護学[2]呼吸器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[11]アレルギー/膠原病/感染症 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[4]血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[12]皮膚 医学書院					
参考文献						

授業科目	〔 疾病と治療II 循環器疾患 運動器疾患 〕	講師名	大島 英樹 堀 真貴子 藤井 正敏 小山 耕一	開講年次:1年次前期~後期	
				単位	時間数
				1	30時間

ねらい 循環器疾患、運動器疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。

授業計画

単元名	教育内容	時間	方法
《循環器疾患》	大島先生 (6時間) 堀先生 (8時間) 1. 循環器の構造と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 主な疾病と治療 ①先天性心疾患 ②後天性心疾患 ③血圧異常 ④不整脈疾患 ⑤血管の疾患 試験	2 2 2 8	講義
《運動器疾患》	小山先生 (10時間) 1. 運動器系の構造と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 疾病の理解 I. 外傷性の運動疾患 A. 骨折 B. 脱臼 C. 捻挫および打撲 D. 神経の損傷 E. 筋・腱・靭帯などの損傷 II. 内因性の運動器疾患 A. 先天性疾患 B. 骨・関節の炎症性疾患 C. 骨腫瘍および軟部腫瘍 D. 代謝性骨疾患 試験	10	
	藤井先生 (6時間) E. 筋および腱の疾患 F. 神経の疾患 G. 上肢および上肢帯の疾患 H. 脊椎の疾患 I. 下肢および下肢帯の疾患 J. ロコモティブシンドロームと運動器不安定症 K. 廃用症候群 試験	6	
評価方法及び評価基準	循環器疾患 筆記試験 100点 (大島先生50点・堀先生50点) 運動器疾患 筆記試験 100点 (小山先生70点・藤井先生30点) 最終評価は2科目の平均点で評価する		
テキスト	系統看護学講座 成人看護学[3]循環器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[10]運動器 医学書院		
参考文献			

授業科目	疾病と治療Ⅲ 腎、泌尿器疾患 内分泌、代謝疾患	講師名	松永 祥弘 森山 敦夫 山田研太郎	開講年次：1年次後期		
				単位	時間数	
ねらい	腎・泌尿器疾患、内分泌・代謝疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。					
授業計画						
単元名		教育内容			時間	方法
《腎、泌尿器疾患》	(森山先生) 8時間	1. 腎、泌尿器の構造と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 主な疾病と治療 ①腎疾患の治療総論 ・血液浄化療法 ・移植療法 ②腎疾患の治療各論 ・腎不全 ・ネフローゼ症候群 ・糸球体腎炎 ・腎血管性疾患			8	講義
	(松永先生) 8時間	5. 泌尿器疾患 ①基礎的知識 ②主な疾病と診療 ・尿路結石症 ・腎細胞がん ・尿路上皮腫瘍 ・水腎症 ・神経因性膀胱 ・感染症(尿路感染症、性感染症) ・生殖器疾患(前立腺肥大症、前立腺癌)			8	
《内分泌、代謝》	(山田先生) 14時間	試験			2	
		1 内分泌代謝系の構造と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 主な疾病と治療 ④内分泌疾患 ①視床下部の異常 ②下垂体の異常 ③甲状腺疾患 ④副甲状腺疾患 ⑤副腎疾患 ⑥性腺疾患			8	
		⑧代謝疾患 ①糖質代謝異常 ②脂質代謝異常 ③タンパク、アミノ酸異常 ④水、電解質の代謝異常 ⑤栄養異常 ⑥その他の代謝疾患			4	
評価方法及び 評価基準	腎泌尿器(腎50点・泌尿器疾患50点) 筆記試験 100点 内分泌、代謝疾患 筆記試験 100点 最終評価は2科目の平均点で評価する					
テキスト	系統看護学講座 成人看護学[8]腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[6]内分泌・代謝 医学書院					
参考文献						

授業科目	疾病と治療IV (小児、消化器疾患)	講師名	黒田 直宏 高田 晃男 河口 康典		開講年次:1年次後期	
			単位	時間数	単位	時間数
			1	30時間		
ねらい	小児疾患や消化器疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。					
授業計画						
単元名	教育内容				時間	方法
《小児疾患》 (黒田先生) 14時間	1. 主な疾患の症状と治療 ①染色体異常 ②内分泌疾患と代謝性疾患 ③アレルギー疾患 ④感染症 ⑤呼吸器疾患 ⑥循環器疾患 ⑦消化器疾患 ⑧血液、造血器疾患 ⑨悪性新生物 ⑩腎、泌尿器疾患 ⑪神経疾患 ⑫運動器疾患 試験				14	講義
《消化器疾患》 (高田先生) 8時間 (河口先生) 8時間	1. 消化器系の構造と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 主な疾病と治療 ・食道の疾患 ・胃、十二指腸疾患 ・腸(小腸、大腸)、腹膜の疾患 ・肝臓、胆嚢の疾患 ・膵臓の疾患 試験				16	
評価方法及び 評価基準	小児疾患 筆記試験 100点 消化器疾患 筆記試験 100点(高田先生50点・河口先生50点) 最終評価は2科目の平均点で評価する					
テキスト	系統看護学講座 小児臨床看護各論[2] 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[5]消化器 医学書院					
参考文献						

授業科目	疾病と治療V 脳神経疾患 リハビリテーション 女性疾患	講師名	大浅 貴朗 下川 裕 東島 利紀	開講年次:1年次後期	
				単位	時間数
				1	30時間
ねらい	脳神経疾患、リハビリテーション、女性疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。				

授業計画

単元名	教育内容	時間	方法	
《脳神経疾患》 (大浅先生) 14時間	1. 脳神経系の構造と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 主な疾病と治療 ①脳血管障害 ②神経系の腫瘍 ③神経系の感染症 ④機能性疾患 ⑤神経変性疾患 ⑥脱髄性疾患 ⑦脊髄、脊椎疾患 ⑧末梢神経疾患 ⑨筋疾患 ⑩代謝性疾患 試験	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	講義	
《リハビリテーション》 (下川先生) 10時間	1. リハビリテーション概論 ①定義と理念 ②障害者の実態 ③障害の分類と構造 ④リハビリテーションの分野 ⑤リハビリテーションの医療システム 2. 運動器系の障害とリハビリテーション ①骨折 ②関節リウマチ 3. 中枢神経系の障害とリハビリテーション ①脳血管障害 4. 呼吸・循環器系の障害とリハビリテーション ①慢性閉塞性肺疾患 ②虚血性心疾患	2 2 2 2 2 2 2 2		
《女性疾患》 (東島先生) 6時間	1. 女性生殖器の構造と機能 2. 診断と検査 3. 主な疾病と治療 ①性分化異常 ②臓器別疾患 ③機能的疾患 試験	6		
評価方法及び 評価基準	脳神経疾患 筆記試験 100点 リハビリテーション・女性疾患 筆記試験 100点 (女性疾患50点・リハビリ50点) 最終評価は2回試験の平均点で評価する			
テキスト	系統看護学講座 成人看護学[7] 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[9] 女性生殖器 医学書院			
参考文献				

授業科目	栄養学	講師名	小島 良子		開講年次:1年次前期	
			単位	時間数	単位	時間数
			1	30時間(試験含)		
ねらい	生体に必要な栄養素のはたらきを理解する。また、食事の重要性や食生活に伴う健康問題について学び臨床で活用できる知識を養う。					
授業計画						
単元名	教育内容				時間	方法
1. 人間栄養学と看護	①栄養学の歴史 ②食物栄養学から人間栄養学 ③食事療法の進歩と医療制度 ④看護と栄養				1	講義
2. 栄養状態の評価・判定	①評価・判定の定義と目的 ②評価・判定法 (臨床診査・身体測定・臨床検査・食事検査)				1	
3. 栄養素の種類と働き	①炭水化物 ②脂質 ③タンパク質 ④ビタミン ⑤ミネラル				2	
4. エネルギー代謝	①食品のエネルギー ②体内のエネルギー ③エネルギー代謝の測定 ④エネルギー消費				2	
5. 栄養素の消化・吸収	①消化 ②吸収 ③体内運搬				2	
6. 栄養素の体内代謝	①肝臓の働き ②血糖 ③代謝の調節 ④代謝産物の排泄				2	
7. ライフステージと栄養	①乳児期における栄養 ②幼児期における栄養 ③学童期における栄養 ④妊娠期における栄養 ⑤授乳期における栄養 ⑥更年期における栄養 ⑦高齢期における栄養				4	
8. 臨床栄養	①病院食 ②疾患別食事療法の実際				12	講義 演習 講義
9. 健康づくりと食品・食事・食生活	①食品と食品群 ②食品群の分類法 ③食生活の変遷と問題点 ④生活習慣病の予防 ⑤食生活指針と健康日本21				2	
10. 試験					2	
評価方法及び評価基準	筆記試験 100点					
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [3] 栄養学 医学書院					
参考文献						

授業科目	薬理学	講師名	江藤 良典	開講年次:1年次後期	
				単位	時間数
				1	30時間(試験含)
ねらい	くすりの特徴、薬物動態、各薬物の作用機序、臨床応用、副作用、薬物の管理などについて理解する。				

授業計画

単元名	教育内容	時間	方法
1.薬理学を学ぶにあたって	①薬理学とは何か ②薬による病気の治療	4	講義
2.薬理学の基礎知識	①薬が作用するしくみ(薬力学) ②薬の体内挙動(薬物動態学) ③薬物相互作用 ④薬効の個人差に影響する因子 ⑤薬物使用の有益性と危険性 ⑥薬と法律	2	
3.抗感染症薬	①感染症治療に関する基礎知識 ②感染症薬各論 ③特殊な感染症の治療薬 ④感染症の治療における問題点	2	
4.抗がん薬	①がん治療に関する基礎事項 ②抗がん薬各論	2	
5.免疫治療薬	①免疫系の基礎知識 ②免疫抑制薬 ③免疫増強薬・予防接種薬	2	
6.抗アレルギー薬・抗炎症薬	①抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 ②炎症と抗炎症薬 ③関節リウマチ治療薬 ④痛風・高尿酸血症治療薬 ⑤片頭痛治療薬	4	
7.末梢での神経活動に作用する薬	①神経薬による情報伝達 ②自律神経系作用薬 ③交感神経作用薬 ④副交感神経作用薬 ⑤筋弛緩薬・局所麻酔薬	2	
8.中枢神経系に作用する薬	①中枢神経系のはたらきと薬物 ②全身麻酔薬 ③催眠薬・抗不安薬 ④抗精神病薬 ⑤気分障害治療薬 ⑥パーキンソン症候群治療薬 ⑦抗てんかん薬 ⑧麻薬性鎮痛薬	4	
9.心臓・血管系に作用する薬	①抗高血圧薬 ②狭心症治療薬 ③心不全治療薬	4	

	④抗不整脈薬 ⑤利尿薬 ⑥脂質異常症治療薬 ⑦血液に作用する薬物		
10.呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬	①呼吸器系に作用する薬物 ②消化器系に作用する薬物 ③生殖器・泌尿器系に作用する薬物	2	
11.物質代謝に作用する薬	①ホルモンとホルモン拮抗薬 ②治療薬としてのビタミン	2	
12.皮膚科用薬・眼科用薬	①皮膚に使用する薬物 ②眼科用薬	2	
13.救急の際に使用される薬物	①救急に用いられる薬物 ②急性中毒に対する薬物	2	
14.漢方薬	①漢方医学の基礎知識 ②漢方薬各論	2	
15.消毒薬	①消毒薬の種類・適応		
16.輸液製剤・輸血剤	①輸液製剤 ②輸血剤		
筆記試験		2	
評価方法及び評価基準	筆記試験 100点		
テキスト	系統看護学講座 薬理学 医学書院		
参考文献	講義時に提示予定		

授業科目	保健医療論 I	講師名	西依 淳	開講年次: 1年次前期	
				単位	時間数
				1単位	15時間
ねらい	人々が生涯を通じて健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できる必要な知識を学び、保健医療に関する基本概念・関係制度から関係職種役割を理解する。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
1. 医療の歩みと医療観の変遷 2. 生活と医療	①現代医学の起源 ②医療観のうつりかわり			2	講義
	①日本の医療のしくみ ②生活と環境衛生、保健・福祉と行政 ③疾病の一次予防と生活習慣病 ④高齢社会と世代間のきずな ⑤障害者のノーマライゼーション			4	
3. 技術社会の高度化と健康、生命	⑥こころの健康と精神医療 ①先端医療技術の成果			4	
4. 成熟する社会と人々の意識 変革	②産業社会の発展と人間の健康 ①医療不信から「賢い患者」 ②インフォードコンセントと医療情報の開示			6	
5. 新しい医療の視点	①医療人類学と受療行動の研究 ②医療と倫理 ③臨床疫学 ④医療の管理と医療の評価 ⑤医療におけるケアの視点 ⑥これからの先端医療技術開発 ⑦情報化社会と医療 ⑧保健・医療システムと地域住民の役割 ⑨ケアと情報技術のネットワーク				
評価方法及び 評価基準	筆記試験100点				
テキスト	系統看護学講座、専門基礎分野、健康支援と社会保障制度[1] 総合医療論 医学書院				
参考文献					

授業科目	保健医療論Ⅱ	講師名	百瀬 義人	開講年次:1年次後期	
				単位	時間数
				1	15時間
ねらい	健康の保持増進や疾病予防のための基礎として公衆衛生を学び、保健医療に関する基本概念を学ぶ。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
1. 健康の概念と公衆衛生	①求められる医療と倫理 ②患者の人権の尊重 ③再生医療への期待			2	講義 (ビデオ 視聴)
2. 公衆栄養、人口保健統計	①食の崩壊 ②低栄養の指標 ③高齢者の虚弱			2	
3. 学校保健、母子保健、地域保健	①虐待の傷、再生への道 ②母子保健法 健やか親子21 ③児童福祉法			2	
4. 成人保健、産業保健	①労働衛生 子どもの貧困を救え ②生活習慣病の現状と対策 ③健康日本21			2	
5. 感染症	①抗生物質クライシス ②院内感染防止策 ③感染予防の原則			2	
6. 環境保健、国際保健	①武器ではなく命の水を ②国際保健協力のしくみ ③持続可能な開発目標			2	
7. 社会保障と社会福祉	①医療ビッグデータの活用 ②社会保障制度 ③社会福祉関連法規			2	
8. 精神保健と障害者保健	①国際生活機能分類 ②障害を克服するためのモデル ③障害者総合支援法			2	
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100点				
テキスト	松木秀明編 よくわかる専門基礎講座 公衆衛生 金原出版				
参考文献	国民衛生の動向 厚生労働統計協会				

授業科目	看護学概論	講師名	中原 彩実	開講年次：1年次 前期	
				単位	時間数
				2	30
ねらい	看護の意味を問います。根幹とする一看護とは何か・対象は何か・何を行う人なのかを説明しませぬら。そしてこれからの看護を考えます。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	備考
1 看護とは 何が	看護の本質 看護の役割と機能			4	講義
2 看護の対象 の理解	こころと身体 生涯発達し続ける存在としての人間 「暮らし」の理解			4	
3 国民の健康 生活の全体像 の把握	健康のとらえ方 国民の健康 健康生活とは 現代の日本人の健康生活を考える			4	中間 試験
4 看護の提供 者	職業としての看護 資格と制度 看護職者の就業状況			4	演習 中間 試験
5 看護におけ る倫理	医療をめぐる倫理 看護実践の倫理			4	演習
6 看護の提供 のしくみ	看護サービス提供の場 制度と政策 看護の管理・医療安全と医療の質の保証			4	演習
7 広がる看護 の活動領域	国際化と看護 日本に在留する外国人の看護 異文化理解 災害時の看護			4	
試験	試験は 60 分です。あとは纏めの時間にします。			2	
テキスト	茂野香おる他 『看護学概論』基礎看護学① 医学書院 2020				
評価方法及び 評価基準	授業の予習・復習を大切にします。レポート 20 点＋中間テスト 30 点＋単位取得試験 50 点の 総計です。科目終了後 1 週間後に単位認定試験になりますのでご注意ください。 単位認定にかかる全ての内容を行わなければ単位認定はしない（レポート未提出や中間テスト未受験などは単 位認定を行わない）				
予習・復習の 方法について	初めて耳にする専門用語が次々にでてきます。正確な言葉をノートに書き出してみましよう。そして正しい意 味を覚えておきます。ミニテストは知識の確認ですが単位認定に成績を加算します。 看護職は判断力が問われる重要な仕事です。実践現場で知識を再確認をしてみましよう。 見学実習も振り返りの一つとなり、見た聞いた行ってみたその積み重ねが大事です。				

レポートについて	<p>レポートは2回提出します。</p> <p>1つは実践現場の体験レポートです。および講演会の感想を追加することもあります。</p> <p>2つめは看護理論を読んで考察します。いずれも時期・注意事項はその都度説明します。</p>
実践現場体験 その他	<p>教科外学習として病院で実務体験をします。休むと2度の体験はありませんので注意してください。期日は決定次第連絡します。</p> <p>本科目は他の専門分野の基礎となる教科です。単位がとれないと以降の専門教科目の認定が出来なくなることも起こりますのでご注意ください。</p>
参考文献	<p>看護理論</p> <p>勝又正直 『はじめての看護論』 医学書院 2012</p> <p>フローレンス・ナイチンゲール 看護覚え書 現代社 1975</p> <p>湯根ますほか訳『看護の基本となるもの』 日本看護協会出版会 1995</p> <p>小野寺杜紀訳『オレム看護論』 医学書院 1995</p> <p>外口玉子はか訳ウィーデンバック『臨床看護の本質』 現代社 1996</p> <p>長谷川浩ほか訳『トラベルビー人間対人間の看護』 医学書院 1974</p> <p>松本光子ほか監訳『ロイ適応看護論入門』 医学書院 1992</p> <p>手島恵訳『マーガレット・ニューマン看護論』 医学書院 1995</p> <p>稲田八重子訳『オランダ・看護の探求』 メヂカルフレンド社 1964</p> <p>厚生労働統計</p> <p>国民衛生の動向 厚生労働統計</p> <p>看護白書</p> <p>厚生労働白書 厚生労働省</p> <p>総合医療論・健康支援と社会保障制度 1 医学書院</p> <p>法律</p> <p>看護六法 新日本法規</p> <p>倫理</p> <p>日本看護協会編 看護者の基本的責務：基本法と倫理 2003</p> <p>日本看護協会 看護研究における倫理指針 2013 2004 他</p> <p>他は授業で紹介・提示します</p>

授業科目	基礎看護学方法論 I (実践のための基礎技術)	講師名	江藤 則子	開講年次：1 年前期・後期	
			白瀬 美香	単位	時間数
			堀内 幸代	2	90 (試験含む)
ねらい	看護技術の特殊性として、技術の対象が人間である点があげられる。看護師は常に対象である人の全体を捉え、対象に技術を適応すべきか否かをさまざまな側面から考慮していく必要がある。そのため看護師として対象である人の安全を第 1 に考え、人の何を捉えてどのように考えれば良いのかを学び、実践できるようになることが求められる。この科目では、看護技術を実施するために必要な基礎的知識を学び、技術の習得、さらに看護技術実施の根拠と考え方を身につけることをねらいとしている。また、発展し続ける医療状況のなかで、高度な看護実践能力を身につけ質の高い看護を追求していくためには、主体的に学び続ける必要があり、学び続けるための基本的な学習姿勢も身につけてほしい。				
授業計画					
単元名	授業内容			時間	方法
I. 看護技術と 考え方 (江藤先生)	1) 技術の対象は人である 2) 看護技術とは何か (特徴と範囲) 3) 看護技術実践のための要素と考え方 4) 的確な看護判断と適切な看護技術の提供			26 時間 / 13 回	講義 演習 実験実 習
1. 「人」に提供 する看護技術	1) 医療におけるコミュニケーション 2) 関係構築のためのコミュニケーション 3) 効果的なコミュニケーションについて考える *演習：患者さんと会話をしてみよう			+1 回(試 験)	
2. コミュニケ ーション	1) 感染防止の基礎知識 2) 感染防止対策の基本 ①標準予防策②感染経路別防止策③洗浄・消毒・滅菌 3) 無菌操作 4) ガウンテクニック *実験実習・手洗い (モデル；手洗いチェッカー B L B) *演習 ・薬液 (消毒液) の希釈方法 ・滅菌物の取り扱い ・ガウンテクニック				
3. 感染予防の 技術	1) 看護における安全とは 2) 安全に影響を及ぼす要因 3) 安全管理と事故防止 4) 医療過誤と医療事故 (原因と対策) *演習；インシデントレポート (個人・グループ) 事例「転倒リスク患者と環境」 5) リスクトレーニング (演習)				
3. 安全確保の 技術	1) 看護の中にある学習支援 2) 健康に生きることを支える学習支援			1 回	
4. 学習支援	筆記試験				

<p>II. ヘルスアセスメント (白瀧先生)</p>	<p>本授業では、シミュレータ学習や事例検討等を取り入れ、実践したアセスメントへの振り返りを通して、クリティカルシンキング(批判的思考)の能力を身につけてもらいたいと思います。また、本科日に関連する解剖生理学に関しては予習、復習を積み重ねていって下さい。</p>	<p>28時間 / 14回+1 回(試験)</p>	<p>講義 演習 実験実習</p>
<p>1. ヘルスアセスメント</p>	<p>1. ヘルスアセスメントによって何がわかるか 2. 看護とヘルスアセスメント</p>		
<p>2. 健康歴とセルフケア能力</p>	<p>1. 看護面接とスクリーニング 2. 患者の健康歴とセルフケア能力のアセスメントが看護に必要な訳</p>		
<p>3. 全体の概観 ①</p>	<p>1. ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント 2. 基本的な診察法</p>		
<p>4. 全体の概観 ②</p>	<p>3. 対象者の「全体」とは何をどのようにみるのか 1. 一般状態と生命徴候：バイタルサイン</p>		
<p>5. 系統別 フィジカルアセスメント</p>	<p>・ 脈拍・呼吸・体温・血圧・意識の観察 ・ バイタルサインの影響因子(実験実習)</p>		
<p>1) 身体を守る</p>	<p>フィジカルモデル人形(フィジコ)を使用してのシュミレーション学習を行い、フィジカルアセスメントの実際と考え方を身につけて欲しいと思います</p>		
<p>2) 生命を維持する (その1)</p>	<p>1. 皮膚・頭髪・リンパ節・甲状腺 1) 目的 2) フィジカルアセスメントの実際</p>		
<p>3) 生命を維持する (その2)</p>	<p>2. 全身の概要 1. 呼吸器系 1) 目的 2) フィジカルアセスメントの実際</p>		
<p>4) 事例で学ぶ</p>	<p>2. 循環器系 1) 目的 2) フィジカルアセスメントの実際</p>		
<p>5) 食べる・栄養を取りこむ・排泄する</p>	<p>*事例患者の呼吸器系フィジカルアセスメントができる 3. 消化器系 1) 目的 2) フィジカルアセスメントの実際</p>		
<p>6) 体を支える・動かす</p>	<p>4. 骨・筋系 1) 目的 2) フィジカルアセスメントの実際</p>		
<p>7) 認知する・理解する</p>	<p>5. 脳・神経系 1) 目的 2) フィジカルアセスメントの実際</p>		
<p>6. フィジカルアセスメントと看護の実際 (事例演習)</p>	<p>6. 感覚器系 1) 目的 2) フィジカルアセスメントの実際</p>		
<p>6. フィジカルアセスメントと看護の実際 (事例演習)</p>	<p>1. アセスメントで得られた結果を看護援助につなげるとは 2. 看護実践におけるフィジカルアセスメントの意義</p>	<p>1回</p>	
<p>(事例演習)</p>	<p>筆記試験</p>		

<p>Ⅲ. 看護過程 (堀内先生)</p> <p>1. 看護過程</p> <p>2. 看護記録と報告</p>	<p>1) 看護過程とは何か 2) 看護過程と問題解決 (POS) との関係 3) 看護過程の構成要素とその課題 4) 事例演習: 紙上患者による看護過程の展開</p> <p>1) 看護と記録 2) 記載・管理の留意点 3) 看護における報告</p> <p>筆記試験</p>	<p>28 時間 / 14 回 +1 回(試験)</p> <p>1 回</p>	<p>講義 演習</p>
<p>Ⅳ. 評価</p>	<p>筆記試験 (各講義担当で筆記試験を実施する) 実技試験 (基礎看護学方法論Ⅱでの内容について実施する) *実技試験の要項・要領については試験前に説明を行う</p> <p>*筆記試験及び実技試験をすべて受験しなければ単位認定は認められない</p>	<p>8 時間 (筆記 3 コ マ・実技 1 コマ)</p>	
<p>テキスト</p>	<p>系統看護学講座 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 系統看護学講座 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 看護技術プラクティス 第3版 (学研) 写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント (インターメディカ)</p>		
<p>参考文献</p>	<p>*各講義で提示する</p>		
<p>評価方法及び 評価基準</p>	<p>評価の割合: <u>筆記試験</u> 9 割 <u>実技試験</u> 1 割 筆記試験、実技試験それぞれに 60 点未満の場合は、再試験対象となる ※筆記試験・実技試験ともに受験を必須とする *筆記試験、実技試験いずれも受験しなければ、基礎看護学方法論Ⅰの点数は認められない *授業参加態度や提出レポートなども含めて総合的に評価を行う</p>		

授業科目	基礎看護学方法論Ⅱ (生活過程を整える基礎技術)	講師名	堀内 幸代	開講年次：1 年次前期・後期	
			白瀧 美香	単位	時間数
			宮川 理恵	2 単位	90 時間 (試験を含む)
ねらい	<p>看護は、健康であれば本人が自分で営むことができる生活に関わる。看護の対象となる人が、どのような状況であっても可能な限り自分らしく生活ができるように側面から手や心をさしのべることが看護師に求められる。この科目では、日常生活援助技術について根拠に基づいて理解した上での技術の習得を目指す事を目的とし以下に学習視点を示す。</p> <p>1. 対象者にあった援助を安全・安楽・自立・個別性の視点で適切に実践するために必要な基礎的な知識と看護技術を習得する。</p> <p>2. 生活過程を整えるために対象のニーズを身体的・心理的・社会的側面からアセスメントする方法を学ぶ。</p>				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
I. 環境調整技術 (堀内先生)	<p>1) 人にとっての環境とは</p> <p>2) 療養生活の環境</p> <p>3) 病室環境と患者理解</p> <p>4) 病床環境のアセスメントと調整 (観察と必要性の判断)</p> <p>(1)病床・病室の環境整備の視点</p> <p>(2) 対象の状態 (日常生活行動の自立度)</p> <p>(3) 患者の状態に応じた援助方法の選択</p> <p>5) 援助の実際</p> <p>演習：対象の状態に合わせたリネン交換、環境調整</p> <p>筆記試験</p>			28 時間 (14 時間/ 7 回+1 回 (試験)	講義 演習
II. 活動・休息 援助技術	<p>1) 基本的活動の基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 良い姿勢・日常生活動作・ボディメカニクス ・ 姿勢による生理学的影響 ・ 体位・安楽な体位と体位保持 <p>2) 体位と活動の援助実施の考え方</p> <p>(1)身体を動かすこと・保持することの意義</p> <p>(2)体位変換・体位の保持、移動のケアの目的・意義・留意点</p> <p>(3) ゴードンの機能的健康パターンにみる活動/運動パターンとアセスメント (①運動/エネルギー②日常的活動③レクリエーション/レジャー)</p> <p>①対象者の状態・状況の把握</p> <p>②環境・看護師の状況の把握</p> <p>③必要な活動の援助と援助方法の選択</p> <p>3) 対象の状態に合わせた基本的活動の援助</p> <p>演習：体位変換、移動、移乗・移送</p> <p>4) 睡眠と休息の援助</p> <p>(1)サーカディアンリズムと生活リズム</p> <p>(2)活動・休息と睡眠の調整</p> <p>(3) 睡眠障害のアセスメントと援助の実際</p> <p>* ゴードンの機能的健康パターンにみる睡眠/休息パターンとアセスメント</p>			1 回	

	(①睡眠 ②休息/リラクゼーション) (4)自然な睡眠への援助 筆記試験	1回	
Ⅲ. 食事・排泄 援助技術 (宮川先生) 1. 食事援助技 術 2. 排泄援助技 術	1) 人にとっての食事・栄養摂取の意義 2) ゴードンの機能的健康パターンにみる栄養/代謝パターンとアセスメント ①対象の栄養状態及び食欲・摂食能力のアセスメント ②対象の状態に合わせた食事援助 (判断と実際) 3) 摂食・嚥下訓練 4) 非経口的栄養摂取の援助 ①経管栄養法の基礎知識と援助の実際 ②中心静脈栄養法 演習: 食事援助と経管栄養 1) 人にとっての排泄の意義 2) 自然排尿及び自然排便の基礎知識 排泄のメカニズム・生理的欲求としての排泄・排泄物の性状 3) ゴードンの機能的健康パターンにみる排泄パターンとアセスメント ①対象の状態・状況の把握 ②必要な排泄援助と方法の選択 (判断と実際) 4) 対象の状態に合わせた排泄援助の実際 自然排尿の援助、導尿、膀胱留置カテーテルについて 5) 排泄援助を提供する看護師の基本的姿勢 演習: 排泄援助 (おむつ装着と交換・ポータブルトイレ、導尿) 筆記試験	28時間 /14回 +1回(試 験)	講義 演習
Ⅳ. 清潔・衣生 活援助技術 (白瀧先生)	1) 人が身体を清潔に保つことの意義 2) 患者にとっての身体を清潔に保つことの意義 個々の対象者における状態と生活の意義 (目的) 3) ゴードンの機能的健康パターンにみる活動/運動パターンと アセスメント (①運動/エネルギー②日常的活動③レクリエーション/レジャー) ①対象者の状態・状況の把握 ②必要な清潔・衣生活援助と方法の選択 (判断と実際) 4) 対象の状態に合わせた清潔援助の実際 演習: 清潔援助 (口腔ケア、手浴、足浴、洗髪、清拭、陰部洗浄、整容) 筆記試験	26時間 /13回 +1回(試 験)	講義 演習
Ⅴ. 評価	筆記試験 (各講義担当で筆記試験を実施する) 実技試験 (基礎看護学方法論Ⅱでの内容について実施する) *実技試験の要項・要領については試験前に説明を行う	8時間 (筆記3コ マ・実技1 コマ)	
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 看護技術プラクティス 第3版 (学研)		
参考文献	*各講義で提示する		

評価方法及び 評価基準	評価の割合：筆記試験 8割 実技試験 2割 筆記試験、実技試験それぞれに60点未満の場合は、再試験対象となる ※筆記試験・実技試験ともに受験を必須とする *筆記試験、実技試験いずれも受験しなければ、基礎看護学方法論Ⅱの点数は認められない *授業参加態度や提出レポートなども含めて総合的に評価を行う
----------------	---

授業科目	基礎看護学方法論Ⅲ (診療に伴う援助技術)	講師名	宮川 理恵 白瀬 美香		開講年次：1年次後期	
			単位	時間数	1単位	45 (試験含む)
ねらい	1. 患者が安全・安楽に治療、処置、検査が受けられるように、看護師の役割を理解し、複数の看護技術を適用する基礎を学ぶ。 2. 診察、検査・治療処置を受ける対象への援助について理解し、安全に援助できる技術の習得をする。					
授業計画						
単元名	教育内容				時間	方法
I. 検査・処置に伴う援助技術 1. 症状・生体機能管理技術 2. 診察・検査・処置の介助技術 (宮川先生)	1) 検査・処置における看護の役割 ①検査とは ②検査における看護師の役割 2) 主な検査の目的と方法 ①検体検査とは ②検体検査の種類 ③生体検査とは ④生体情報のモニタリング 演習：採血の方法				6時間/3回	講義 演習
II. 呼吸・循環を整える技術 (宮川先生)	1) 呼吸・循環を整えるための技術 ①呼吸の意義とアセスメント ②呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 ③痰の喀出方法 ④吸入 ⑤吸引 ⑥酸素吸入療法 演習：超音波ネブライザー・吸引・吸入・酸素療法に必要な技術 2) 体温調節を助けるための技術 ①体温管理・保温の基礎知識 ②巻法の意義と体温異常時の援助 演習：冷巻法・温巻法				6時間/3回	講義 演習
III. 与薬の技術 (白瀬先生)	1) 与薬における基礎知識 2) 与薬における看護師の役割 3) 薬物管理 4) 基本的な与薬の援助方法 ①経口及びその他の援助方法 ②注射による与薬法 5) 輸血の基礎知識と方法 6) 感染防止・安全確保の技術 ①針刺し防止・カテーテル関連感染対策 ②誤薬防止・患者誤認防止				20時間/10回	講義 演習
IV. 救命救急処置技術 (宮川先生)	1) 救急時の看護 ①救急看護の定義と役割 ②救急対応の考え方 ③一次救命処置と実際 演習：心肺蘇生法				4時間/2回	講義 演習
V. 創傷管理技術	1) 創傷管理の基礎知識と創傷処置 (1) 創傷 ①創傷管理の基礎知識 ②創傷処置の目的と方法 (2) 褥瘡 ①褥瘡発生のメカニズム ②褥瘡の好発部位 ③発生要因とリスクアセスメント ④褥瘡予防 演習：包帯法 1) 侵襲的処置の基礎知識と介助技術 (1) 穿刺 ①穿刺の基礎知識 ②穿刺の種類 ③援助の実際 (2) 洗浄 ①洗浄の基礎知識 ②援助の実際				8時間/4回	講義 演習 講義

VI. 評価	筆記試験 (60分) 実技試験 実技試験については事前にオリエンテーションを実施	授業時間に 含む (9 コ マ) +1 コマ (実技)
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 看護技術プラクティス第3版 (学研) ケアに生かす検査値ガイド (照林社)	
参考文献	講義で提示する	
評価方法及び 評価基準	筆記試験：授業参加態度や提出レポートなども含めて総合的に評価を行う 評価の割合： <u>筆記試験</u> 9割 <u>実技試験</u> 1割 筆記試験、実技試験それぞれに60点未満の場合は、 再試験対象となる ※筆記試験・実技試験ともに受験を必須とする *筆記試験、実技試験いずれも受験しなければ、基礎看護学方法論Ⅲの点数は認められない	

授業科目	成人看護学概論	講師名	江藤 則子		開講年次：1年前期	
			単位	時間数		
			1	15(試験含む)		
ねらい	1. 成人期にある人の身体的・心理的・社会的特徴について理解できる。 2. 成人保健の動向を踏まえて、その生活と健康問題について理解できる。 3. 成人への看護アプローチの基本概念について理解できる。					
授業計画						
	単元名	教育内容				方法
1	I. 成人看護の対象理解	成人看護学とは 1. 成人看護の概念 2. 成人期各期の身体的・社会的・心理的特徴 1) 青年期 2) 壮年期 3) 向老期				講義
2 3 4	II. 成人の生活と健康	1. 成人期の生活状況の特徴 1) 成人を取り巻く環境 ①国民経済の現状(経済/人口) ②日常生活の状況 2) 大人の健康状況 ①生と死の動向 ②受療状況 ③生活習慣病 ④自殺・職業性疾病等 3) 大人の健康 2. 成人期の生活から捉える健康 1) 人口動態 3. 保健・医療・福祉システム 1) 保健に関わる政策 ①健康日本21(第2次) ②新健康フロンティア戦略 ③がん対策基本法 ④特定健康診査と特定保健指導 ⑤感染症対策 2) 医療に関わる対策 3) 福祉に関わる対策				講義
5	III. 健康をおびやかす要因と看護	1. 健康バランスに影響を及ぼす要因 1) ストレスに関連する健康問題 ①ストレス関連疾患の要因・ストレス対処 2. 生活行動がもたらす健康問題とその予防 1) 職業労働形態に関連する健康問題 2) 生活習慣に関する健康問題				講義
6	IV. 成人の健康保持・増進・疾病の予防と看護	1. ヘルスプロモーションと看護 1) ヘルスプロモーションとは 2) 地域社会・職場におけるヘルスプロモーションを促進する看護				
7	V. 成人への看護アプローチの基本	1. 成人期の健康行動の捉え方 1) 学習に基づく行動形成 2) 成人期の患者と看護師の人間関係 3) 看護実践における倫理的判断 4) チームアプローチ 5) 意思決定支援 6) 家族支援				講義
8		1. 筆記試験(60分)・授業評価アンケート				
評価方法及び評価基準		筆記試験 100点 筆記試験、その他講師が提示した課題を提出しなければ単位は認めない				

テキスト	系統看護学講座 成人看護学（1）成人看護学総論（医学書院）
参考文献	<p>国民衛生の動向、公衆衛生マニュアル 松木秀明、よくわかる専門基礎講座 公衆衛生、金原出版株式会社 よくわかる発達心理学 第2版、ミネルヴァ書房 佐藤栄子、事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門 第2版、日総研</p> <p>竹尾恵子、事例で学ぶ看護理論、学研</p> <p>小島操子、看護における危機理論・危機介入 改訂3版、金芳堂</p>

授業科目	成人看護学方法論Ⅰ	講師名	白瀬 美香		開講年次：1年前期	
					単位	時間数
					1	15(試験含む)
ねらい	1. 成人期にある人々の健康段階(急性期・回復期・慢性期・終末期)の特性について理解する。 2. 成人の主体的な健康行動を促進する看護に必要な理論を理解する。 2. 健康障害をもつ成人とその家族に対する看護を理解する					
授業計画						
単元名		教育内容				方法
1 2	I. 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護	1. 健康の急激な破綻 1) 生命の危機状態 2) 急性期にある人の特徴 2. 急性期にある人の看護 1) 危機にある人々への支援 ①危機介入 ②救急医療 2) 治療に伴う合併症の予防と早期回復のための援助 3) 家族支援				講義
3 4	II. 障害がある人の生活とリハビリテーション	1. 障害がある人とリハビリテーション ①ICF ②障害の認識課程 2. 障害がある人とその生活を支援する看護 ①健康段階に応じたリハビリテーションと看護 ②ボディイメージの変化をきたした人の援助 ③家族支援				講義
4 5	III. 健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を支える看護	1. 慢性疾患を持つ患者の理解 2. 慢性病との共存を支える看護 ①病みの軌跡 ②セルフケア ③セルフマネジメント支援 ④エンパワメント ⑤家族支援				講義
6	IV. がんとの共生を促す看護	1. がん化学療法を受ける患者の理解 ①症状アセスメントに応じた必要な援助 ②がん患者と医療従事者のコミュニケーション ③がん患者の家族支援				講義
7	V. 人生の最期の時を支える看護	1. 終末期医療の現状 2. 終末期医療における概念 3. 人生の最期の時を過ごしている人の理解 4. 人生の最期のときを支える看護				講義
8		1. 筆記試験(60分)・授業評価アンケート				
評価方法及び評価基準		筆記試験 100点 筆記試験、その他講師が提示した課題を提出しなければ単位は認めない				
テキスト		系統看護学講座 成人看護学(1)成人看護学総論(医学書院)				
参考文献		国民衛生の動向 その他講義で提示する				

授業科目	成人看護学方法論Ⅳ	講師名	原 妙子 白瀬 美香	開講年次：1年後期	
				単位	時間数
				1	30(試験含む)
ねらい	1. 対象の機能障害の回復とセルフケアの再獲得を支援する看護について学ぶ。 2. 対象の機能障害の適応と慢性病との共存、社会復帰を支援する看護について学ぶ。				
授業計画					
単元名		教育内容			方法
1 2 3 4	I. 障害の回復に必要なセルフケアの再獲得の促進とボディイメージの変化に対する看護(白瀬 美香先生)	1. 機能障害と看護支援 2. ボディイメージの変化、自己概念と自尊感情 ① 脳・神経機能障害:脳出血 ② 排泄機能障害:人工肛門造設術を受けた患者の看護(ストーマ管理と社会支援) ③ 性・生殖機能障害:前立腺癌・乳癌手術の看護 ④ 感覚機能障害:視力・聴力障害			講義
5 6 7 8	Ⅱ. 慢性疾患と共に生きる患者の生活の再調整を支える看護(白瀬 美香先生)	1. 生活の再調整を促す看護支援 2. 社会復帰と社会資源 ① 呼吸機能障害: COPD ② 栄養代謝機能障害: C肝炎 肝硬変 ③ 内部環境調節障害(体液調節機能障害): 腎不全 ④ 免疫機能障害: 全身性エリテマトーデス			講義
9 10 11	内部環境調節障害(内分泌)のある人の看護(原 妙子先生)	1) 糖代謝障害の観察とアセスメント 2) 糖代謝障害のある患者の看護 1) 内分泌機能の観察とアセスメント 2) 内分泌機能障害のある患者の看護			講義
12 13 14	Ⅲ. がんとの共生を促す看護	1. がん化学療法時の症状アセスメントに応じた看護 ① 生体防御機能の障害のある人の看護: 悪性リンパ腫			講義
15		1) 筆記試験(60分)、まとめ・授業評価アンケート(30分)			
評価方法及び評価基準	筆記試験 合計100点 (1~9、13・14:70% 10~12:30% 計100点) 筆記試験、その他講師が提示した課題を提出しなければ単位は認めない				
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ成人看護学総論 成人看護学① 呼吸器 成人看護学② 血液・造血器 成人看護学④ 消化器 成人看護学⑤ 内分泌・代謝 成人看護学⑥ 腎・泌尿器 成人看護学⑧ アレルギー 膠原病 感染症 成人看護学⑩				
参考文献	奥宮暁子、図でわかるエビデンスに基づく呼吸困難のある人への看護ケア、中央法規 石原英樹ほか、呼吸器看護ケアマニュアル、中山書店 消化器外科ナーシング 2015 vol110、MCメディカ出版 その他講義で提示する				

授業科目	母性看護学概論	講師名	前川 彩	開講年次：1年次前期	
				単位	時間数
				2単位	30時間(試験含む)
ねらい	①母性の基本となる女性のライフサイクルを学び、リプロダクティブヘルスの概念を含めた権利を学習できる ②権利を守るための基本的な法律と母子に関連した法律を学習し社会問題について考察できる。 ③多様化する性と自己の性を自分なりに考察し、看護者としてどう関わる必要があるか見出すことができる ④生殖に関する人体の構造を理解し不妊治療の現状と課題、性感染症が与える影響を学習できる ⑤周産期医療システムと地域の現状をリンクさせ地域の課題にはどのような問題があるのか学習できる ⑥母性看護学概論を学習した総括として事例を用いて倫理的課題について自分なりの考察ができ共有できる ⑦母性学に関するポートフォリオ作成において、自ら課題を発見し考察する方法を学ぶことで、方法論での看護過程展開の考え方やアセスメント方法へつなげる				

授業計画

单元名	教育内容	時間(15)	方法
1:リプロダクティブヘルス 母性ってなんだろう	・母性とは何か、幅広く考え母性をめぐる様々な定義を理解し、母性看護学の対象のとらえ方について理解を深める キーワード:リプロダクティブヘルス、ヘルスプロモーション、エンパワーメント、ウェルネス、セルフケア、ボンディング、愛着形成、女性、家族発達、妊娠、出産、子育て、ワンオペ育児、孤育て、中絶、結婚、婚姻、夫婦別姓、婚活	4 (2)	講義 G W
2:性について考える 自己の性と他者の性、多様化する性、倫理的課題	・性とは何か、多様化する性の考え方は何か、それに伴う現状と課題について理解を深める キーワード:LGBT、セクシャルマイノリティ、セクシヤリティ、マイノティー、ジェンダー、世界の性的課題、性器切除、売春、買春、デートDV、パパ活、性被害、人身売買、割礼	4 (2)	講義 G W
3:女性のライフサイクルと各期の特徴と課題を知る 性感染症が与える影響	・女性のライフサイクルでの各期の特性と課題が、どのような影響を与えるのか理解する キーワード:ライフサイクル、女性の一生、月経周期、月経に関するホルモン、更年期、思春期、性行動、性反応、結婚、AYA世代、若年性の癌、性感染症、生殖器癌、性ホルモン、妊娠のメカニズム、婚活、お見合い、からの巣症候群、燃え尽き症候群、骨粗しょう症、萎縮性膣炎、性器脱、卵巣癌、子宮癌、子宮内膜炎、婦人科系腫瘍、更年期うつ、GnRhアゴニスト	4 (2)	講義
4:不妊症の現状と課題と倫理課題	・不妊症の原因や背景、治療法、生殖補助医療の種類と対象支援について理解する キーワード:不妊症、不妊治療、生殖補助医療、晩婚化、晩産化、ハイリスク妊娠、特定妊婦、IVF、GIFT、ART、不妊治療助成金、妊活、多胎妊娠、精子バンク、仮腹妊娠、メディ	4 (2)	講義 G W

	カルツーリスト、体外受精、顕微授精、採卵、タイミング法、AIH、妊活アプリ、基礎体温、卵子提供、		
5:母性に関する動向と課題 母子を守る法律と現状	<p>・母性看護の歴史と統計的指標からその変遷を知り、母性看護に関する組織や法律、母子保健施策の視点から現状を理解する。</p> <p>キーワード:出生率、合計特殊出生率、ひのえうま、妊婦死亡、死産率、周産期死亡、死産、乳児死亡率、新生児死亡率、早期新生児死亡率、初婚年齢、出産年齢ヘルスケアにおける倫理、看護者の倫理綱領、ナラティブアプローチ、倫理的ジレンマ、人工妊娠中絶、母体保護法戦後の母子保健、児童福祉法、母子保健法、労働基準法、男女雇用機会均等法、少子化対策、健やか親子21、産前産後休業、育児休業、労働者の福祉、育児時間</p>	4 (2)	講義 G W
6:周産期医療システム 生活地域の現状と福岡県 今までの学びを繋げよう	<p>・オープンウィンドウ64を用いた課題達成の考え方で、母子の命を守るために何が必要なのかを、1つの視点から多角的な視野へ広げる考察方法を学ぶと共に、今までの講義を統合することを目的とする</p> <p>・母子の命を守るために国、県、地域でどんな取り組みがなされているのか、その取り組みの根拠となる法律はなにか、救急体制はどのようなものがあるか、母体となる女性の健康のためになにができるか、働く女性の職場環境はどのようなことがあるか、出産場所にはどのような現状や課題があるか、母子を守るためにどんなサポートが必要かという8つのカテゴリーを細分化し、情報収集と考察、発表を行う。</p>	6 (3)	講義 G W
7:倫理的課題を分析	・ペーパーペイシエントを用いて事例から倫理的課題について自分なりの考察ができ共有できる	2 (1)	G W
評価・まとめ	筆記試験 70点	2 (1)★	
テキスト	<p>ナーシンググラフィカ 母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護</p> <p>ナーシンググラフィカ 母性看護学②母性看護の実際</p> <p>ナーシンググラフィカ 母性看護学③母性看護技術 メディカ出版</p>		
参考文献	国民衛生の動向		
評価方法及び評価基準	<p>筆記試験 70点 ※ポートフォリオ課題 30点、GW 評価、授業参加・発表態度を評価の参考とする。</p> <p>*ポートフォリオは印刷しただけのもの、ただ枚数をだせばいいは認めない。印刷したものをレポート用紙に貼付し、自己の考えや患者立場に立った場合どう考えるのかを感想ではなく、きちんとエビデンスを引用して考察したものとする。</p> <p>*最低 15 テーマ、コメント付箋 15 枚があり、ルールに基づいて作成されているもので、最高枚数の定めはない。</p> <p>*ポートフォリオの使用題材は、個々の興味が異なるため、同じ題材が多く提出されるとは考えにくい。特定の生徒が同じ題材が多く重なる場合は評価が減点される。</p> <p>*単位認定にかかる全ての筆記試験及び課題を提出しなければ単位認定は認められない</p>		

授業科目	小児看護学概論	講師名	堤 順子	開講年次：1年次後期		
				単位	時間数 単位	
				2	30時間(試験含)	
ねらい	1. 小児看護に求められる看護師の役割と課題を理解する 2. 子どもの発達段階・日常生活について理解し、小児の発達を学ぶ 3. 健康障害や入院が子どもや家族に及ぼす影響とその看護を学ぶ					
授業計画						
单元名	教育内容				時間	方法
Ⅰ 小児看護学で用いられる概念と理論	1 小児看護とは	看護の倫理綱領とキュブラロスの五段階反応 ①小児看護の対象と目的について述べるができる ②小児看護における家族の位置づけについて理解できる ③エビデンスに基づく小児看護の実践に関する課題について理解できる	①	90分	講義	
	2 小児看護の歴史と意義	①小児医療と小児看護の変遷を理解することができる ②子ども観を社会的状況、育児環境変化から述べるができる ③現代の小児医療の課題、今後のあり方を述べるができる ④現代の子どもを取り巻く社会環境(母子保健指標も含む)が理解できる	②	90分	講義	
	3 子どもの権利と看護	①子どもの権利を尊重した看護について理解できる ②子どもの権利条約の意義と特徴について理解することができる ③小児看護を実践する中で留意する子どもの権利を理解することができる ④現代社会と小児医療における子どもの権利に関する課題について理解することができる	③	90分	講義	
	4 小児看護と法律・施策	①子どもと親を支援するための法律・施策について理解できる				
	5 小児看護で用いられる理論	①小児看護で用いられる各理論を理解することができる ②小児看護の実践において各理論を活用することができる	④	90分	講義	
Ⅱ 子どもの成長・発達と看護	1. 成長・発達の原則	①子どもは日々、成長・発達過程にあるということを理解する ②子どもの成長・発達に影響を及ぼす要因について理解する	⑤	90分	講義 DVD	
	2. 乳児期の子どもの成長・発達と看護	①乳児の成長・発達過程を理解し、乳児期の子どもの姿がイメージできる ②乳児期に見られる健康問題について理解できる ③乳児のセルフケアの発達を促す看護を理解できる	⑥	90分	講義 DVD	

	3. 幼児期の 子どもの成 長・発達と看 護	①幼児期の子どもの成長・発達の特徴と発達過程が理解できる ②幼児期の子どもを養育する家族の現状と課題を理解する ③幼児期にとっての食事の意義と食行動の自立に向けた援助を 理解する ④幼児の排泄機能の成長・発達と排泄行動の自立に向けて援助を 理解する ⑤幼児の睡眠と規則正しい生活の必要性を理解する ⑥幼児の健康維持に対する取り組みとしての清潔行動確立に向 けた援助を理解する ⑦幼児にとっての遊びの意義と発達を促すために必要な遊びへ の援助を理解する ⑧幼児に生じやすい事故の特性と、家族を含めた事故防止や安全 教育の必要性を理解する	⑦⑧ 180 分	講義 DVD
	4. 学童期の 子どもの成 長・発達と看 護	①学童期における標準的な成長・発達が理解できる ②学童期における児と家族のセルフケアの相補関係が理解でき る ③学童期における健康問題が理解できる ④学童期の健康問題解決における看護者の役割が理解できる	⑨ 90分	講義
	5. 思春期の 人々の成長・ 発達と看護	①思春期の成長の特徴である第二次性徴を理解できる ②思春期の発達課題であるアイデンティティの確立について理 解する ③思春期の人々を取り巻く環境について理解する ④思春期の人々に起こりやすい健康問題を理解する ⑤思春期の人々の成長・発達の特徴を踏まえた援助について理解		講義 レポ ート
	6. 発育の評 価	①発達評価の必要性について理解することができる ②発育(成長・発達)を評価する方法を具体的に提示することがで きる ③フィジカルアセスメントの必要性や留意点を理解することが できる ④子どもに適した身体発育の評価の必要性を理解し、評価方法を 選択・実施することができる ⑤子どもの状況に適した心理社会的発達の評価の必要性を理解 し、選択することができる	⑩ 90 分	講義
Ⅲ健康障害 をもつ子ど も・家族へ の看護	1. 健康障害 や入院が子ど もと家族に及 ぼす影響と看 護	①子どもの病気の理解について発達の特徴と関連させて理解で きる ②病気や入院による子どもとその家族への影響について理解で きる ③疾病や入院に伴う子どもとその家族のストレスを緩和する支 援について理解できる		講義

	2. 急性期にある子どもと家族への看護	①発熱時、脱水時、痙攣時、呼吸困難時、生命徴候が危険な状況のアセスメントの視点と必要な看護ケアについて理解できる ②急性期にある子どもの家族の心理を理解し、必要な看護について理解できる	⑪ 90分	講義
	3. 慢性期にある子どもと家族への看護	①慢性期にある子どもとその家族、子どものエンパワーメントを支援する上で必要な看護を理解できる	⑫ 90分	グループ発表
	4. 終末期にある子どもと家族への看護	①子どもの死の概念発達とその特徴、終末期にある子どもとその家族について理解できる ②終末期にある子どもの緩和ケア、QOLを支援する上で必要な視点について理解できる		
	5. 検査や処置を受ける子どもと家族への看護	①子どもの検査・処置における看護者の役割を理解し、子どもが受ける検査・処置において、適切に援助することができる		
	6. 手術を受ける子どもと家族への看護	①子どもの手術の特徴を理解し、手術を受ける子どもをイメージすることができる ②手術を受ける子どもの術前看護、術後看護を理解し、その家族への援助がイメージできる	⑬⑭ 180分	グループ発表
	7. 外来における子どもと家族への看護	①小児外来では、どのような健康問題を持った子ども達や家族が受診するか理解できる ②日常的疾患、慢性的・長期的な健康問題で受診する子どもや家族への援助が理解できる ③外来環境を考える上で必要な条件や、小児外来看護の課題について理解できる		
	8. 在宅における子どもと家族への看護	①入院生活から在宅療養に移行する子どもと家族を支える看護者の役割が理解できる		
	9. 災害を受けた子どもと家族への看護	①災害時支援優先度が高いとされる子どもと家族の災害時の状況がイメージできる ②災害による子どもへの影響を理解し、健やかに生活するための支援について考えられる		
	10. 被虐待時と家族への看護	①虐待を受けている、またその可能性のある子どもと家族への支援について理解できる		グループ発表
	試験	筆記試験	⑮	
評価方法及び評価基準	筆記試験 100点 筆記試験、その他講師が提示した課題を提出しなければ単位は認めない			
テキスト	ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 ナーシンググラフィカ 小児看護技術			
参考文献				

授業科目	精神看護学概論	講師名	中村 一孝	開講年次：1年次後期	
				単位	時間数
				2	30時間(試験含む)
ねらい	現代社会の医療福祉の立場から重要な視点を整理しつつ、看護現象を観る力をつけ精神看護実践の現状と課題について考えたい。全ての看護学につながる人間の精神の構造を病理としくみを理解し精神医療と看護の知識を身につけてほしい。さらなるねらいは学生の身近な話題から他人事ではない自分たちの日常の精神・心理現象であることを知り日頃の健康な精神の在り方を考えることができる学習にしたい。				

授業計画

単元名	教育内容	時間	方法
第1章 精神看護学で学ぶこと	A 「心のケア」と現代社会 B 精神看護学とその課題 C 多様化する精神医療ニーズ	16	講義 ミニテスト レポート
第2章 精神保健の考え方	A 「生きにくさ」と課題 B 精神障害のとらえ方 C ストレスと健康の危機 D 心的外傷が精神の健康に及ぼす影響 E 回復(リカバリー)を支える力「レジリエンス」		
第3章 人間の心のはたらきとパーソナリティ	A 人間の心の諸活動 B 心のしくみと人格の発達		
第4章 関係のなかの人間	A 全体としての家族 B 人間と集団		
第5章 精神科で出会う人々	A 精神を病むことと生きること B 精神症状論と状態像 C 精神障害の診断と分類	12	講義
第6章 精神科での治療	A 精神科における治療 B 薬物療法・電気けいれん療法 C 精神療法 D 環境療法・社会療法		
第7章 社会のなかの精神障害	A 精神障害と治療の歴史 B 日本における精神医学・精神医療の流れ C 精神障害と文化 D 精神障害と社会学 E 精神障害と法制度		
試験	筆記試験 及び まとめ	2	試験
評価方法及び評価基準	配点 100点 筆記試験、その他講師が提示した課題を提出しなければ単位は認めない		
テキスト	武井麻子： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院 2019 国民衛生の動向		

参考文献

- 上島国利： ナースの精神医学 改訂4版 中外医学社 2015
吉田佳朗： 精神科看護の知識と実際 メディカ出版 2009
森則夫： 生物学的アプローチによる精神科ケア 南江堂 2004
宮本眞己： アディクション看護 医学書院 2008
坂田三允： 生活領域からみた精神科看護 医学書院 2001
天賀谷隆： 看護実践・看護倫理 精神看護出版 2007
鹿島清五郎： 精神看護の専門性をめざして 精神看護出版 2002
武井麻子： 精神看護の基礎 医学書院 2019

その他は授業の中で紹介します

あさくら看護学校 授業の受講についてのルール

1. 受講上の注意

1. 受講マナー

- (1) 板書等の撮影、授業を録音・録画することを禁止します。
- (2) 受講に関しては、静粛かつ真剣に受講してください。私語は禁止します。
- (3) 授業担当者からの再三の注意にもかかわらず、受講態度を改めない学生には、授業担当者の判断により教室から退出を求める場合があります。
- (4) 携帯電話・スマートフォン・タブレット等の使用を禁止します。
受講中、携帯電話・スマートフォン・タブレットの電源は、切るかマナーモードにしておいてください。
(講義途中、呼び出し音などがなることは厳禁です)
- (5) 授業中の飲食は禁止します。ガムをかむなどの行為もしてはいけません。
- (6) 授業に遅刻して入室しなければならなくなったときは、必ず授業担当者とその旨を報告の上、着席してください。
- (7) 授業中に無断で退出することは禁止します。

* 授業の録音、録画について

授業の録音、録画については、各学校によってさまざまな対応がなされています。本学校では、2点から録画、録音の禁止を行っています。1点目は、看護学校の講義内容の特殊性から講義中の話に、学生の名前、患者のプライバシーなど含まれる可能性があります。それらは講義中の学習として話されたものでありますが、録画・録音をした場合、外部に漏れる可能性があります。録音・録画されたものの取り扱いについてのチェックは難しく、それらが更にインターネット上にアップロードされる危険性を考えると、録音録画は禁止とさせていただきます。

2点目は、我々になろうとする看護師は、場面での話をきちんと聴く能力が求められます。講義においても、その場その時講師が何を言わんとしているかをきちんと聴き取ることを訓練していただきたいと考えます。それが、聴く能力の獲得につながると思います。以上、2点から本校では録音録画を禁止いたします。

2. 教室内のマナー

- (1) 消し忘れの板書は消し、清潔な教室を常に心がけましょう。
- (2) 授業終了後、不要な照明や冷暖房は、スイッチを切ってから退出しましょう。
- (3) 教室を利用して飲食をする場合は、ゴミを教室に捨てないで、所定の場所に分別して捨てましょう。
- (4) 机・椅子を移動した場合は元の状態に戻してください。

3. 授業アンケート

本学では、授業担当者がより良い授業を行うために、授業アンケートを実施しています。

授業アンケートは、授業期間中に授業改善ミニアンケートやリアクションシート、授業評価といった用紙を使用して、学生の皆さんの意見を確認します。授業期間内にアンケートを実施することによって、授業をより良くすることができますので、協力をお願いします。

その結果は学校全体として分析し、学生の皆さんがより良い授業を受講できるよう改善を進めていきますので、必ず回答をお願いします。

成績評価の対象にもなりませんので、授業に対して感じた率直な意見や感想を入力してください。

平成 30 年 5 月 24 日作成

単位認定試験受験のルール

1. 受験のルール

- ①授業時間の2/3以上を受講しなければ受験資格はない
- ②試験に無断で欠席した場合は受験資格を失うことになる
(単位認定ができないため進級はできない)

	内容	備考
	<p>事前に受験方法及び試験に関する決まり事を説明を受け理解しておく 週番は、早めに出席確認をして、出席していない学生については、クラス内で連絡をとる</p> <p>体調不良者は事前に教務室に来て、教務にその旨を報告し指示を受ける</p>	
1	1. 学生は試験 5 分前に着席しておく	1. 受験できる体制で着席をしておく 2. 5 分前になったら入り口のドアを閉める (入室禁止とする)
2	1. 出席確認をする ①出席番号順に着席する	1. 仮に欠席者がいたとして机を前に詰めない
3	1. 出席確認後、 ① 机の上に落書きや文字が書かれていないか確認する ② 机の中にモノが入っていないか確認する ③ 机上に置けるもの ・鉛筆 (シャープペン)、消しゴム、時計機能だけの時計、シャープペンの芯はあらかじめ入れておけるため不可、その他講師が特別指示したモノ ・ポケットティッシュ、ハンカチは事前に教員にチェックを受けたモノのみ可とする * 目薬は持ち込み不可	1. 試験の前日に自分が座っている机上の落書きを消しておくように伝える もし、後でわかったら席についている学生の責任とし試験が無効になることもある 2. 自分の机と異なるが、引き出しに物が入っていたら着席している人の責任となるため確認をする
4	1. 週番は、黒板に指定の記載事項を記入しておく 科目名 (担当講師名) 試験時間 退出可能時間 在籍人数 欠席人数・名前 2. 試験問題配布される ① 解答用紙を配布されたら、後ろの人に回す (裏にして) ② 次に試験問題を配布されたら、後ろの人に回す (裏にして) 3. 試験問題の枚数と解答用紙の枚数を伝えられるため、試験開始後すぐに確認する 4. 問題の質問や落とし物等は必ず挙手する 5. 遅刻の際 15 分以内であるならば受験可能である	*遅刻については、15分以内に教室入っていなければ15分遅刻と認めない。(教室に入った時間が15分以内の場合は認める)従って、教室外で15分を超えた場合も受験資格はない

5	<p>1. 教室前の時計を目安に試験開始の合図をされるため、験を開始する</p> <p>① 試験問題枚数と解答用紙枚数の確認をする</p> <p>② 試験問題、解答用紙共に名前の記載をする</p>	
6	<p>1. 試験が始まって落ち着いてきたら、机間巡視が始まる</p> <p>① 机上に文字が書いていないか確認される</p> <p>② 机上に指定されたもの以外がないか確認される</p> <p>③ 受験環境として、机に位置、個人のモノの所在、机間巡視できる幅があるか確認される</p> <p>④ 後ろから、机の中にモノがないか確認される</p> <p>⑤ 試験の受け方で、問題用紙を机から垂らしている・姿勢が悪く斜めで記載しているなどは随時声を出さずに注意をされることがある</p>	<p>1. 教員は試験時間中、監督を行っているため質問等があれば挙手する</p>
7	<p>① 学生はトイレに行きたい場合は申し出る（他教員を呼んでもらうため早めに申し出る）</p> <p>・学生は、問題用紙解答用紙を裏にして席を立つ</p>	
8	<p>1. 途中退出者について</p> <p>① 地中退出者は、問題用紙、解答用紙を裏にする</p> <p>② 静かに立ち、自分の席から近いドアから退出する</p> <p>③ 試験後授業がある場合もあるため、待機場所はさくらホールとする（他の授業のことなどはしない）</p>	<p>1. 途中退出は可能であるが、試験時間はその科目の授業時間であるため、他の授業のことや飲食をする時間ではない</p>
9	<p>1. 試験終了5分前になったら「試験終了5分前です。再度試験問題、解答用紙に名前を書いているか確認してください」と伝えられるため確認をする</p>	<p>1. 枚数が多いものはすべての問題用紙に名前を記入する</p>
10	<p>1. 試験終了の合図をされたら、鉛筆を置いて解答用紙を裏にする。監督の指示に従って、後ろから集める</p>	
11	<p>1. 次の指示がなされるため、指示に従う</p> <p>授業</p> <p>① 途中退出者は教室に入る</p> <p>② 授業を開始する</p> <p>授業外</p> <p>① 他学年は授業中であるため、静かに過ごす</p>	

平成31年3月18日作成

問題用紙・解答用紙返却に際してのルール

- ①返却のルールは、読んで理解しておく
- ②返却に際して、事前に返却する旨の掲示があるため必ず掲示板上で確認する。
- ③点数 57 点以上 60 点未満の答案用紙はコピーをする
- ③解答用紙、問題用紙を返却後、模範解答を伝える
- ④ 採点間違いの申告は、模範解答を伝えたのち 10 分以内としそれ以降はどのような申し出も受け付けない
 - ・単純な採点ミスは受け付けるが、記述式の問題については受け付けない（特に外部講師の記述式については受け付けない）
- ⑤返却時の環境
 - ・返却の場所は、整理された環境で返却を行うことになっており、掲示板上で事前に指示がある（基本的には、自教室以外の場所で行うこと）
 - ・返却されたら、各自座って確認する（他の学生の席に移動してはいけない）
 - ・採点間違いを申告しないものは、返却場所から速やかに退出する
 - ・一度退出した学生は、再び返却場所に戻って対象科目の試験について異議申し立てをすることはできない
 - ・返却の際、鉛筆、消しゴムの持ち込みを厳重に禁止する（単色（青色）ボールペンのみ持ち込み可・消しゴム・鉛筆の持ち込みは不可とする）

令和元年 6 月 27 日

令和元年 7 月 2 日改正

再試験・追試験の受験料支払いについてのルール

あさくら看護学校細則

(追試験)

第22条 本試験を受けることができなかった場合、追試験を受けることができる。

- 2 追試験は、次の各号をすべてみなさなければ認められない。
- 3 追試験が認められた者は、当該試験の3日前(17:00)までに事務室に受験料を納付しなければならない。

*追試験は、やむを得ない場合を除いては認めない方針である

(再試験)

第23条 本試験に不合格となった場合、再試験を行う。

- 2 再試験を希望する者は、事務室に再・追試験願と受験料を添えて当該試験日の3日前(17:00)までに提出しなければならない。

【運用】

- 1、土曜日・日曜日・祝日・及び学校が規定した休業日を入れない3日前とする

運用例

水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日	試験日
	3日前 支払最終日	2日前			1日前	当日

*木曜日の17:00までに支払いを行う

水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日 (祝日)	試験日
3日前 最終支払日	2日前	1日前				当日

*水曜日17:00までに支払いを行う

*土曜日・日曜日・祝日及び学校が規定した休業日を入れないとは・・・

学則第7条

休業日は、次の通りとする

- (1) 国民の祝日に関する法律に定める休日
- (2) 土曜日および日曜日
- (3) 季節休業は学年を通じて10週間とする

夏季休業6週間、冬季休業2週間、春季休業2週間

(4) 前3号に定めるもののほか、校長の定める日
とあるため、上記1号・2号・4号とする。

・3号に関しては、やむを得ない場合、季節休業時に再試験・追試験を行うこと
があるため、その限りではない。

(季節休業中も、原則試験日3日前の支払いとする)

・土曜日、日曜日が出校日の場合(てふてふ祭・宿泊研修等)でも、土曜日・日
曜日となるため3日前には入らない。

結論

3日前とは、下記に挙げた休業日以外の日(平日)とする

- 1、 国民の祝日に関する法律に定める休日
- 2、 土曜日および日曜日
- 3、 前3項に定めるもののほか、校長の定める日
- 4、 土曜日、日曜日が出校日の場合(てふてふ祭・宿泊研修等)でも、土曜
日・日曜日となるため3日前には入らない。

2、支払いができなかった場合の対応

*払う意思がない(受験の意思がない)ものとして受験することはでき
ない。

再試験を受験できないということは、単位認定ができないということ
であり、進級・卒業に関する

*不測の事態も考えられるため、掲示されたらできるだけ早めに支払い
をすること

*個人的に支払いについての促しはしない。自己責任として、受験不可
となる。

平成30年10月26日作成

授業科目		配当年次・学期		講師名	資格	実務経験年数	実務経験内容	授業科目概要・目標	単位	時間数	
基礎分野	家族論	2年	前期	入部 久子	看護師 保健師 助産師	3	病院にて看護師として勤務	1. わが国の家族は、少子・高齢化が進む中で育児不安や離婚の増加、高齢者のケアなど諸問題に直面している。このような中で、家族の構造や機能を含めて家族とはなにかについて考える。社会的要因の家族への影響や家族支援など看護師に求められる看護ケアの進め方を学ぶ。	1	30	
	人権論	2年	前期	信友 浩一	医師	12	病院（呼吸器内科）にて勤務	1. 社会的なものの方や考え方を身につけ、偏見や感情や自分の立場に支配されずに現実を見る目を養う。	1	30	
専門基礎分野	病理学	1年	前期	田口 順	医師	31	病院（病理診断科）にて勤務	1. 疾病になる原因を探り、疾病によって患者の身体に生じている変化を明らかにし、診断や予防において観察力を高め判断力を養う。	1	30	
	疾病と治療Ⅰ	アレルギー	1年	前期	古賀 丈晴	医師	33	病院（呼吸器・内科）にて勤務	1. 呼吸器疾患・アレルギー疾患、血液・造血器疾患、膠原病、皮膚疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。	1	30
		呼吸器			草場 信秀	医師	31	病院（血液・内科）にて勤務			
		血液・造血器・膠原病			松元 二郎	医師	33	病院（皮膚科）にて勤務			
		皮膚疾患									
	疾病と治療Ⅱ	循環器疾患	1年	前期～後期	大島 英樹	医師	14	病院（循環器内科）にて勤務	1. 循環器疾患、運動器疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。	1	30
					堀 真貴子	医師	10	病院（循環器内科）にて勤務			
		運動器疾患			藤井 正敏	医師	43	病院（整形外科）にて勤務			
					小山 耕一	医師	30	病院（整形外科）にて勤務			
	疾病と治療Ⅲ	腎	1年	後期	森山 敦夫	医師	40	病院（腎臓・内科）にて勤務	1. 腎・泌尿器疾患、内分泌・代謝疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。	1	30
		泌尿器疾患			松永 祥弘	医師	4	病院（泌尿器科）にて勤務			
		内分泌・代謝疾患			山田 研太郎	医師	43	病院（糖尿病・内科）にて勤務			
	疾病と治療Ⅳ	小児	1年	後期	黒田 直宏	医師	21	病院（小児科）にて勤務	1. 小児疾患や消化器疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。	1	30
		消化器疾患			河口 康典	医師	21	病院（消化器内科）にて勤務			
					高田 晃男	医師	26	病院（消化器内科）にて勤務			
	疾病と治療Ⅴ	女性疾患	1年	後期	東島 利紀	医師	32	病院（産婦人科）にて勤務	1. 脳神経疾患、リハビリテーション、女性疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。	1	30
リハビリテーション		下川 裕			理学療法士	16	病院（リハビリテーション科）にて勤務				
脳神経疾患		大浅 貴朗			医師	26	病院（脳神経外科）にて勤務				
疾病と治療Ⅵ	歯科口腔疾患	2年	前期	廣田 溪	医師	6	病院（歯科・口腔外科）にて勤務	1. 眼科疾患、耳鼻咽喉器疾患、歯科口腔疾患、精神疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。	1	30	
	精神疾患			吉良 健太郎	医師	9	病院（精神科）にて勤務				
	眼科疾患			廣木 稔	医師	22	病院（眼科）にて勤務				
	耳鼻科疾患			富田 和英	医師	24	病院（耳鼻咽喉科）にて勤務				
栄養学		1年	前期	小島 良子	管理栄養士	50	病院にて管理栄養士として勤務	1. 生体に必要な栄養素のはたらきを理解する。 2. 食事の重要性や食生活に伴う健康問題について学び臨床で活用できる知識を養う。	1	30	
薬理学		1年	後期	江藤 良典	薬剤師	36	病院（薬剤科）にて勤務	1. 薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び薬物の管理について理解し臨床で活用できる。	1	30	
保健医療論Ⅰ		1年	前期	西依 淳	医師	30	病院（小児科）にて勤務	1. 人々が生涯を通じて健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できる必要な知識を学ぶ。 2. 保健医療に関する基本概念・関係制度から関係職種役割を理解する。	1	15	
社会福祉学概論		2年	前期	泉 賢祐	社会福祉士	15	病院にて社会福祉士として勤務	1. 社会福祉の変遷や基本理念・概念を理解し、社会保障制度の内容とその背景を理解する。 2. 人々が生涯を通じて健康や障害の状況に応じて社会資源を活用できるように必要な知識と基本的能力を養う。	1	15	
社会福祉法制論	前期		病院にて社会福祉士として勤務				1. 社会福祉の法制度及びその活用方法を理解し、臨床現場での他職種との連携に役立てることができる。	1	15		

授業科目		配当年次・学期		講師名	資格	実務経験年数	実務経験内容	授業科目概要・目標	単位	時間数
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	1年 前期	中原 彩実	看護師	15	病院にて看護師として勤務	1. 「看護」「健康」「人間」「環境」を看護に活用できるように基本要素を学ぶと共に意義を理解する。 2. 看護の対象や看護の場、看護倫理、看護システム、看護の国際化の学びを通し、実際の看護活動や今後の看護のあり方について考える。	2	30
		方法論Ⅰ	1年 前期～後期	江藤 則子	看護師	17	病院にて看護師として勤務	1. 科学的な根拠に基づいた看護技術を習得する。 2. コミュニケーション、フィジカルアセスメントを強化し看護過程を学び実践のための基礎技術を習得する。 3. 事例を通し看護技術を適用する方法を学ぶ。	2	90
				白瀧 美香	看護師	19	病院にて看護師として勤務			
				堀内 幸代	看護師	11	病院にて看護師として勤務			
		方法論Ⅱ	1年 前期～後期	白瀧 美香	看護師	19	病院にて看護師として勤務	1. 健康生活の維持や疾病回復の過程を「生活する視点」から諸科学を結びつける形で援助を捉える。 2. 看護の対象の生活過程を整えるため、その援助方法を習得する。	2	90
				堀内 幸代	看護師	11	病院にて看護師として勤務			
				宮川 理恵	看護師	16	病院にて看護師として勤務			
方法論Ⅲ	1年 後期	白瀧 美香	看護師	19	病院にて看護師として勤務	1. 診察、検査・治療処置をうける患者への援助及び診療補助技術が身体に及ぼす影響を理解する。 2. 患者への安全な看護技術の援助方法を身につける。	1	45		
		宮川 理恵	看護師	16	病院にて看護師として勤務					
臨床看護総論	2年 前期～後期	堀内 幸代	看護師	11	病院にて看護師として勤務	1. さまざまな健康上のニーズをもつ人々に、既習の個々の看護技術を統合し、主要症状別看護、経過別看護で疾病・障害をもった患者に対しての看護技術の応用を学ぶ。	2	90		
白瀧 美香	看護師	19	病院にて看護師として勤務							
池田 陽子	看護師	9	病院にて看護師として勤務							
看護研究	3年 前期～後期	池田 陽子	看護師	9	病院にて看護師として勤務	1. 看護における研究の意義・役割を理解し、文献検索の重要性と積極的活用を学ぶと共に、研究の方法についての基本的知識を習得する。	1	30		
専門分野Ⅱ	成人看護学	概論	1年 前期	江藤 則子	看護師	17	病院にて看護師として勤務	1. 青年期以降50年間にわたる成人期にある人々の生活が時代と共に様変わりすること、及びライフサイクルにおける対象を理解し、成人期の特徴、成人保健の動向や成人期の健康問題を学ぶ。	1	15
		方法論Ⅰ	1年 前期	白瀧 美香	看護師	19	病院にて看護師として勤務	1. 社会の中核となる成人期のさまざまな健康レベルにある人々を支える看護のあり方を学び、身体的精神的社会的に複雑な様相を呈する成人の健康状態に焦点を合わせて、健康生活を促す看護を学ぶ。	1	15
		方法論Ⅱ	2年 前期	河原 朋果	看護師	13	病院にて看護師として勤務	1. 急性期にある患者の特徴を理解し、手術療法をうける患者への看護援助や生命の危機的状況にある患者への看護援助を学ぶ。 2. 救急看護における知識・技術・態度を学び、看護過程を通して臨床実践能力の向上を図る。	1	45
				今村 佳	看護師	19	病院にて看護師として勤務			
				内田 ひろみ	看護師	20	病院にて看護師として勤務			
				吉宗 由美子	看護師	36	病院にて看護師として勤務			
				江藤 則子	看護師	17	病院にて看護師として勤務			
		方法論Ⅲ	2年 後期	江藤 則子	看護師	17	病院にて看護師として勤務	1. 身体の喪失や身体機能の障害をもつ人の、回復期の患者を理解し、その人らしく生活するための生活過程を整える知識・技術・態度を学ぶ。 2. 事例を通し臨床実践能力の向上を図る。	1	30
		方法論Ⅳ	1年 後期	原 妙子	看護師	22	病院にて看護師として勤務	1. 長期にわたって治療を必要とする慢性疾患をもつ患者の、生涯疾病と共に生活するためのマネジメントができるような看護援助に必要な知識・技術・態度を学ぶ。 2. 看護過程の展開を通して臨床実践能力を図る。	1	30
				白瀧 美香	看護師	19	病院にて看護師として勤務			
方法論Ⅴ	2年 後期	満上 千代美	看護師（緩和ケア認定看護師）	28	病院にて看護師として勤務	1. がん等の治療困難な疾病を持つ患者の終末期の苦痛を理解し、がん看護における緩和ケアを学ぶ。 2. 生命の尊厳やQOL等、倫理的配慮を含め事例を通して学ぶ。	1	15		
老年看護学	概論	2年 前期	中原 彩実	看護師	15	病院にて看護師として勤務	1. 老年看護学概念を理解し、加齢に伴う身体的・生理的・社会的変化を理解する。 2. 高齢化社会の現状やライフスタイル、ニーズを理解し、老年看護の対象、目的、役割について学ぶ。	2	30	
	方法論Ⅰ	2年 前期～後期	馬田 聡美	看護師	30	病院にて看護師として勤務	1. 老年期の健康状態と老化の側面から把握し、生活機能の観点からアセスメントすることで看護を展開する方法を学ぶ。	1	30	
			伊藤 哉女	看護師	17	病院にて看護師として勤務				
	方法論Ⅱ	2年 後期	福嶺 初美	看護師（老人看護専門看護師）	33	病院にて看護師として勤務	1. 健康障害のある高齢者を理解し、疾病予防・健康の回復・保持増進の視点を含め、看護過程の展開を通して看護実践能力を養う。	1	30	
伊藤 哉女			看護師	17	病院にて看護師として勤務					
小児看護学	概論	1年 後期	堤 順子	看護師	29	病院にて看護師として勤務	1. 小児看護の特徴、小児各期の生活と環境について理解し、健康な小児の日常生活の保持・増進さらに小児看護の目的、役割、機能について学ぶ。 2. 健康障害が小児と家族に与える影響を理解し予防、健康の回復及びよりよい成長・発達への看護支援を学ぶ。	2	30	
	方法論Ⅰ	2年 前期	伊藤 哉女	看護師	17	病院にて看護師として勤務	1. 健康障害が小児及び家族に及ぼす影響を理解し、小児の症状・検査・処置に応じた看護援助の方法と看護アセスメントを学ぶ。 2. 小児と家族のおかれた環境、生活に適應できるための援助を理解する。	1	30	
			宮川 理恵	看護師	16	病院にて看護師として勤務				
	方法論Ⅱ	2年 前期～後期	伊藤 哉女	看護師	17	病院にて看護師として勤務	1. 小児の疾病・障害の病態を理解し、健康障害に応じた看護を理解する。 2. 小児の成長・発達をふまえたアセスメント力を高め、健康問題を理解する中で臨床実践能力の向上を図る。	1	30	
			宮川 理恵	看護師	16	病院にて看護師として勤務				

授業科目		配当年次・学期		講師名	資格	実務経験年数	実務経験内容	授業科目概要・目標	単位	時間数
専門分野Ⅱ	母性看護学	概論	1年 前期	前川 彩	看護師 助産師 保健師	11	病院にて看護師・助産師として勤務	1. 母性看護の対象を理解し、母性看護の意義を学ぶ。 2. 母性を取り巻く社会情勢と法制度、母子保健の動向を理解し母性看護の役割を学ぶ。	2	30
		方法論Ⅰ	2年 前期	井手 輝実	看護師 助産師	37	病院にて看護師・助産師として勤務	1. 妊娠・分娩・産褥期における対象理解と健康の保持増進の看護を学ぶ。 2. 新生児の看護と保健指導の意義を理解する。	1	30
				前川 彩	看護師 助産師 保健師	11	病院にて看護師・助産師として勤務			
	方法論Ⅱ	2年 前期	前川 彩	看護師 助産師 保健師	11	病院にて看護師・助産師として勤務	1. 産褥期の看護、正常分娩の経過からハイリスクな状況の人々の分娩経過とその看護を学ぶ。 2. 新生児の看護と産後の保健指導を理解し看護過程の展開を通して臨床実践能力の向上を図る。	1	30	
	精神看護学	概論	1年 後期	中村 一孝	看護師	30	病院にて看護師として勤務	1. 精神の健康の保持増進と、健康障害時の看護を理解する。 2. 人間の心の健康と精神障害者を理解し生活の場及び精神の健康問題について考え、ストレスの状況と危機の状況に対する適切な危機介入や精神保健活動を通し精神看護の意義・役割・機能について学ぶ。	2	30
		方法論Ⅰ	2年 前期	田中 みとみ	看護師	48	病院にて看護師として勤務	1. 精神を病む人への看護援助を学ぶ中で、精神看護師の役割及び知識・技術・態度を理解し対象に応じた援助を学ぶ。	1	30
方法論Ⅱ		2年 後期	安本 圭一	看護師	24	病院にて看護師として勤務	1. 患者と看護者関係を築いていく上で必要な自己理解、他者理解のための知識・技術・態度を学ぶ。 2. 精神障害の特徴的な症状とその看護を理解する。	1	30	
	平山 顕行		看護師	19	病院にて看護師として勤務					
統合分野	在宅看護論	概論Ⅰ	2年 前期	瓜生 知佳子	看護師 保健師	7	病院にて看護師として勤務	1. 地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し在宅での看護の基本概念を学ぶ。 2. 在宅看護を取り巻く社会の現状や時代背景及び歴史の変遷を学び、在宅看護の意義や目的、更に他職種との連携を理解する。	1	15
		概論Ⅱ	2年 前期	長尾 一樹	看護師（認知症看護認定看護師）	15	病院にて看護師として勤務	1. 在宅看護の対象となる人とその家族を理解し在宅で療養する看護の実践を学ぶ。 2. 療養者が生活する地域の特徴と地域が療養者、家族に及ぼす影響が理解できる。	1	15
				瓜生 知佳子	看護師 保健師	7	病院にて看護師として勤務			
		方法論	2年 前期～前期	瓜生 知佳子	看護師 保健師	7	病院にて看護師として勤務	1. 在宅看護を実施する上で必要とされる実践に必要な知識・技術・態度を実践的に習得する。 2. 事例を通して、在宅看護における看護過程の展開方法を学ぶ。	2	60
	看護の統合と実践	看護技術統合Ⅰ	3年 前期～後期	池田 陽子	看護師	9	病院にて看護師として勤務	1. 臨地に近い状況で看護を学び複数患者を受け持ち、優先順位を判断し実施することができる判断力と日常生活技術を習得する。	1	30
		看護技術統合Ⅱ	3年 前期～後期	池田 陽子	看護師	9	病院にて看護師として勤務	2. 医療機器を装着している患者の観察と判断力・マネジメント力・実践のためのコミュニケーション能力を学ぶ。看護技術の総合的評価を行う。	1	30
		看護管理Ⅰ	3年 前期～後期	堤 順子	看護師	29	病院にて看護師として勤務	1. 既習の知識・技術・態度を統合し望ましい臨床実践マネジメント基礎能力を身につける。 2. チーム医療及び他職種との協力の中で看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解する。	1	15
				中原 彩実	看護師	15	病院にて看護師として勤務			
		看護管理Ⅱ 災害看護学	3年 前期	渡邊 隆明	看護師	23	病院にて看護師として勤務	1. 災害直後から支援できる看護の基礎知識を理解すると共に医療安全の臨床に近い体験を事例を用いて認識を高める。	1	15
		看護管理Ⅱ 国際看護学	3年 後期	瓜生 知佳子	看護師	7	病院にて看護師として勤務	2. 国際社会において看護師として諸外国との協力を考えることを目的に異文化を理解しとの看護交流を学ぶ。		
実務経験のある教員等による授業科目の単位数の合計									54	単位

カリキュラムガイダンス

授業科目概要



令和2年度

2年生（10回生）

あさくら看護学校

ASAKURA
MEDICAL
ASOCIATION NURSING
COLLEGE



令和2年度 教職員氏名一覧

名称		氏名	担当領域
校 長		坂 田 高	
副 校 長		中 原 彩 実	
学校担当理事		杉 山 正 治	
健康管理医		安 永 祐 三	
教科長/1年生担任補佐		伊 藤 哉 女	老年看護学
教科長(新力リ担当)/実習補佐		瓜 生 知 佳 子	在宅看護論
実習調整/2年生担任補佐		江 藤 則 子	成人看護学
1年生担任		瓜 生 知 佳 子	
専任教員/2年生担任		宮 川 理 恵	小児看護学
専任教員/3年生担任		堀 内 幸 代	基礎看護学
専 任 教 員	国試補佐	池 田 陽 子	看護の統合と実践
	健康管理	白 瀧 美 香	成人看護学
	1年生副担任	前 川 彩	母性看護学
		中 村 一 孝	精神看護学
実習担当教員		月 俣 里 美	
		小 河 憲 美 子	
		今 村 佳 代	
事 務 長		衛 藤 昌 一	
事 務		鳥 越 恵 理	
事 務		原 田 亮 二	
事 務		藤 本 喜 代 美	
事 務		養 父 ミ 子	
図 書 司 書		中 原 織 音	
		吉 岡 由 美 子	

目 次

令和2年度 学年歴	・・・ 1
【基礎分野】	・・・ 2～7
情報科学	・・・ 2
家族論	・・・ 3
カウンセリング方法論	・・・ 4
人権論	・・・ 5
人間関係論	・・・ 6
職業の倫理	・・・ 7
【専門基礎分野】	・・・ 8～11
疾病と治療VI	・・・ 8
社会福祉学概論／社会福祉法制論	・・・ 9～10
関係法規I	・・・ 11
【専門分野I】	・・・ 12～15
臨床看護総論	・・・ 12～15
【専門分野II】	・・・ 16～31
成人看護学方法論II	・・・ 16
成人看護学方法論III	・・・ 17
成人看護学方法論V	・・・ 18
老年看護学概論	・・・ 19～20
老年看護学方法論I	・・・ 21～22
老年看護学方法論II	・・・ 23
母性看護学方法論I	・・・ 24
母性看護学方法論II	・・・ 25
小児看護学方法論I	・・・ 26
小児看護学方法論II	・・・ 27
精神看護学方法論I	・・・ 28～29
精神看護学方法論II	・・・ 30～31
【統合分野】	・・・ 32～35
在宅看護概論I	・・・ 32
在宅看護概論II	・・・ 33
在宅看護方法論	・・・ 34～35
【その他：ルール】	・・・ 37～43
【実務経験のある教員等による授業科目の一覧表】	・・・ 44～46

令和2年度 学年歴

行 事	学 年	予 定 日
入学式	1	令和2年4月9日(木)
入学時オリエンテーション	1	令和2年4月10日(金) 4月13日(月)
健康診断	全	1年生 令和2年4月28日(火) 2年生 令和2年4月16日(木) 3年生 令和2年4月6日(月)
てふてふ祭(学校祭)	全	中止
防災訓練	全	令和2年6月10日(水)
宿泊研修	1	令和2年11月20日(金)～11月21日(土)
夏季休業	全	令和2年7月27日(月)～9月4日(金)
戴帽式	1	令和2年10月29日(木)
冬季休業	全	令和2年12月22日(火)～令和3年1月4日(月)
看護学会	2	
運動会(学校祭)	全	令和3年 2月18日(木)
国家試験	3	令和3年2月14日(日) 予定
卒業式	全	令和3年3月4日(木)
春季休業	全	令和3年3月19日(金)～4月1日(木)

授業科目	情報科学	講師名	大久保 博	開講年次：2年次前期	
				単位	時間数
				1	30時間(試験含)
ねらい	情報科学の基礎知識や情報整理について学び科学的思考を身につける。又、情報と社会の関連について考え、臨床現場に生かすキャリア・トレーニングの方法を学ぶ。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
1.医療情報の基礎	①情報の定義 ②情報化社会			2	講義
2. 医療と情報システム	①医療情報とは ②看護における情報 ③医療における情報の取り扱い ④電子カルテと病院情報システム			4	
3.情報と倫理	①情報倫理 ②個人情報の保護			4	
4.情報処理	①コンピューターの仕組みと情報のデジタル化 ②情報の収集・解析・整理 ③情報のプレゼンテーション			6	
5. PCを用いた演習	①インターネットによる情報の収集 ②Microsoft officeを用いた情報の整理と発表			12	演習
6. 試験				2	
評価方法及び 評価基準	筆記試験 80点 演習レポート 20点				
テキスト	中山和弘著 「看護情報学」 医学書院 2020年				
参考文献	講師が授業中に紹介				

授業科目	家族論	講師名	入部 久子	開講年次：2年次前期	
				単位	時間数
				1	30時間
ねらい	現代の家族像や家族関係について理解を深めるために、家族とは何かを考察し、社会的な諸要因の家族への影響や家族支援などの基礎知識を学ぶ。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
1. 家族とは	①家族の基本概念 ②家族の種類 ③家族の変貌 ④家族看護の視点			4	講義
2. 夫と妻のパートナーシップ (夫婦関係論)	①配偶者選択 ②親族性と性愛の心理 ③夫と妻の役割 ④夫と妻の葛藤と離婚			6	講義
3. 親と子と孫の絆	①ペアレンチング ②母性論 ③父性論 ④祖父母の役割			6	講義
4. 家族と社会	①家族の生活文化 ②地域と親族 ③職場と家族 ④高齢化と少子化が及ぼす影響			2	講義
5. 患者と家族	①患者家族の臨床心理 ②家族の介護機能の揺らぎと反論 ③家族のストレスマネジメント ④患者子族への看護ケア			6	講義
6. 家族支援のアプローチ	①家族システム論 ②家族発達段階論 ③家族への心理教育法 ④家族への心理的援助の方法			6	講義
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100点				
テキスト	系統看護学講座、「家族看護学」岡堂哲雄編 医学書院 2019年				
参考文献	石川実編 「現代家族の社会学」 有斐閣 1977 正岡寛司編 「現代家族論」 有斐閣 1998 湯沢雅彦編 「データで読む家族問題」 NIK ブックス 2003 岡堂哲雄編 「家族カウンセリング」 金子書房 2000 亀口憲治編 「家族療法」 ミネルヴァ書房 2006 黒田裕子監修 「よくわかる中絶用理論」 学研 2009				

授業科目	カウンセリング 方法論	講師名	岡村 尚昌	
			開講年次: 2年次前期	
			単位	時間数
ねらい	言語的・非言語的コミュニケーションを通して相手の行動の変容を試みる人間関係の方法を知ることで、受容と共感について学ぶ。			
授業計画				
単元名	教育内容	時間	方法	
1. コミュニケーション	①言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション ②よりよいコミュニケーションのために -アーサーション・トレーニング- -交流分析-	14	講義	
2. 人間関係の研究と応用	①人間関係に関する研究 ②各種理論の特質 ③カウンセリングの定義と種類 ④カウンセリングの実際Ⅰ ⑤カウンセリングの実際Ⅱ ⑥カウンセリングの実際Ⅲ ⑦危機的状況の理解とその援助Ⅰ ⑧危機的状況の理解とその援助Ⅱ ⑨自分自身とのよりよい関係づくりのために	14	演習	
3. 試験		2		
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100点			
テキスト				
参考文献				

授業科目	人権論	講師名	信友 浩一		
			開講年次：2年次 前期		
			単位	時間数	
			1	30時間	
ねらい	医療の現場はジレンマでいっぱいです。関係する皆が、瞬に落ちる選択や合意ができ、平等な場になるように願っています。人権という視点から配慮できるようにそのプロセスを学んでもらいます。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
第1講	医療の原点			1	講義
第2講	医療施設の構造			1	講義
第3講	しばらないケア			1	ゼミ
第4講	治さないでください！			1	ゼミ
第5講	権利の誕生			1	講義
第6講	避妊手術が失敗しました			1	ゼミ
第7講	無脳症の子供の行方			1	ゼミ
第8講	権利の構造			1	講義
第9講	死を迎える			1	ゼミ
第10講	心の自由			1	ゼミ
第11講	生存権と幸福追求権			1	ゼミ
第12講	女性・子供			1	ゼミ
第13講	障害・マイノリティ			1	ゼミ
第14講	遺体の権利			1	ゼミ
第15講	「私の経験したジレンマ」発表と講評			1	発表
<p><備考> ゼミ形式の授業ですので、自らの思いや感じたことを発表できるように、またそれを楽しんでください</p>					
評価方法及び 評価基準	授業への参加80%、筆記試験20%				
テキスト					
参考文献					

授業科目	人間関係論	講師名	三原 健吾		開講年次： 2年次後半	
			単位	時間数	単位	時間数
			1	15		
ねらい	1) 医療従事者に必要な人間関係の基礎知識を習得する 2) 良い人間関係を形成するためのコミュニケーションの基礎を理解する 3) ストレスに関連する疾患（心疾患・うつ等）について理解を深める 4) 人間関係が良好になる技術を身に付ける					
授業計画						
単元名	教育内容				方法	
1、人間関係論の基本的視点 2、自分と他者の関係性 3、自分と他者のコミュニケーション、学生の人間関係 4、職場の人間関係、職場のストレス 5、ストレスと病気 6、ストレスと睡眠 7、総括 筆記試験	1、人間関係の基本的な役割 2、自己と他者の関係性 ・主体的自我と客観的自我 ・発達とともに変化する他者との関わり 3、他者とのコミュニケーション ・他者との良好なコミュニケーション ・学生の人間関係の特徴 4、職場の人間関係 ・情緒的関係と機能的関係 ・公式（フォーマル）の関係と非公式（インフォーマル）の関係 ・職場のストレス 5、ストレス学とは何か？ ・ストレス学の概論 ・ストレスマネジメント 6、ストレスと睡眠 ・ストレスと睡眠との関連性 ・睡眠の3要素（量、質、規則性） 7、まとめ				講義	
<備考> *本講義ではできる限り学生の主体性を重視し、自ら問題を解決できるよう雰囲気づくりをする						
評価方法及び評価基準	筆記試験70% レポート30%					
テキスト	講師作成					
参考文献	図解雑学 ストレス 長嶋洋治監修 渡辺由紀子・渡辺覚著 ナツメ社 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 長谷川浩編 医学書院					

授業科目	職業の倫理	講師名	中村 憲司	開講年次:2年次後期	
				単位	時間数
				1	15時間
ねらい	倫理の理論を学び、現代の課題を考えるとともに、職業倫理の社会的意味を学ぶ。				
授業計画					
				時間	方法
1.	人間であるということ、人間として生きるということ—倫理について				講義
2.	「こころ」と「体」としての人間				
3.	職業と倫理 — 社会的要請と個人				
4.	看護倫理 (1)	— 看護倫理の基礎			
5.	看護倫理 (2)	— 原則の倫理			
6.	看護倫理 (3)	— 看護職の責任と倫理			
7.	看護倫理 (4)	— 末期ケアと倫理			
8.	看護倫理 (5)	— 倫理的意思決定のステップと事例検討			
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100点				
テキスト	「看護倫理」— よい看護・よい看護師への道しるべ(南江堂)				
参考文献	講師より紹介				

授業科目	疾病と治療VI 眼科疾患 耳鼻科疾患 歯科口腔疾患 精神疾患	講師名	開講年次: 2年次前期		
			単位	時間数	
		廣木 稔 富山 和英 廣田 溪 吉良 健太郎	1	30 時間	
ねらい	眼科疾患、耳鼻咽喉器疾患、歯科口腔疾患、精神疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
《眼科》 (廣木講師)	1. 目の構造と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 主な疾病と治療 ①屈折・調節の異常 ②結膜の病気 ③角膜の病気 ④水晶体の病気 ⑤網膜の病気 ⑥ぶどう膜の病気			6	講義
《耳鼻科》 (富山講師)	1. 耳鼻咽喉の構造と機能 2. 症状と検査 3. 主な疾病と治療 ①耳疾患 ②鼻疾患 ③咽喉疾患			4	
《歯科口腔》 (廣田講師)	1. 歯・口腔の構造と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 主な疾病の予防・治療 ①齲蝕及び歯髄疾患 ②口腔領域の腫瘍 ③顎関節症			6	
《精神》 (吉良講師)	1. 精神症状及び状態像 ①思考の障害 ②感情の障害 ③知覚の障害 2. 精神障害の診断と分類 ①統合失調症 ②気分(感情)障害 ③神経症性障害 ④生理的障害 ⑤パーソナリティ障害 ⑥器質性精神障害 ⑦心身症 3. 精神科治療 ①身体療法 ②精神療法 ③行動療法およびリラクゼーション ④環境・社会療法 ⑤集団精神療法 ⑥家族療法 4. 社会の中の精神障害 ①精神障害と治療の歴史 ②日本における精神医療 ③精神障害と文化 ④精神障害と社会学 ⑤精神障害と法制度			4	
《精神》 (吉良講師)	1. 精神症状及び状態像 ①思考の障害 ②感情の障害 ③知覚の障害 2. 精神障害の診断と分類 ①統合失調症 ②気分(感情)障害 ③神経症性障害 ④生理的障害 ⑤パーソナリティ障害 ⑥器質性精神障害 ⑦心身症 3. 精神科治療 ①身体療法 ②精神療法 ③行動療法およびリラクゼーション ④環境・社会療法 ⑤集団精神療法 ⑥家族療法 4. 社会の中の精神障害 ①精神障害と治療の歴史 ②日本における精神医療 ③精神障害と文化 ④精神障害と社会学 ⑤精神障害と法制度			6	
評価方法及び 評価基準	眼科 (30点)、耳鼻科 (30点)、歯科口腔 (40点) 筆記試験 合計 100点 精神疾患 筆記試験 100点 最終評価は2科目の平均点で行う				
テキスト	系統看護学講座 成人看護学 [13] 眼 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 [15] 歯・口腔 医学書院 系統看護学講座 専門分野II 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 医学書院				

授業科目	社会福祉学概論	講師名	泉 賢祐		開講年次：2年次前期	
			単位	時間数		
			1	15時間		
ねらい	社会福祉の変遷や基本理念・概念を理解し、社会保障制度の内容とその背景を理解する。人々が生涯を通じて健康や障害の状況に応じて社会資源を活用できるように必要な知識と基本的能力を養う。					
授業計画						
単元名	教育内容			時間	方法	
1. 社会保障制度・歴史	①社会保障の概念・目的・機能・体系			2	講義	
2. 社会保障・社会福祉の動向	①現代社会の変化 ②保健医療の動向			2		
3. 医療保険	③社会福祉サービスの動向 ①医療保障制度の沿革と構造 ②健康保険と国民健康保険 ③高齢者医療制度 ④保険診療の仕組み ⑤公費負担医療 ⑥国民医療			6		
4. 介護保障	①介護保険制度の概要 ②介護保険制度の課題と展望			2		
5. 所得保障	①所得保障制度 ②年金制度 ③労働保険制度			4		
評価方法及び評価基準	筆記試験 100点					
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [3] 社会福祉 医学書院					
参考文献						

授業科目	社会福祉法制論	講師名	泉 賢祐	開講年次：2年次前期	
				単位	時間数
				1	15時間
ねらい	社会福祉の法制度及びその活用方法を理解し、臨床現場での他職種との連携に役立てることができる。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
1. 社会福祉法制度	①社会福祉の法制度			2	
2. 公的扶助	①生活保護制度のしくみ			4	
3. 社会福祉サービス	②低所得対策 ③近年の動向			6	
4. 社会福祉実践	①高齢者福祉 ②障害者福祉 ③児童家庭福祉			4	講義
	①社会福祉援助とは ②間接援助技術と関連援助技術 ③連携の重要性				
	① 連携の場面と方法 ②社会福祉史の枠組み ③社会福祉史の3段階				
評価方法及び評価基準	筆記試験 100点				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [3] 社会福祉 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会総諸制度 [4] 看護関係法令 医学書院				
参考文献					

授業科目	関係法規 I	講師名	石川 真人		
			単位	時間数	
			1	15 時間	
ねらい	看護職に就こうとする者は、いざ医療過誤訴訟が発生した場合に、法律上どうということが問題となり、裁判所はどのような判断を下すのかを知っておくべきであろう。本講義では、まず、法学の基礎を理解したうえで、実際に生じた裁判例を学ぶ。そのことによって紛争を未然に防ぐことも可能となろう。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
1. 法とは何か	①法と常識 ②法と道徳 ③法と強制			2 2 2	講義
2. 裁判と法	①民事事件と刑事事件 ② 証明責任			2 2	
3. 医療過誤訴訟	①東大梅毒輸血事件における過失 ②未熟児網膜症姫路日赤事件における医療水準 ③ランパール事件における因果関係			2 2	
5. まとめ				1	
評価方法及び評価基準	筆記試験(80%)と小レポート(20%)の内容を総合的に評価する。小レポートは、授業終了後、感想や疑問などを書いてもらい、次の週に答えるという形で、聴講者の意見を授業内容に反映させる(参加型の授業にする)ためのもの。評価基準は授業内容の理解度。				
テキスト	教科書は使用せず、講師作成のプリント教材を配布する。				
参考文献	必要に応じて講義の中で指示する。				

授業 科目	臨床看護総論	講師名	堀内 幸代	開講年次：2 年次前期・後期	
			白瀧 美香	単位	時間数
			池田 陽子	2 単位	90 時間 (試験を含む)
ねらい	<p>臨床の場で看護を実践するためにはその場で何が起きているのかを的確に判断し、その上で患者にとって最もよい看護行為を実践しなければならない。そのためには、その場で何が起きているのかを知識をもとに分析・予測することが必要である。</p> <p>また、場の判断と看護行為を同時進行で実施し、患者にとって最もよい方法とは何かを導き出し、随時修正しながら安全・安楽な看護の実施が求められる。</p> <p>そこで、臨床看護総論では、臨床に近い状況での看護師としての思考過程を学ぶことを重視している。</p>				

授業計画

単元名	教育内容	時間	方法
I. 看護行為に至る思考過程 (堀内先生)	<p>【ねらい】</p> <p>看患者に見られる症状や行われている治療を、解剖生理・病態・治療 (薬理作用) を、一連の流れとして理解し看護の方向性を論理的にみちびきだす。</p> <p>1 回目： オリエンテーション</p> <p>2 回目～11 回目</p> <p>1) 臨床の場面から看護師として必要な考え方を学ぶ 臨床の場面にある出来事を看護師として捉えるために必要な項目を導き出す ①看護場面の中で看護を行う上で必要な知識を明らかにする</p> <p>2) 看護師としてその場面を考える道筋を明らかにする ①肝硬変の事例を用いて看護の方向性を導くまでの考え方を学ぶ</p> <p>12・13 回目</p> <p>まとめ・振り返り 筆記試験</p>	26 時間 / 13 回 + 1 回 (試験)	講義演習
II. 看護を実施するための思考を使って看護行為を行う (病態から看護へ) (白瀧先生)	<p>【ねらい】</p> <p>実際の看護場面を設定し、必要な看護についてシミュレーションを行う。対象の「今、必要な看護は何か」について病態を結びつけながら考え、看護実践に繋げていく。シミュレーションの実施後に、自分の行為・思考・感情などについて目標に沿って振り返る時間を重要視し、臨床で生きる看護実践についての考え方を身に着けてほしい。</p> <p>また、医療機器の取り扱いの基本は知識として理解してほしい。</p> <p>1 回目： オリエンテーション</p> <p>2 回目：病態から看護へ：シミュレーション教育の実践 事例提示 事例解釈；課題の抽出 (病態・病期・治療など)</p> <p>3～5 回目：</p> <p>シミュレーションの実際 (シナリオ提示) ①ブリーフィング (導入)</p>	26 時間 / 13 回 + (1 回試験)	講義演習

	<ul style="list-style-type: none"> ・目標と学習環境の説明 ・教材の説明 ・シナリオ課題の提示 <p>②シミュレーション（実践）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シナリオ課題について実践 <p>③デブリーフィング（振り返り）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状態のアセスメント ・状態のアセスメント～観察（フィジカルアセスメント） ・観察の優先順位 <p>④評価・まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価（自己の学びと課題） ・グループ評価 <p>※シナリオ課題について②③を3～4回繰り返す ※事前学習をもとに看護実践の根拠を明らかにする ※知識確認テストを随時、実施する</p> <p>6～9回目</p> <p>看護行為の裏にある思考過程</p> <ol style="list-style-type: none"> ①看護行為に至る思考の流れ ②判断と優先順位 ③看護目標と看護 <p>10～13回（順序は変更する可能性があります）</p> <p>医療機器の取り扱い</p> <p>筆記試験</p>	1コマ	
<p>Ⅲ. 看護実践をするための思考を使って看護を行う（複合的な要素がある中での看護実践）</p> <p>（事例による看護実践の展開）</p> <p>（池田先生）</p>	<p>【ねらい】</p> <p>臨床看護総論Ⅰ・Ⅱを土台とし、実際の看護場面を再現した事例の看護を病態・病期・治療を踏まえた看護を導き出す（医療機器を用いている患者の更衣）</p> <p>演習オリエンテーション</p> <ol style="list-style-type: none"> ①演習（グループワーク）の進め方（グループ発表、演習計画の提示） ②事例紹介：事例を読むとはどういうことかについて解説患者の「疾患」「病態」「症状」「治療・処置」を関連付けて身体的状態を把握しながら、なぜ、その留意点なのか？<u>なぜ</u>を考える場としたい。 <p>2 事例のアセスメント（グループワーク）</p> <p>3</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の疾患の経過を把握する <ol style="list-style-type: none"> ①それぞれの症状がなぜ生じているのか ②指示されている治療や処置が何のために行われているのか ③症状進行による成り行きは何が考えられるか ④ ①～③を関連付けて、現在の患者の身体の状態を理解する <p>4 アセスメント・関連図検討会</p> <p>5 アセスメントを踏まえてグループで関連図を完成させる</p> <p>6 シミュレーション検討会①の準備</p> <p>7 事例患者の看護場面（2～3場面）を患者役・看護師役で実施する</p>	28時間 / 14回	<p>講義/演習</p> <p>講義</p> <p>演習</p>

		①看護場面の説明・グループで共有 ②その看護場面で何を・どうするか？ →なぜ、そうするのか？を重点的に考える ③ ②を踏まえてグループで発表準備を行う		
	8	シミュレーション検討会①		演習
	9	事例患者の看護場面の実施		
		シミュレーション検討会②の準備 事例患者の看護場面（2～3場面）を患者役・看護師役で実施する		
	10	①看護場面の説明・グループで共有		演習
	11	②その看護場面で何を・どうするか？ →なぜ、そうするのか？を重点的に考える ③ ②を踏まえてグループで発表準備を行う		
	12	シミュレーション検討会②		演習
	13	事例患者の看護場面の実施		
	14	まとめ		講義
		筆記試験		試験
IV. 評価		筆記試験（筆記試験は各講義の時間で行います） 実技試験（*実技試験については事前にオリエンテーションを実施）	6 時 間（3 コ マ）	
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学4 臨床看護総論（医学書院）			
参考文献	講義担当講師が初回の講義で提示する			
評価方法及び 評価基準	<p>評価の割合：筆記試験 9割 実技試験 1割 （筆記試験内訳）</p> <p>看護行為に至る思考過程（100点） 病態から看護へ（100点） 事例による看護実践の展開（100点）</p> <p>平均を筆記試験結果とする</p> <p>筆記試験・実技試験ともに受験を必須とする。いずれかを受験しない場合は単位認定はしない</p> <p>※筆記試験、実技試験それぞれに60点未満の場合は、再試験対象となる</p> <p>※演習参加状況（事前課題の成果・態度）を総合して評価を行う</p>			

専門分野Ⅱ

令和2年度(2020年)

授業科目	成人看護学方法論Ⅱ	講師名	河原 朋果 今村 佳 内田 ひろみ 吉宗 由美子 江藤 則子	開講年次： 2年前期	
				単位	時間数
				1	45 (試験含む)
ねらい	急性疾患や手術療法など生体に大きな侵襲をうける患者を理解し、健康の回復を促進する予防的看護から退院後の健康管理における教育的な指導技術など対象の回復過程に沿いながら、病期に適した看護提供について学ぶ。				
授業計画					
単元名		教育内容		時間	方法
1 2 3 4 5 6 7 8 9	1. 周手術期の看護 術中看護 (河原 朋果講師) 術前術後看護 (今村 佳講師)	1) 術中看護 手術室での安全管理 手術体位と及ぼす影響 術式・麻酔方法と影響 2) 手術における心身の変化 手術侵襲に対する生体反応 創傷治癒過程 3) 手術前看護 手術療法の理解と手術への意思決定援助 術前指導 術前管理 アセスメントと援助 術後合併症のリスクアセスメント 4) 術後の疼痛管理と術後合併症の予防 早期回復への援助 ボディイメージ変容への援助 術後の機能障害と日常生活援助		6 12	講義
10 11 12 13 14	2. 循環機能障害のある人への看護 (内田 ひろみ講師)	1) 循環機能障害のアセスメント 2) 循環機能障害の症状看護 ポンプ機能障害 輸送遅延障害 刺激伝導障害 3) 検査時の看護 心臓カテーテル 心血管造影 心電図 心エコー 4) 治療を受ける患者の看護 PCI ペースメーカー、血栓溶解療法・血栓除去術 5) 心不全、虚血性心疾患患者の病期に応じた看護 6) 不整脈のある患者への看護		10	講義
15 16 17	3. 急性・重症看護 (吉宗 由美子講師)	1) 急性・重症患者の特徴 2) 心肺停止状態の対応 3) 気管挿管時の看護 4) 救急場面で遭遇する症例の看護		6	講義 演習
18 19 20 21 22	4. 急性期看護の看護過程 (江藤 則子講師)	1) 急性期の特徴と機能障害の特徴を踏まえた看護過程； アセスメント・看護問題・看護計画・実施・評価 (臨床判断を中心に講義する) 演習：胃切除術後患者の看護過程と実際		10	講義 演習
23	筆記試験 (60分)・授業評価アンケート				
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100点 (周手術期 50% 循環器 20% 救急救命 10% 急性期の看護過程 20%) 講師が提示した課題を提出しなければ、単位認定はしない				
テキスト	ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤周手術期看護 (河原・今村講師) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器 消化器 (内田講師) 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 (吉宗講師)				
参考文献	北島政樹ほか、外科手術と術前・術後の看護ケア、南江堂 窪田敬一、ナースのための再新全科ドレーン管理マニュアル、照林社 坂本すが監修、術前・術後標準看護マニュアル、メヂカルフレンド社 竹田清、ゼロからはじめる麻酔&看護トレーニング、MCメディカ出版 道又元裕監修、イラストでわかる！ICUナースの生体侵襲ノート、日経研 新見明子、根拠がわかる疾患別看護過程 病態生理と実践がみえる、南江堂 エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 中央法規 自分で描ける病態関連図 照林社 病態生理の基礎のキソ 学研 意味づけ経験知でわかる病態生理看護過程 H総研 疾患別看護過程セミナー 医学芸術社				

専門分野Ⅱ

令和2年度(2020年)

授業科目	成人看護学方法論Ⅲ	講師名	江藤 則子	開講年次： 2年後期	
				単位	時間数
				1	30(試験含む)
ねらい	1. 成人の健康生活を促すための看護とその技術について理解することができる。 ①対象の機能障害の回復とセルフケアの再獲得を支援する看護とその技術について学ぶ。 ②対象の機能障害の適応と慢性病との共存、社会復帰を支援する看護とその技術について学ぶ。				
授業計画					
単元名		教育内容			方法
1 2 3 4	I. 治療過程にある患者の看護技術 1. 治療による身体侵襲からの回復促進のための看護技術 (急性期～回復期)	1) 回復期とは(急性回復期から慢性期への移行) 2) 対象の理解 3) 治療による身体侵襲からの回復促進のための看護技術 ①酸素化の促進 酸素療法 吸引 ドレーン管理 ②栄養管理 中心静脈栄養の管理 体液バランスの管理(輸液療法) ③治療に伴う不快症状のコントロール 急性疼痛のアセスメント ④モニタリング モニターの管理 モニターの観察とアセスメント ⑤回復促進の援助技術 感染予防のアセスメント、感染予防の技術、 早期離床のアセスメント(過度な安静の影響)、 早期離床の技術、日常生活援助、演習(一般的な)術後ベッド作成、 シミュレーション・演習 ①消化器障害：胃がんによる胃切術後の患者の看護			講義 演習
5 6		シミュレーション・演習) ②呼吸機能障害：気胸による胸腔ドレナージ患者の看護			講義 演習
7	II. 障害の回復に必要なセルフケアの再獲得の促進の看護	1) 治療によるボディイメージの変化をきたした人の援助 2. 障害への適応と社会復帰への看護 ①障害の受容過程とその援助(自己概念、自尊感情、ボディイメージ、危機理論、国際生活機能分類；ICFの概念) ② セルフケアの再獲得 ③社会参加と社会資源			講義 演習
8 9 10	III. ボディイメージの変化に対する看護とその技術	シミュレーション) ① 排泄機能障害：人工肛門造設術を受けた患者の看護(ストーマ管理と社会支援) ② 性・生殖機能障害：乳房切除術を受けた患者の看護 ③ 慢性腎不全患者の透析療法の看護(シャント管理と社会支援)			講義 演習
11 12 13 14	IV. 慢性疾患と共に生きる患者の生活の再調整を支える看護とその技術	1. 慢性病の治療を受けながら生活の再調整が必要な患者の援助 ①退院支援 2. セルフケアと社会復帰への看護 ①セルフマネジメントとセルフケアの再調整 ②社会復帰と社会資源			講義 演習
15		1) 筆記試験(60分)、まとめ・授業評価アンケート(30分)			

評価方法及び 評価基準	筆記試験 90点 課題・レポート等 10点 筆記試験及び課題、レポートの提出をしなければ単位認定はしない
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ成人看護学総論 成人看護学①・消化器 成人看護学⑤・腎、泌尿器 成人看護学⑧・女性生殖器 成人看護学⑨・呼吸器 成人看護学② (医学書院)・ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護
参考文献	神奈川県リハビリテーション病院看護部監修、脊髄損傷の看護、医学書院 大村裕子、カラー写真で見てわかるストーマケア、MCメディカ出版 田村綾子、必ず役立つ脳血管障害の看護技術、ブレインナーシング 2006年増刊、MCメディカ出版 溝上祐子監修 ナースのためのやさしくわかるストーマケア ナツメ社 写真でわかる整形外科看護 インターメディカ

授業科目	成人看護学方法論Ⅴ (終末期の看護)	講師名	溝上 千代美		開講年次：2年後期	
			単位	時間数		
			1	15 (試験含む)		
ねらい	1. 治療困難な状態にある対象の特徴を理解し、苦痛のアセスメントと疼痛コントロールのための緩和ケアを学ぶ。 2. 終末期にある成人の身体的苦痛と死の受容過程を理解し、人生の最期の時をその人らしく過ごせるように支える看護の役割を理解する。					
授業計画						
単元名		教育内容				方法
1	緩和ケアの歴史と現状	1) 緩和ケアの歴史と現状 2) 緩和ケアの対象者の広がり 3) チーム医療				講義
2	緩和ケアにおける倫理的課題	1) 倫理学とは 2) 終末期患者のQOLとは 3) アドバンス・ケア・プランニング 4) 意思決定支援				講義
3	緩和ケアにおける看護介入	1) 緩和ケアにおける看護介入 包括的アプローチ 日常生活を整えるアプローチ 個別性を整えるアプローチ 患者の潜在的な力を強める				講義
4 5 6	終末期への看護	1) 終末期にある人の身体的特徴と援助方法 援助方法 ① 症状マネジメント 疼痛管理 疼痛以外の症状マネジメント 2) 終末期にある人の心理・霊的特徴と援助方法 3) 終末期にある人の社会的特徴と援助方法 4) グループワーク (事例検討)				講義 及び ワーク
7	家族ケア	1) 終末期にある人の家族および遺族の理解と援助 ① 家族が迎える心理過程 ② 家族アセスメントとケアの方法 ③ 遺族ケア				
8		筆記試験(60分)、まとめ・授業評価アンケート				講義
<備考>						
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100点・レポート 筆記試験及びレポートの提出がなければ単位認定はしない					
テキスト	系統看護学講座 別巻⑩ 緩和ケア (医学書院)					
参考文献	授業で紹介します					

授業科目	老年看護学概論	講師名	中原 彩実	開講年次 : 2年次	
				単位	時間数
				2単位	30時間(試験含む)
ねらい	1. 高齢者を取り巻く社会の動向と老年期の発達課題をふまえた高齢者の加齢に伴う身体的、心理的、社会的側面の特徴を理解する。 2. 高齢社会における保健医療福祉制度や看護活度の場の理解をする。 3. 老年看護における看護倫理について理解する。				
授業内容					
単元名	教育内容			時間	方法
老年看護とは	人口の高齢化に伴う社会変化と老年看護の歴史について触れ、今なぜ老年看護が重要視されているのか理解する			2	講義
高齢者の理解	高齢者とは、どのような人なのかをライフサイクル、健康指標社、社会加などの視点から理解する。また、高齢者にとって健康とは何かを理解する。			2	講義
高齢者が生きてきた世界	高齢者が生きてきた時代での出来事とその時代をどのように生活してきたのか、高齢者のライフストーリーを知り、高齢者の価値観、生活習慣などを理解する			2	講義 グループディスカッション
高齢者の身体的機能変化	加齢変化による身体面の特徴について理解する			2	講義
高齢者の心理社会的変化	老いの自覚や喪失体験などによる心理や認知機能の加齢変化などについて理解する			2	講義
加齢変化と高齢者の生活	1. 疑似体験を体験し、高齢者の生活のイメージする。 2. 加齢に伴う機能変化が高齢者の生活に及ぼす影響を理解する			6	グループディスカッション 疑似体験
高齢者看護の基本	1. 高齢者の権利擁護のための看護食の役割、高齢者の看護を行う上での姿勢(倫理)について理解する 2. 高齢者の生活機能のアセスメントやバイタルサインと加齢変化について理解する			4	講義 グループディスカッション
高齢者をとりまく社会	高齢者を支える家族・コミュニティ、社会保障制度について理解する			2	講義
高齢者のヘルスプロモーション	高齢者にとっての健康増進について理解する			2	講義
高齢者をとりまく課題	日本の人口動態からみる高齢社会のかかえる課題について政治、家族、地域を視点に考察する			4	グループディスカッション
評価	筆記試験(60分)・まとめ			2	

評価方法および評価基準	<p>1. 100 点満点</p> <p>①筆記試験 (70 点) ②資料課題・レポート点 (30 点) の総計</p> <p>2. 課題・レポートのテーマは授業で提示します。</p> <p>*筆記試験は受験し、課題、レポートすべて提出して老年看護学概論の点数とします。未提出の場合は、老年看護学概論の点数がありません。単位認定しません。</p>
テキスト	<p>ナーシンググラフィカ 老年看護① 高齢者の健康と障害</p> <p>ナーシンググラフィカ 老年看護② 高齢者看護の実践</p>
参考文献	授業内で適宜紹介します
備考	<p>1. 高齢者を理解するには、授業の知識のみではイメージがしづらいので、周りに生活する高齢者を意識しましょう。</p> <p>2. テレビ、新聞等で高齢者のことについてのテレビ番組や新聞記事を読もう</p> <p>3. DVD の鑑賞：積極的に自分の時間をつかい鑑賞しましょう</p> <p>(DVD) 目で見る老年看護学 VOL.1・2・3 (高齢者の生理学)</p>

	<p>② レクリエーション； 活動性を高める目的で実施 対象：車いすを利用している高齢者 認知機能低下のある高齢者</p>		
評価	筆記試験 まとめ	2	
評価方法および評価基準	<p>1. 100 点満点</p> <p>① 筆記試験：馬田（60 点）伊藤 30 点）</p> <p>② 課題・レポート点（10 点）</p> <p>* 筆記試験は受験し、課題、レポートすべて提出して老年看護学方法論Ⅰの点数とします。未提出の場合は、老年看護学方法論Ⅰの点数がありません。</p>		
備考	<p>身近におられる高齢者と積極的に交流をはかり、高齢者の機能変化の特徴がイメージできるようにしましょう。</p> <p>授業時間だけで理解することは難しいと思われるので、予習、復習をしっかりとしましょう。</p>		
テキスト	<p>ナーシンググラフィカ 老年看護①高齢者の健康と障害</p> <p>ナーシンググラフィカ 老年看護②高齢者看護の実践</p>		
参考文献	<p>図書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老年看護技術 亀井智子 医学書院 ・エビデンスに基づく高齢者の看護ケア 後関容子 中央出版 ・生活機能からみた老年看護過程 山田りつ子 医学書院 ・高齢者の生活機能再獲得のためのケアプロトコール 石坂和子 日本看護協会 ・認知症に関する図書 <p>DVD</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目で見る老年看護学 高齢者の看護援助 4. 急性期から症状安定期までの看護 5. 回復期リハビリテーションから在宅に向けての看護 6. 寝たきり高齢者の在宅看護 7. 認知症高齢者の看護 		

授業科目	老年看護学方法論Ⅱ	講師名	福嶺 初美 伊藤 哉女	開講年次 : 2年次	
				単位	時間数
				1単位	30時間(試験含む)
ねらい	多重疾患を持つ高齢者の病態を加齢に伴う機能変化との関連づけた理解をし、「生活者」として高齢者の捉え方に応じた看護の特徴を理解することができる。 1. 高齢者に特有な疾患、症候の特徴と看護を理解できる。 2. 高齢者の病期の段階に応じた看護の特徴を理解できる。				
授業内容					
単元名	教育内容			時間	方法
1. 継続看護Ⅱ 治療を受ける高齢者の看護	1. 薬物療法 2. 手術療法 3. リハビリテーション 4. 入院、退院			8	講義 ワーク
2. 高齢者の疾患・症候の看護	6. 高齢者に起こりやすい疾患 7. 老年症候群 8. 看護過程 事例展開			16	講義 ワーク
3. 事故の予防と急変・救急時の対応	1. 災害に被災した高齢者の看護			2	講義
4. 終末期の看護	1. 老年期の終末期ケアの特徴 2. 家族への看護			2	ワーク
5. 評価	1. 筆記試験 2. まとめ アンケート			2	
評価方法および評価基準	1. 100点満点 ①筆記試験:(80点) ②課題:(20点) *筆記試験は受験し、課題、レポートすべて提出して老年看護学方法論Ⅱの点数とします。未提出の場合は、老年看護学方法論Ⅱの点数がありません。単位認定しません。				
テキスト	ナーシンググラフィカ 老年看護① 高齢者の健康と障害 ナーシンググラフィカ 老年看護② 高齢者看護の実践				
参考文献	・老年看護技術 魚井智子 医学書院 ・エビデンスに基づく高齢者の看護ケア後関容子 中央出版 ・生活機能からみた老年看護過程 山田りつ子 医学書院 ・高齢者の生活機能再獲得のためのケアプロトコール 石坂和子 日本看護協会 ・高齢者の望む平穏死を支える医療と看護 長尾和宏メディカ出版 ・老年看護学 概論と看護の実践 第6版 奥野茂子 スーベルヒロカリ ※講義内で随時紹介します				

授業科目	母性看護学方法論 1	講師名	井手 輝美 前川 彩	開講年次： 2年次前期	
				単位	時間数
				1単位	30時間（試験含む）
ねらい	①母性看護学概論を学習した上で、対象は病気を問題点にしている対象ではなく、健康上にあるライフイベント上の課題が存在する対象であるため、ウェルネス型の妊娠、分娩時の看護アセスメントができる ②妊娠期の正常（生理的変化）と異常について学び、それに関連したケア方法を演習を通して実践できる ③分娩期の正常と異常について学び、それに関連したケア方法を演習を通して実践できる ④周産期に関連した感染症が母児に与える影響について学ぶことができる ⑤妊娠、出産についての現状と課題を考察し、看護師の果たす役割について考え共有できる ⑥妊婦体験や自己の母子手帳を用いて学習を行い、命について考えることができる				
授業計画					
単元名	教育内容			時間 (15)	方法
母性看護の中心概念	・母性看護学概論での学びの振り返り ・映像をとおして周産期の現状を学ぶ [Key] ウェルネス型、母性看護、リプロダクティブヘルス、女性の一生、妊娠のメカニズム、妊婦検診、NST、母子手帳、母親学級、周産期、周産期死亡、ハイリスク妊娠、特定妊婦、若年妊婦、胎児ネグレクト、DV、マイナートラブル、喫煙妊婦、マタ旅、妊婦と交通機関、里帰り出産、トヨタオカ、母子手帳アプリ、分娩の三要素、男の育児休暇、軟産道強靱、回旋異常、児頭骨盤不均衡、緊急帝王切開、死戦期帝王切開、NICU、遅延分娩、弛緩出血、分娩時裂傷、レオポルド触診法、胎児付属物、陣痛室、分娩室、J-CIMELS、NCPR			2 (1) 前川	講義
母性看護の実践を支える概念	母性看護の基盤となる概念とは何か理解できる ①セルフケア、エンパワーメント、ウェルネスの言葉を理解する ②母性看護の視点を理解する ③女性とその家族を中心としたケア2点を重視する看護の必要性が理解できる			0.5 (0.25) 井手先生	講義
妊娠期における看護師の役割	妊娠期の女性と胎児、家族がより健康な状態を維持し出産育児に備えることの必要性を理解する			0.5 (0.25) 井手先生	講義
妊娠期における看護	妊娠各期の妊娠および家族の看護について学ぶ ①妊娠に関する定義・妊娠の成立・胎児の成長・妊娠の生理が理解できる ②妊娠期の身体、心理、社会的変化を理解する ③妊婦、胎児アセスメントし妊婦の保健指導、家族指導の必要性を学ぶ			6 (3) 井手先生	講義
妊婦の看護に関わる技術	①妊娠アセスメント技術：問診、視診、聴診、レオポルド触診法、計測診、臨床検査 ②内診の援助 ③乳房観察とアセスメント ④超音波診断法 ⑤超音波ドプラ法（胎児心音の聴取） ⑥NST（ノンストレステスト） ⑦食事と栄養の支援 ⑧日常生活動作 ⑨妊娠中の運動 ⑩マイナートラブルへの対処 ⑪出産・育児準備教育			3 (1.5) 井手先生	講義 体験

過程		(1) 井手 先生	GW
分娩期の看護 看護過程(分娩 期)	<p>・分娩期の特徴と看護師の役割、心理・社会・身体的変化を理解し、アセスメント及び援助の実際を学ぶ</p> <p>・分娩期は正常と異常の境界が一瞬で変化してしまうこと、緊急時の対応の必要性について学び、命の誕生の現場は時に、死の現場にもなることを理解できる</p> <p>Key 分娩に関する定義、分娩の三要素、分娩経過、分娩各期、分娩時間、回旋、回旋異常、不正軸侵入、安窩、難産、肩甲難産、弛緩出血、微弱陣痛、遷延分娩、過強陣痛、児頭骨盤不均衡、臍帯下垂、母体感染、死産期帝王切開、緊急帝王切開、破水、羊水混濁、前置胎盤、常位胎盤早期剝離、産科 DIC、胎児機能不全、分娩時裂傷、陣痛アプリ、陣痛が来るシグナス、災害時の分娩、分娩室の環境、陣痛室の環境、家族誕生、誕生死、死産、天使ママ、ルカの会、グリーフケア、赤ちゃんを亡くすということ、周産期の死、赤ちゃんのお葬式</p>	10 (5) 前川	講義
分娩期の看護 技術	<p>・分娩期に必要な看護技術を演習によって取得できる</p> <p>産痛緩和(呼吸、圧迫、マッサージ、安楽な体位、フリースタイル)</p> <p>Key 陣痛軽減する方法、痛くない陣痛、無痛分娩、フリースタイル分娩、ラマーズ法、ソフロロジー法、産痛緩和、入院時にゴルフボールかテニスボール、助産院分娩、産院分娩、誘導分娩、計画分娩、鼻からスイカがでそうな痛み、分娩時パニック、精神疾患合併妊婦、糖尿病合併妊婦、妊娠高血圧症候群、ハイリスク妊婦、特別養子縁組、仮腹妊娠、不妊治療後の分娩、分娩時のリラクゼーション、陣痛室の過ごし方、分娩に必要な機械、分娩準備、分娩セット</p>	4 (2) 前川	講義 演習
評価・まとめ	筆記試験 井手先生 50 点/前川 30 点	2 (1)★	
テキスト	<p>ナーシンググラフィカ 母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護</p> <p>ナーシンググラフィカ 母性看護学②母性看護の実際</p> <p>ナーシンググラフィカ 母性看護学③母性看護技術 メディカ出版</p>		
参考文献	国民衛生の動向		
評価方法及 び評価基準	<p>筆記試験点 80 点 ※ポートフォリオ課題 20 点、GW 評価、授業参加・発表態度を評価の参考とする。</p> <p>*ポートフォリオは印刷しただけのもの、ただ枚数をだせばいいは認めない。印刷したものをレポート用紙に貼付し、自己の考えや患者立場に立った場合どう考えるのかを感想ではなく、きちんとエビデンスを引用して考察したものとする。</p> <p>*最低 15 テーマ、コメント付箋 15 枚があり、ルールに基づいて作成されているもので、最高枚数の定めはない。</p> <p>*ポートフォリオの使用題材は、個々の興味が異なるため、同じ題材が多く提出されるとは考えにくい。特定の生徒が同じ題材が多く重なる場合は評価が減点される。</p> <p>*筆記試験及び講師が提示した課題を提出しなければ母性看護学方法論 I の点数はない・単位認定はできない</p>		

授業科目	母性看護学方法論Ⅱ	講師名	開講年次： 2年次前期		
			前川 彩	単位	時間数
			1単位	30時間(試験含む)	
ねらい	①母性看護学概論を学習した上で、対象は病気を問題点にしている対象ではなく、健康上にあるライフイベント上の課題が存在する対象であるため、ウェルネス型の産褥期、新生児期の看護アセスメントができる ②産褥期の正常と異常について学び、それに関連したケア方法を演習を通して実践できる ③新生児の正常と異常について学び、それに関連したケア方法を演習を通して実践できる ④産褥、新生児についての現状と課題を考察し、看護師の果たす役割について考え共有できる ⑤演習を通じて産褥期ケアや新生児の取り扱い及びケアを学ぶことができる。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
産褥期の看護 看護過程(産褥期)	・産褥期の特徴と看護師の役割、心理・社会・身体的変化を理解し、アセスメント及び援助の実際を学ぶ ・産褥期は進行性変化と退行性変化と変化することを理解し、正常と異常の境界を知り、緊急時の対応の必要性について学ぶ ・産褥期における女性の抱える問題について考えることができる [Key] 産褥出血、血栓症、DIC、産褥期感染症、産褥うつ、マタニティブルー、ワンオペ育児、孤育て、特定妊婦、ハイリスク妊婦、母乳栄養、母乳メカニズム、自律授乳、沐浴教室、沐浴、ミルクの作り方、母乳とミルクの違い、乳腺炎、白斑、乳房切開、帝王切開、会陰切開、産後セックスレス、ラッチオン、ポジショニング、エンパワーマインド、エモーショナルサポート、産後院、産後サポート、流産、死産、先天奇形、ペリネイタルロス、術後合併症、母体搬送、エジンバラ産後うつ、BPDS、保活、産前産後休暇、育児休暇、マタハラ、産後仕事復帰、出産一時金、ワーママ、予防接種アプリ、母子手帳アプリ			10 (5)	講義 GW
産褥期の看護 技術	・産褥期に必要な看護技術を演習によって取得できる (子宮復古、悪露交換、産褥体操、授乳姿勢、ラッチオン、ポジショニング)			4 (2)	演習
新生児期看護 看護過程(新生児)	・新生児の特徴と看護師の役割、身体的変化を理解し、アセスメント及び援助の実際を学ぶ [Key] ハイリスク新生児、胎外生活適応、RDS、TTN、MAS、呼吸障害、循環適応障害、代謝適応不全、低体温症、哺乳不良、新生児低血糖、新生児黄疸、ミノルタ計、新生児高ビリルビン血症、ビタミンK欠乏性出血症、胎児機能不全、分娩障害、肩甲難産、CPD、巨大児、早産児、IUGR、超低出生体重児、極低出生体重児、脳低酸素療法、NCPR、NICU、新生児搬送、先天性皮膚欠損症、TAM、新生児交換輸血、新生児の体温調整、新生児の人工呼吸器、院外出産、自宅出産、カンガルーケア、ベビーマッサージ、世界の新生児管理、こんにちは赤ちゃん事業、新生児訪問、予防接種、発達障害、離乳食教室、パパママ教室、育てにくい子、新生児虐待、ネグレクト			10 (5)	講義 GW
新生児期の看護 技術	・新生児に必要な看護技術を演習によって取得できる (アプガースコア、新生児のバイタルサイン、沐浴、おむつ交換、排気方法)			4 (2)	演習
評価・まとめ	筆記試験 70点			2 (1)	

		★
テキスト	<p>ナーシンググラフィカ 母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護</p> <p>ナーシンググラフィカ 母性看護学②母性看護の実際</p> <p>ナーシンググラフィカ 母性看護学③母性看護技術 メディカ出版</p>	
参考文献	国民衛生の動向	
評価方法及び評価基準	<p>筆記試験 70 点 ※ポートフォリオ課題 30 点、GW 評価、授業参加・発表態度を評価の参考とする。</p> <p>*ポートフォリオは印刷しただけのもの、ただ枚数をだせばいいは認めない。印刷したものをレポート用紙に貼付し、自己の考えや患者立場に立った場合どう考えるのかを感想ではなく、きちんとエビデンスを引用して考察したものとする。</p> <p>*最低 15 テーマ、コメント付箋 15 枚があり、ルールに基づいて作成されているもので、最高枚数の定めはない。</p> <p>*ポートフォリオの使用題材は、個々の興味が異なるため、同じ題材が多く提出されるとは考えにくい。特定の生徒が同じ題材が多く重なる場合は評価が減点される。</p>	
	<p>*筆記試験及び講師が提示した課題を提出しなければ母性看護学方法論Ⅱの点数はない・単位認定はできない</p>	

授業科目	小児看護学方法論Ⅰ	講師名	伊藤 哉女 宮川 理恵	開講年次：2年次前期	
				単位	時間数
				1	30(試験含)
ねらい	子どもの発達段階と健康レベルに応じた日常生活の援助方法の知識と技術を習得する				
授業計画					
回数	単元名	教育内容	時間	方法	
1 2	子どもの アセスメント	1) アセスメントに必要な技術 ①コミュニケーション ②バイタルサイン ③身体測定 2) 身体的アセスメント ①一般状態 ②眼、耳、鼻、口腔 ③呼吸 ④心臓・血管系 ⑦腹部 ⑧筋・骨格系 ⑨神経系 ⑩生殖器 ⑪リンパ系 ⑫皮膚・爪・体毛	4	講義 演習	
3 4 5 6 7	症状を示す子 どもの看護	①不機嫌 ②啼泣 ③痛み ④呼吸困難 ⑤チアノーゼ ⑥ショック ⑦意識障害 ⑧けいれん ⑨発熱 ⑩嘔吐 ⑪下痢 ⑫便秘 ⑬脱水 ⑭浮腫 ⑮出血 ⑯貧血 ⑰発疹 ⑱黄疸	10	講義	
8 9 10 11 12 13 14	検査・処置を受 ける子どもの 看護	1) 与薬 2) 検体採取 3) 巻法 4) 清潔 5) 栄養 6) 排泄 7) 呼吸症状の緩和 吸引・吸入・酸素療法	14	DVD 視聴 講義 モデル人 形を使用 した演習	
15	試験	試験 60分+授業 30分	2		
評価方法・評価基準	筆記試験 100点 筆記試験及び講師が提示した課題の提出をしなければ単位認定しません				
テキスト	ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 ナーシンググラフィカ 小児看護技術				
参考文献	授業内で適宜紹介します				

授業科目	小児看護学方法論Ⅱ	講師名	伊藤 哉女 宮川 理恵	開講年次：2年次前～後期		
				単位	時間数	
				1	30(試験含)	
ねらい	1. 小児の疾患や病態について理解し、健康障害を持つ小児とその家族の看護を学ぶ。 2. 事例を使用して健康障害をもつ小児と家族の看護過程を展開する。					
授業計画						
単元名		授業内容			時間	方法
1 2 3 4	看護過程の展開	1. 小児の看護過程 疾患や入院が発達段階や家族へ及ぼす影響を考え、アセスメントから計画立案まで行う			8	講義
5 6 7 8 9 10 11 12 13	小児に多い代表的な疾患の看護	2. 小児の代表的疾患看護 病態や検査・治療の介助について理解することができる 1) 新生児疾患・先天異常 2) 感染症 3) 呼吸器疾患 4) 循環器疾患 5) 消化器疾患 6) 悪性新生物 7) 腎・泌尿器疾患 8) 脳・神経 9) 運動器 10) 精神疾患			18	講義
14	小児の事故・救急措置	3. 小児に多い事故と救急処置 家庭内で起こりやすい事故の要因や初期対応が理解できる			2	講義
15	評価	筆記試験 60分+授業 30分			2	試験
〈備考〉小児看護学方法論Ⅰの学びを基本に小児と家族の看護を考えていきます。実習の前に発達段階の特徴を理解し、看護過程の展開を十分に習得しておく必要があります。						
評価方法及び評価基準	筆記試験 100点 筆記試験及び講師が提示した課題の提出をしなければ単位認定しません					
テキスト	ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 ナーシンググラフィカ 小児看護技術					
参考文献	授業内で紹介します					

授業科目	精神看護学方法論Ⅰ	講師名	田中 みとみ	開講年次：2年次前期	
				単位	時間数
				1	30時間(試験含む)
ねらい	現代の精神医療をとりまく状況が急速に変化し、精神科病院の長期入院は確実に短縮傾向にある。精神障害者支援の法制度も次々と更新し訪問看護も広がってきている。その視点での精神障害を持つ人を理解することは入院のみならず地域に目を向け人々とその家族の支援に生活者としてポジティブにかかわる必要がある。 本単元は精神のみならず身体の側面をも十分に注目し精神看護の援助の基本を学習することがねらいである。				

授業計画

単元名	教育内容	時間	方法
第9章 回復を助ける	A 回復の意味 B 入院治療の目的と意味 C 治療的環境をつくる	24	講義 レポート ミニテスト
第10章 安全をまもる	A リスクマネジメントの考え方と方法 B 緊急事態に対処する C 院内を中心とした災害時のケア		
第11章 身体をケアする	A 精神科における身体のケア B 身体にあらわれる心の痛み C 精神科の治療と身体のケア D 日常から気をつけておきたい身体合併症 E 精神科における身体のケアの実際 F 睡眠の援助 G 身体の問題へのグループアプローチ		
第14章 リエゾン看護	A 身体疾患をもつ患者の精神保健 B リエゾン精神看護とその活動 C リエゾンナースの活動の実際 D 看護師の精神的健康への支援		
終章 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス	A 看護師の不安と防衛 B 感情労働としての看護 C 看護師の感情ワーク D 看護における共感の光と影 E 感情労働の代償と社会 F レジリエンスを高める		
※テキストは精神看護の基礎①と展開②を持ってきてください			
第12章 サバイバーとしての患者とそのケア	A 受け入れがたい行動を示す患者たち B 心的外傷への着目 C 回復への道程	4	講義 レポート ミニテスト
第13章 地域における精神保健と精神看護	A 精神障害をもちながら地域で暮らす人を支える B 地域で生活するための原則 C 生活を支えるための社会資源・サービス		

設	D 地域での看護の実際 E 学校における精神保健と精神看護 F 職場における精神保健と精神看護 G 災害と精神看護		
試験	筆記試験 及び まとめ	2	試験
〈備考〉			
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100 点 筆記試験及び講師が提示した課題の提出をしなければ単位認定しません		
テキスト	武井麻子： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 (2) 精神看護の展開 医学書院 2019 年 国民衛生の動向		
参考文献	田中恵美子： 精神看護学 学生・患者のストーリーで綴る実習展開 医歯薬出版 2008 年 南 裕子： セルフケア概念と看護実践 へるす出版 1999 年 スティーブン J. ガバナ： 看護モデルを使う①オレムのセルフケア・モデル 医学書院 2000 年 マジョリー・ゴードン： ゴードン機能的健康パターンと看護診断 医学書院 2009 年 長谷川浩： 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 2013 年 他は授業の中で紹介します。		

授業科目	精神看護学方法論Ⅱ	講師名	安本 圭一 平山 颯行	開講年次：2年次後期	
				単位	時間数
				1	30時間(試験含む)
ねらい	患者と看護者関係を築いていく上で必要な自己・他者解のための知識・技術・態度を身に着ける必要がある。 更に、看護を展開するための専門的援助関係の構築技術を学ぶ				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
第8章 ケアの人間関係 (平山颯行先生)	A ケアの前提 B ケアの原則 C ケアの方法 D 関係をアセスメントする E 患者-看護師関係における感情体験 F 対処のむずかしい場面 G 医療の場のダイナミクス 【セルフケア理論】 ※プロセスレコードでは、『自己理解・他者理解を深める プロセスレコード第2版』を持って来て下さい			18	講義 演習
コーチング (安本圭一先生)	専門的援助関係の構築の技術 安本 圭一 1. コーチング 4. 承認のスキル 2. 傾聴の技術 3. 傾聴の実践			6 4	講義 演習
試験	筆記試験 及び まとめ			2	試験
〈備考〉 再構成については、①2年次の臨地実習時に経験した場面を題材とし理解を深めると判りやすいので情報をあつめておくことと取り組みやすい。					
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100点 (平山 80点 安本 20点) 筆記試験及び講師が提示した課題の提出をしなければ単位認定しません				
テキスト	武井麻子：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学(2) 精神看護の展開 医学書院 2019年 自己理解・他者理解を深める プロセスレコード2版(長谷川雅美)				
参考文献	宮本真巳：援助技法としてのプロセスレコード 精神看護出版 2007年 平木典子：カウンセリングとは何か 朝日選書 2003年 東京大学医学部心療内科TEG研究会 新版 TEGⅡ 解説とエゴグラム・パターン 金子書房 2007年 田中恵美子：精神看護学 学生-患者のストーリーで綴る実習展開 医歯薬出版 2008年 南 裕子：セルフケア概念と看護実践 へるす出版 1999年 スティーブN.J.ガバナ：看護モデルを使う①オレムのセルフケア・モデル 医学書院 2000年 マジョリー・ゴードン：ゴードン機能的健康パターンと看護診断 医学書院 2009年 平澤久一：精神科看護の非言語的コミュニケーション UP術 メディカ出版 2010年 岩崎弥生：新体系看護学全書 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社 2016年 長谷川雅美：プロセスレコードが書ける 読める 評価できる本 自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード 第2版 日総研出版 2017年 (他は授業の中で紹介します)				

授業科目	在宅看護概論Ⅰ	講師名	瓜生 知佳子		開講年次：2年次前期	
			単位	時間数	1	15
ねらい	1. 在宅看護を取り巻く社会の現状や時代背景及び歴史の変遷を学ぶ 2. 在宅看護の意義や目的を理解する 3. 在宅看護の課題や展望について考える					
授業計画						
目次	単元名	教育内容				方法
1	在宅看護論とは	1、在宅看護論を学ぶ意義				講義
2	在宅看護論の目的と特性	・在宅看護を学ぶにあたって				講義 グループワーク (発表)
3	在宅看護の背景	・在宅看護論を学ぶことの意味 在宅看護にかかわる現状 1) 在宅看護を必要とする人々の増加 2) 在宅療養を志向する国民のニーズの増大 3) 療養者を支える基盤の脆弱化				
4	在宅療養と在宅看護について	1、在宅療養をすることと在宅を支える看護とは 1、在宅看護の特性 2、在宅看護の内容 3、在宅看護にかかわる看護師に求められる能力				
5						講義 DVD 視聴 グループワーク (発表)
6						
7		1、在宅ケア・在宅看護・訪問看護の定義と位置づけ ・在宅看護とは ・在宅で看護を行うために重要なこととは				講義
8	評価・まとめ	筆記試験(60分)				試験
<p><備考>在宅看護概論Ⅰは、在宅看護の意義・目的を学ぶことだけに留まらず、社会情勢の中で社会に求められ変化し続ける看護の現状と今後の看護の方向性を考えてほしい。在宅看護を考える中で必要な「価値観」についても授業を通して考えてほしい。また、看護の本質について考えるきっかけとなってほしい。在宅看護論は、学びあいながら進めていきます。授業に際しては積極的に参加をしてほしいと願っています。在宅看護の変遷については、レポート提出とします。詳細は後日伝えます。 最期の講義のときに、授業評価のアンケートをとります。</p> <p>・授業は15時間ですが、授業の準備と授業後に学びとしての時間をとってください。</p>						
評価方法及び評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 筆記試験 90点 レポート 10点 (在宅看護の変遷) 合計100点 <p>*筆記試験の受験と、レポート提出が在宅看護概論Ⅰの点数の条件です。未提出の場合は、在宅看護概論Ⅰの点数はありません。単位認定しません。</p>					
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論					
参考文献	1) 杉本正子：在宅看護論実践をことばに：スーパーヒロコワ 2) 川村佐知子：在宅看護論：日本看護協会出版社 3) 渡辺裕子：在宅看護論概論Ⅰ第2版：日本看護協会出版社 4) 渡辺裕子：在宅看護論実践Ⅱ第2版：日本看護協会出版社 5) 松野かほる：系統看護学講座専門4在宅看護論 7) 高崎絹子：在宅看護論：医学美術社					

授業科目	在宅看護概論Ⅱ	講師名	瓜生 知佳子 長尾 一樹	開講年次：2年次前期	
				単位	時間数
				1	15
ねらい	1. 在宅看護の対象となる地域で生活する人とその家族を理解する ①地域で生活する療養者と家族を理解する ②家族形態の変化と家族の役割、介護と家族の関係について理解する ③地域の特徴と地域が療養者、家族に及ぼす影響を理解する				
授業計画					
目次	単元名	教育内容			方法
1	在宅療養者の特徴 (長尾一樹先生)	1) 訪問看護ステーションの法的位置づけ 2) 法律から見た対象			講義 演習
2		2) 対象者の特性 ・高齢者 ・高齢者の在宅看護の視点			講義 DVD 視聴
3		1) 対象者の特性 ・難病 ・難病患者の在宅看護の視点			講義 DVD 視聴
4		1) 対象者の特性 ・小児 ・小児の在宅看護の視点			講義 DVD 視聴
5		1) 対象者の特性 ・精神疾患療養者 ・精神の在宅看護の視点			講義 グループワーク
6	在宅看護と現代家族	1) 家族の機能 2) 在宅療養者と家族・現代家族の変遷、家族を取り巻く社会背景 ・介護者としての家族の理解(家族のニーズとアセスメント)			グループワーク の発表
7	地域で療養する人の理解	1) 地域とは 2) 地域の環境が生活に及ぼす影響 3) 地域のアセスメント			講義
8	評価・まとめ	筆記試験(60分)			試験
<p><備考>今後看護過程を展開する上においても在宅看護の特徴を明確にする事は重要である。在宅看護概論Ⅰで学んだ在宅看護の目的を活用しながら具体的に在宅看護での対象の特徴を理解してほしい。在宅看護論は、学びあいながら進めていきます。グループワークを行い、発表をする・聞くことで学びの共有ができることを期待します。講義の最終日に授業評価のアンケートを行います。授業は15時間ですが、授業の準備と授業後に学びとしての時間をとってください。</p>					
評価方法及び評価基準	筆記試験 90点 課題レポート 10点 計100点 *筆記試験の受験と、レポート提出が在宅看護概論Ⅱの点数の条件です。未提出の場合は、在宅看護概論Ⅱの点数はありません。				
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論				
参考文献	1) 鈴木和子：家族看護学 理論と実践：日本看護協会出版社： 2) Marilyn M. Friedman (訳) 野崎佐由美：家族看護学 理論とアセスメント：へるす出版 3) 渡辺裕子：在宅看護論概論Ⅰ第2版：日本看護協会出版社 4) 渡辺裕子：在宅看護論実践Ⅱ第2版：日本看護協会出版社 5) 杉木正子：在宅看護論実践をこぼに：ヌーベルヒロカリ 6) 川村佐知子：在宅看護論：日本看護協会出版社 7) 櫻井尚子：地域療養を支えるケア：MCメディカ出版 8) 松野かほる：系統看護学講座専門4在宅看護論 9) 高橋絹子：在宅看護論：医学芸術社				

授業科目	在宅看護方法論	講師名	瓜生 知佳子	開講年次： 2年次前期	
				単位	時間数
				2	60
ねらい	1、在宅看護の実践に必要な知識と技術、態度を習得する ①在宅看護における看護過程の考え方と展開方法を学ぶ ②在宅看護に必要な技術の考え方を理解し、技術を習得する ③事例を通して、在宅看護論で学んだ在宅看護の目的、対象理解、看護過程、在宅看護技術を実践的に活用できる				
授業計画					
单元名	順	教育内容		方法	
在宅看護技術 基本技術	1	療養者と家族への権利擁護（グループワーク）・・・療養者の権利と看護師の責務		講義 RP発表	
	2	療養者と家族への権利擁護			
	3	療養者と家族への権利擁護（自己決定の権利）			
	4	1、訪問を支える技術 1）基本技術 ①訪問の技術・初回訪問の面接技術（事例：初回訪問の事			
	5	初回訪問のロールプレイング・振り返り			
在宅看護技術 日常生活援助 技術	6	日常生活援助技術	生活を支援するための基本的な視点	講義 グループワーク	
	7	日常生活援助技術	生活を支援するための基本的な視点 グループワーク （食事・排泄・衣生活・清潔・環境・移動）事例を使って学びを進める		
	8	日常生活援助技術	生活を支援するための基本的な視点 グループワーク		
	9	日常生活援助技術	生活を支援するための基本的な視点 グループワーク		
	10～11	発表（事例を用いて使い方を発表する）			
在宅看護技術 診療の補助技術	12	3、医療処置に伴う技術（事例をもとに）		講義 グループワーク	
	13	グループワーク ①吸引②在宅経管栄養法③在宅酸素療法④在宅人工呼吸療法⑤CAPD ⑥ストーマケア（在宅における医療安全の視点を基盤にグループワークを行う）			
	14～17	グループワーク			
	18～20	発表（授業形式で発表を行う）			
在宅における看護過程の展開	21	1、在宅における看護過程の特徴・看護過程に沿って特徴を捉える・アセスメント 2、事例を通しての看護過程の展開		講義 グループワーク	
	22	事例展開			
	23	事例展開			
	24	事例展開			
	25	事例展開			
在宅における終末期看護	26	地域包括ケアシステム・		講義	
継続看護	27	継続看護・退院支援・退院調整		講義	

	28・29	在宅における終末期看護について ①在宅終末期の特徴	
評価・まとめ	30	筆記試験 (60分)	試験
<p><備考>在宅看護論は、学びあいながら進めていきます。グループワークを行い、発表をする・聞くことで学びの共有ができることを期待します。(グループ学習となります。グループメンバーとして協力し合いながら学んでください)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護技術の基本技術については、初回訪問の事例および日常生活援助技術及び医療処置に伴う技術演習を行なう中で具体的な注意点や行動を学ぶ。 ・日常生活援助技術については、各項目を在宅の視点でアセスメントができるようになるための基本的な知識を学ぶ。 ・診療の補助技術は、患者、家族が管理ができるための視点で学ぶ ・看護理論；家族論で学んだ家族理論やゴードンの機能的健康パターン、ストレス耐性—コーピングパターン、役割—関係パターン、価値信念パターンなどが特に重要になってきます。既習の理論を意識して授業を受けてください。 ・ 講義最終日に授業評価のアンケートをとります 			
評価方法及び評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 筆記試験 90点 課題レポート 10点 <p>* 筆記試験の受験と、レポート提出が在宅看護方法論の点数の条件です。未提出の場合は、在宅看護方法論の点数はありません。</p>		
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論		
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1) 鈴木和子：家族看護学 理論と実践；日本看護協会出版社； 2) Marilyn M. Friedman (訳) 野嶋佐由美；家族看護学 理論とアセスメント；へるす出版 3) 渡辺裕子：在宅看護論概論Ⅰ第2版；日本看護協会出版社 4) 渡辺裕子：在宅看護論実践Ⅱ第2版；日本看護協会出版社 5) 杉本正子：在宅看護論実践をこぼに；ヌーベルヒロカワ 6) 川村佐知子：在宅看護論；日本看護協会出版社 7) 櫻井尚子：地域療養を支えるケア；MCメディア出版 8) 松野かほる：系統看護学講座専門4 在宅看護論 9) 高崎絹子：在宅看護論；医学美術社 		

あさくら看護学校 授業の受講についてのルール

1. 受講上の注意

1. 受講マナー

- (1) 板書等の撮影、授業を録音・録画することを禁止します。
- (2) 受講に関しては、静粛かつ真剣に受講してください。私語は禁止します。
- (3) 授業担当者からの再三の注意にもかかわらず、受講態度を改めない学生には、授業担当者の判断により教室から退出を求める場合があります。
- (4) 携帯電話・スマートフォン・タブレット等の使用を禁止します。
受講中、携帯電話・スマートフォン・タブレットの電源は、切るかマナーモードにしておいてください。
(講義途中、呼び出し音などがなることは厳禁です)
- (5) 授業中の飲食は禁止します。ガムをかむなどの行為もしてはいけません。
- (6) 授業に遅刻して入室しなければならなくなったときは、必ず授業担当者とその旨を報告の上、着席してください。
- (7) 授業中に無断で退出することは禁止します。

* 授業の録音、録画について

授業の録音、録画については、各学校によってさまざまな対応がなされています。本学校では、2点から録画、録音の禁止を行っています。1点目は、看護学校の講義内容の特殊性から講義中の話に、学生の名前、患者のプライバシーなど含まれる可能性があります。それらは講義中の学習として話されたものでありますが、録画・録音をした場合、外部に漏れる可能性があります。録音・録画されたものの取り扱いについてのチェックは難しく、それらが更にインターネット上にアップロードされる危険性を考えると、録音録画は禁止とさせていただきます。

2点目は、我々がなろうとする看護師は、場面での話をきちんと聴く能力が求められます。講義においても、その場その時講師が何を言わんとしているかをきちんと聴き取ることを訓練していただきたいと考えます。それが、聴く能力の獲得につながると考えます。以上、2点から本校では録音録画を禁止いたします。

2. 教室内のマナー

- (1) 消し忘れの板書は消し、清潔な教室を常に心がけましょう。
- (2) 授業終了後、不要な照明や冷暖房は、スイッチを切ってから退出しましょう。
- (3) 教室を利用して飲食をする場合は、ゴミを教室に捨てないで、所定の場所に分別して捨てましょう。
- (4) 机・椅子を移動した場合は元の状態に戻してください。

3. 授業アンケート

本学では、授業担当者がより良い授業を行うために、授業アンケートを実施しています。

授業アンケートは、授業期間中に授業改善ミニアンケートやリアクションシート、授業評価といった用紙を使用して、学生の皆さんの意見を確認します。授業期間内にアンケートを実施することによって、授業をより良くすることができますので、協力をお願いします。

その結果は学校全体として分析し、学生の皆さんがより良い授業を受講できるよう改善を進めていきますので、必ず回答をお願いします。

成績評価の対象にもなりませんので、授業に対して感じた率直な意見や感想を入力してください。

平成30年5月24日作成

単位認定試験受験のルール

1. 受験のルール

- ①授業時間の2/3以上を受講しなければ受験資格はない
- ②試験に無断で欠席した場合は受験資格を失うことになる
(単位認定ができないため進級はできない)

	内容	備考
	<p>事前に受験方法及び試験に関する決まり事を説明を受け理解しておく 週番は、早めに出席確認をして、出席していない学生については、クラス内で連絡をとる 体調不良者は事前に教務室に来て、教務にその旨を報告し指示を受ける</p>	
1	1. 学生は試験5分前に着席しておく	1. 受験できる体制で着席しておく 2. 5分前になったら入り口のドアを閉める(入室禁止とする)
2	1. 出席確認をする ①出席番号順に着席する	1. 仮に欠席者がいたとして机を前に詰めない
3	1. 出席確認後、 ① 机の上に落書きや文字が書かれていないか確認する ② 机の中にモノが入っていないか確認する ③ 机の上に置くもの ・鉛筆(シャープペン)、消しゴム、時計機能だけの時計、シャープペンの芯はあらかじめ入れておけるため不可、その他講師が特別指示したモノ ・ポケットティッシュ、ハンカチは事前に教員にチェックを受けたモノのみ可とする *目薬は持ち込み不可	1. 試験の前日に自分が座っている机上の落書きを消しておくように伝える もし、後でわかったら席についている学生の責任とし試験が無効になることもある 2. 自分の机と異なるが、引き出しに物が入っていたら着席している人の責任となるため確認をする
4	1. 週番は、黒板に指定の記載事項を記入しておく 科目名(担当講師名) 試験時間 退出可能時間 在籍人数 欠席人数・名前 2. 試験問題配布される ① 解答用紙を配布されたら、後ろの人に回す(裏にして) ② 次に試験問題を配布されたら、後ろの人に回す(裏にして) 3. 試験問題の枚数と解答用紙の枚数を伝えられるため、試験開始後すぐに確認する 4. 問題の質問や落とし物等は必ず挙手する 5. 遅刻の際15分以内であるならば受験可能である	*遅刻については、15分以内に教室入っていない場合は15分遅刻と認めない。(教室に入った時間が15分以内の場合は認める)従って、教室外で15分を超えた場合も受験資格はない

5	1. 教室前の時計を目安に試験開始の合図をされるため、験を開始する ① 試験問題枚数と解答用紙枚数の確認をする ② 試験問題、解答用紙共に名前の記載をする	
6	1. 試験が始まって落ち着いてきたら、机間巡視が始まる ① 机の上に文字が書いていないか確認される ② 机の上に指定されたもの以外がないか確認される ③ 受験環境として、机に位置、個人のモノの所在、机間巡視できる幅があるかど確認される ④ 後ろから、机の中にモノがないか確認される ⑤ 試験の受け方で、問題用紙を机から垂らしている・姿勢が悪く斜めで記載しているなどは随時声を出さずに注意をされることがある	1. 教員は試験時間中、監督を行っているため質問等があれば挙手する
7	① 学生はトイレに行きたい場合は申し出る（他教員を呼んでもらうため早めに申し出る） ・学生は、問題用紙解答用紙を裏にして席を立つ	
8	1. 途中退出者について ① 地中退出者は、問題用紙、解答用紙を裏にする ② 静かに立ち、自分の席から近いドアから退出する ③ 試験後授業がある場合もあるため、待機場所はさくらホールとする（他の授業のことなどはしない）	1. 途中退出は可能であるが、試験時間はその科目の授業時間であるため、他の授業のことや飲食をする時間ではない
9	1. 試験終了5分前になったら「試験終了5分前です。再度試験問題、解答用紙に名前を書いているか確認してください」と伝えられるため確認をする	1. 枚数が多いものはすべての問題用紙に名前を記入する
10	1. 試験終了の合図をされたら、鉛筆を置いて解答用紙を裏にする。監督の指示に従って、後ろから集める	
11	1. 次の指示がなされるため、指示に従う 授業 ① 途中退出者は教室に入る ② 授業を開始する 授業外 ① 他学年は授業中であるため、静かに過ごす	

平成31年3月18日作成

問題用紙・解答用紙返却に際してのルール

- ①返却のルールは、読んで理解しておく
- ②返却に際して、事前に返却する旨の掲示があるため必ず掲示板で確認する。
- ③点数 57 点以上 60 点未満の答案用紙はコピーをする
- ③解答用紙、問題用紙を返却後、模範解答を伝える
- ④ 採点間違いの申告は、模範解答を伝えたのち 10 分以内としそれ以降はどのような申し出も受け付けない
 - ・単純な採点ミスは受け付けるが、記述式の問題については受け付けない（特に外部講師の記述式については受け付けない）
- ⑤返却時の環境
 - ・返却の場所は、整理された環境で返却を行うことになっており、掲示板で事前に指示がある
（基本的には、自教室以外の場所で行うこと）
 - ・返却されたら、各自座って確認する
（他の学生の席に移動してはいけない）
 - ・採点間違いを申告しないものは、返却場所から速やかに退出する
 - ・一度退出した学生は、再び返却場所に戻って対象科目の試験について異議申し立てをすることはできない
 - ・返却の際、鉛筆、消しゴムの持ち込みを厳重に禁止する
（単色（青色）ボールペンのみ持ち込み可・消しゴム・鉛筆の持ち込みは不可とする）

令和元年 6 月 27 日作成

令和元年 7 月 2 日改正

再試験・追試験の受験料支払いについてのルール

あさくら看護学校細則

(追試験)

第22条 本試験を受けることができなかった場合、追試験を受けることができる。

- 2 追試験は、次の各号をすべてみなさなければ認められない。
- 3 追試験が認められた者は、当該試験の3日前(17:00)までに事務室に受験料を納付しなければならない。

*追試験は、やむを得ない場合を除いては認めない方針である

(再試験)

第23条 本試験に不合格となった場合、再試験を行う。

- 2 再試験を希望する者は、事務室に再・追試験願と受験料を添えて当該試験日の3日前(17:00)までに提出しなければならない。

【運用】

- 1、 土曜日・日曜日・祝日・及び学校が規定した休業日を入れない3日前とする

運用例

水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日	試験日
	3日前 支払最終日	2日前			1日前	当日

*木曜日の17:00までに支払いを行う

水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日 (祝日)	試験日
3日前 最終支払日	2日前	1日前				当日

*水曜日17:00までに支払いを行う

*土曜日・日曜日・祝日及び学校が規定した休業日を入れないとは・・・

学則第7条

休業日は、次の通りとする

- (1) 国民の祝日に関する法律に定める休日
- (2) 土曜日および日曜日

(3) 季節休業は学年を通じて10週間とする

夏季休業6週間、冬季休業2週間、春季休業2週間

(4) 前3号に定めるもののほか、校長の定める日

とあるため、上記1号・2号・4号とする。

・3号に関しては、やむを得ない場合、季節休業時に再試験・追試験を行うことがあるため、その限りではない。

(季節休業中も、原則試験口3日前の支払いとする)

・土曜日、日曜日が出校日の場合(てびてい祭・宿泊研修等)でも、土曜日・日曜日となるため3日前には入らない。

結論

3日前とは、下記に挙げた休業日以外の日(平日)とする

- 1、 国民の祝日に関する法律に定める休日
- 2、 土曜日および日曜日
- 3、 前3項に定めるもののほか、校長の定める日
- 4、 土曜日、日曜日が出校日の場合(てびてい祭・宿泊研修等)でも、土曜日・日曜日となるため3日前には入らない。

2、支払いができなかった場合の対応

*払う意思がない(受験の意思がない)ものとして受験することはできない。

再試験を受験できないということは、単位認定ができないということであり、進級・卒業に係る

*不測の事態も考えられるため、掲示されたらできるだけ早めに支払いをすること

*個人的に支払いについての促しはしない。自己責任として、受験不可となる。

平成30年10月26日作成

授業科目		配当年次・学期		講師名	資格	実務経験年数	実務経験内容	授業科目概要・目標	単位	時間数	
基礎分野	家族論	2年	前期	入部 久子	看護師 保健師 助産師	3	病院にて看護師として勤務	1. わが国の家族は、少子・高齢化が進む中で育児不安や離婚の増加、高齢者のケアなど諸問題に直面している。このような中で、家族の構造や機能を含めて家族とはなにかについて考える。社会的要因の家族への影響や家族支援など看護師に求められる看護ケアの進め方を学ぶ。	1	30	
	人権論	2年	前期	信友 浩一	医師	12	病院（呼吸器内科）にて勤務	1. 社会的なものの方や考え方を身につけ、偏見や感情や自分の立場に支配されずに現実を見る目を養う。	1	30	
専門基礎分野	病理学	1年	前期	田口 順	医師	31	病院（病理診断科）にて勤務	1. 疾病になる原因を探り、疾病によって患者の身体に生じている変化を明らかにし、診断や予防において観察力を高め判断力を養う。	1	30	
	疾病と治療Ⅰ	アレルギー	1年	前期	古賀 丈晴	医師	33	病院（呼吸器・内科）にて勤務	1. 呼吸器疾患・アレルギー疾患、血液・造血器疾患、膠原病、皮膚疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。	1	30
		呼吸器			草場 信秀	医師	31	病院（血液・内科）にて勤務			
		血液・造血器・膠原病			松元 二郎	医師	33	病院（皮膚科）にて勤務			
		皮膚疾患									
	疾病と治療Ⅱ	循環器疾患	1年	前期～後期	大島 英樹	医師	14	病院（循環器内科）にて勤務	1. 循環器疾患、運動器疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。	1	30
					堀 真貴子	医師	10	病院（循環器内科）にて勤務			
		運動器疾患			藤井 正敏	医師	43	病院（整形外科）にて勤務			
					小山 耕一	医師	30	病院（整形外科）にて勤務			
	疾病と治療Ⅲ	腎	1年	後期	森山 敦夫	医師	40	病院（腎臓・内科）にて勤務	1. 腎・泌尿器疾患、内分泌・代謝疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。	1	30
		泌尿器疾患			松永 祥弘	医師	4	病院（泌尿器科）にて勤務			
		内分泌・代謝疾患			山田 研太郎	医師	43	病院（糖尿病・内科）にて勤務			
	疾病と治療Ⅳ	小児	1年	後期	黒田 直宏	医師	21	病院（小児科）にて勤務	1. 小児疾患や消化器疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。	1	30
		消化器疾患			河口 康典	医師	21	病院（消化器内科）にて勤務			
					高田 晃男	医師	26	病院（消化器内科）にて勤務			
	疾病と治療Ⅴ	女性疾患	1年	後期	東島 利紀	医師	32	病院（産婦人科）にて勤務	1. 脳神経疾患、リハビリテーション、女性疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。	1	30
リハビリテーション		下川 裕			理学療法士	16	病院（リハビリテーション科）にて勤務				
脳神経疾患		大浅 貴朗			医師	26	病院（脳神経外科）にて勤務				
疾病と治療Ⅵ	歯科口腔疾患	2年	前期	廣田 溪	医師	6	病院（歯科・口腔外科）にて勤務	1. 眼科疾患、耳鼻咽喉器疾患、歯科口腔疾患、精神疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。	1	30	
	精神疾患			吉良 健太郎	医師	9	病院（精神科）にて勤務				
	眼科疾患			廣木 稔	医師	22	病院（眼科）にて勤務				
	耳鼻科疾患			富田 和英	医師	24	病院（耳鼻咽喉科）にて勤務				
栄養学		1年	前期	小島 良子	管理栄養士	50	病院にて管理栄養士として勤務	1. 生体に必要な栄養素のはたらきを理解する。 2. 食事の重要性や食生活に伴う健康問題について学び臨床で活用できる知識を養う。	1	30	
薬理学		1年	後期	江藤 良典	薬剤師	36	病院（薬剤科）にて勤務	1. 薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び薬物の管理について理解し臨床で活用できる。	1	30	
保健医療論Ⅰ		1年	前期	西依 淳	医師	30	病院（小児科）にて勤務	1. 人々が生涯を通じて健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できる必要な知識を学ぶ。 2. 保健医療に関する基本概念・関係制度から関係職種役割を理解する。	1	15	
社会福祉学概論		2年	前期	泉 賢祐	社会福祉士	15	病院にて社会福祉士として勤務	1. 社会福祉の変遷や基本理念・概念を理解し、社会保障制度の内容とその背景を理解する。 2. 人々が生涯を通じて健康や障害の状況に応じて社会資源を活用できるように必要な知識と基本的能力を養う。	1	15	
社会福祉法制論	前期		病院にて社会福祉士として勤務				1. 社会福祉の法制度及びその活用方法を理解し、臨床現場での他職種との連携に役立てることができる。	1	15		

授業科目		配当年次・学期		講師名	資格	実務経験年数	実務経験内容	授業科目概要・目標	単位	時間数
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	1年 前期	中原 彩実	看護師	15	病院にて看護師として勤務	1. 「看護」「健康」「人間」「環境」を看護に活用できるように基本要素を学ぶと共に意義を理解する。 2. 看護の対象や看護の場、看護倫理、看護システム、看護の国際化の学びを通し、実際の看護活動や今後の看護のあり方について考える。	2	30
		方法論Ⅰ	1年 前期～後期	江藤 則子	看護師	17	病院にて看護師として勤務	1. 科学的な根拠に基づいた看護技術を習得する。 2. コミュニケーション、フィジカルアセスメントを強化し看護過程を学び実践のための基礎技術を習得する。 3. 事例を通し看護技術を適用する方法を学ぶ。	2	90
				白瀧 美香	看護師	19	病院にて看護師として勤務			
				堀内 幸代	看護師	11	病院にて看護師として勤務			
		方法論Ⅱ	1年 前期～後期	白瀧 美香	看護師	19	病院にて看護師として勤務	1. 健康生活の維持や疾病回復の過程を「生活する視点」から諸科学を結びつける形で援助を捉える。 2. 看護の対象の生活過程を整えるため、その援助方法を習得する。	2	90
				堀内 幸代	看護師	11	病院にて看護師として勤務			
				宮川 理恵	看護師	16	病院にて看護師として勤務			
方法論Ⅲ	1年 後期	白瀧 美香	看護師	19	病院にて看護師として勤務	1. 診察、検査・治療処置をうける患者への援助及び診療補助技術が身体に及ぼす影響を理解する。 2. 患者への安全な看護技術の援助方法を身につける。	1	45		
		宮川 理恵	看護師	16	病院にて看護師として勤務					
臨床看護総論	2年 前期～後期	堀内 幸代	看護師	11	病院にて看護師として勤務	1. さまざまな健康上のニーズをもつ人々に、既習の個々の看護技術を統合し、主要症状別看護、経過別看護で疾病・障害をもった患者に対しての看護技術の応用を学ぶ。	2	90		
白瀧 美香	看護師	19	病院にて看護師として勤務							
池田 陽子	看護師	9	病院にて看護師として勤務							
看護研究	3年 前期～後期	池田 陽子	看護師	9	病院にて看護師として勤務	1. 看護における研究の意義・役割を理解し、文献検索の重要性と積極的活用を学ぶと共に、研究の方法についての基本的知識を習得する。	1	30		
専門分野Ⅱ	成人看護学	概論	1年 前期	江藤 則子	看護師	17	病院にて看護師として勤務	1. 青年期以降50年間にわたる成人期にある人々の生活が時代と共に様変わりすること、及びライフサイクルにおける対象を理解し、成人期の特徴、成人保健の動向や成人期の健康問題を学ぶ。	1	15
		方法論Ⅰ	1年 前期	白瀧 美香	看護師	19	病院にて看護師として勤務	1. 社会の中核となる成人期のさまざまな健康レベルにある人々を支える看護のあり方を学び、身体的精神的社会的に複雑な様相を呈する成人の健康状態に焦点を合わせて、健康生活を促す看護を学ぶ。	1	15
		方法論Ⅱ	2年 前期	河原 朋果	看護師	13	病院にて看護師として勤務	1. 急性期にある患者の特徴を理解し、手術療法をうける患者への看護援助や生命の危機的状況にある患者への看護援助を学ぶ。 2. 救急看護における知識・技術・態度を学び、看護過程を通して臨床実践能力の向上を図る。	1	45
				今村 佳	看護師	19	病院にて看護師として勤務			
				内田 ひろみ	看護師	20	病院にて看護師として勤務			
				吉宗 由美子	看護師	36	病院にて看護師として勤務			
				江藤 則子	看護師	17	病院にて看護師として勤務			
		方法論Ⅲ	2年 後期	江藤 則子	看護師	17	病院にて看護師として勤務	1. 身体の喪失や身体機能の障害をもつ人の、回復期の患者を理解し、その人らしく生活するための生活過程を整える知識・技術・態度を学ぶ。 2. 事例を通し臨床実践能力の向上を図る。	1	30
		方法論Ⅳ	1年 後期	原 妙子	看護師	22	病院にて看護師として勤務	1. 長期にわたって治療を必要とする慢性疾患をもつ患者の、生涯疾病と共に生活するためのマネジメントができるような看護援助に必要な知識・技術・態度を学ぶ。 2. 看護過程の展開を通して臨床実践能力を図る。	1	30
				白瀧 美香	看護師	19	病院にて看護師として勤務			
方法論Ⅴ	2年 後期	満上 千代美	看護師（緩和ケア認定看護師）	28	病院にて看護師として勤務	1. がん等の治療困難な疾病を持つ患者の終末期の苦痛を理解し、がん看護における緩和ケアを学ぶ。 2. 生命の尊厳やQOL等、倫理的配慮を含め事例を通して学ぶ。	1	15		
老年看護学	概論	2年 前期	中原 彩実	看護師	15	病院にて看護師として勤務	1. 老年看護学概念を理解し、加齢に伴う身体的・生理的・社会的変化を理解する。 2. 高齢化社会の現状やライフスタイル、ニーズを理解し、老年看護の対象、目的、役割について学ぶ。	2	30	
	方法論Ⅰ	2年 前期～後期	馬田 聡美	看護師	30	病院にて看護師として勤務	1. 老年期の健康状態と老化の側面から把握し、生活機能の観点からアセスメントすることで看護を展開する方法を学ぶ。	1	30	
			伊藤 哉女	看護師	17	病院にて看護師として勤務				
	方法論Ⅱ	2年 後期	福嶺 初美	看護師（老人看護専門看護師）	33	病院にて看護師として勤務	1. 健康障害のある高齢者を理解し、疾病予防・健康の回復・保持増進の視点を含め、看護過程の展開を通して看護実践能力を養う。	1	30	
伊藤 哉女			看護師	17	病院にて看護師として勤務					
小児看護学	概論	1年 後期	堤 順子	看護師	29	病院にて看護師として勤務	1. 小児看護の特徴、小児各期の生活と環境について理解し、健康な小児の日常生活の保持・増進さらに小児看護の目的、役割、機能について学ぶ。 2. 健康障害が小児と家族に与える影響を理解し予防、健康の回復及びよりよい成長・発達への看護支援を学ぶ。	2	30	
	方法論Ⅰ	2年 前期	伊藤 哉女	看護師	17	病院にて看護師として勤務	1. 健康障害が小児及び家族に及ぼす影響を理解し、小児の症状・検査・処置に応じた看護援助の方法と看護アセスメントを学ぶ。 2. 小児と家族のおかれた環境、生活に適應できるための援助を理解する。	1	30	
			宮川 理恵	看護師	16	病院にて看護師として勤務				
	方法論Ⅱ	2年 前期～後期	伊藤 哉女	看護師	17	病院にて看護師として勤務	1. 小児の疾病・障害の病態を理解し、健康障害に応じた看護を理解する。 2. 小児の成長・発達をふまえたアセスメント力を高め、健康問題を理解する中で臨床実践能力の向上を図る。	1	30	
			宮川 理恵	看護師	16	病院にて看護師として勤務				

授業科目		配当年次・学期		講師名	資格	実務経験年数	実務経験内容	授業科目概要・目標	単位	時間数
専門分野Ⅱ	母性看護学	概論	1年 前期	前川 彩	看護師 助産師 保健師	11	病院にて看護師・助産師として勤務	1. 母性看護の対象を理解し、母性看護の意義を学ぶ。 2. 母性を取り巻く社会情勢と法制度、母子保健の動向を理解し母性看護の役割を学ぶ。	2	30
		方法論Ⅰ	2年 前期	井手 輝実	看護師 助産師	37	病院にて看護師・助産師として勤務	1. 妊娠・分娩・産褥期における対象理解と健康の保持増進の看護を学ぶ。 2. 新生児の看護と保健指導の意義を理解する。	1	30
				前川 彩	看護師 助産師 保健師	11	病院にて看護師・助産師として勤務			
	方法論Ⅱ	2年 前期	前川 彩	看護師 助産師 保健師	11	病院にて看護師・助産師として勤務	1. 産褥期の看護、正常分娩の経過からハイリスクな状況の人々の分娩経過とその看護を学ぶ。 2. 新生児の看護と産後の保健指導を理解し看護過程の展開を通して臨床実践能力の向上を図る。	1	30	
	精神看護学	概論	1年 後期	中村 一孝	看護師	30	病院にて看護師として勤務	1. 精神の健康の保持増進と、健康障害時の看護を理解する。 2. 人間の心の健康と精神障害者を理解し生活の場及び精神の健康問題について考え、ストレスの状況と危機の状況に対する適切な危機介入や精神保健活動を通し精神看護の意義・役割・機能について学ぶ。	2	30
		方法論Ⅰ	2年 前期	田中 みとみ	看護師	48	病院にて看護師として勤務	1. 精神を病む人への看護援助を学ぶ中で、精神看護師の役割及び知識・技術・態度を理解し対象に応じた援助を学ぶ。	1	30
方法論Ⅱ		2年 後期	安本 圭一	看護師	24	病院にて看護師として勤務	1. 患者と看護者関係を築いていく上で必要な自己理解、他者理解のための知識・技術・態度を学ぶ。 2. 精神障害の特徴的な症状とその看護を理解する。	1	30	
	平山 顕行		看護師	19	病院にて看護師として勤務					
統合分野	在宅看護論	概論Ⅰ	2年 前期	瓜生 知佳子	看護師 保健師	7	病院にて看護師として勤務	1. 地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し在宅での看護の基本概念を学ぶ。 2. 在宅看護を取り巻く社会の現状や時代背景及び歴史の変遷を学び、在宅看護の意義や目的、更に他職種との連携を理解する。	1	15
		概論Ⅱ	2年 前期	長尾 一樹	看護師（認知症看護認定看護師）	15	病院にて看護師として勤務	1. 在宅看護の対象となる人とその家族を理解し在宅で療養する看護の実践を学ぶ。 2. 療養者が生活する地域の特徴と地域が療養者、家族に及ぼす影響が理解できる。	1	15
				瓜生 知佳子	看護師 保健師	7	病院にて看護師として勤務			
		方法論	2年 前期～前期	瓜生 知佳子	看護師 保健師	7	病院にて看護師として勤務	1. 在宅看護を実施する上で必要とされる実践に必要な知識・技術・態度を実践的に習得する。 2. 事例を通して、在宅看護における看護過程の展開方法を学ぶ。	2	60
	看護の統合と実践	看護技術統合Ⅰ	3年 前期～後期	池田 陽子	看護師	9	病院にて看護師として勤務	1. 臨地に近い状況で看護を学び複数患者を受け持ち、優先順位を判断し実施することができる判断力と日常生活技術を習得する。	1	30
		看護技術統合Ⅱ	3年 前期～後期	池田 陽子	看護師	9	病院にて看護師として勤務	2. 医療機器を装着している患者の観察と判断力・マネジメント力・実践のためのコミュニケーション能力を学ぶ。看護技術の総合的評価を行う。	1	30
		看護管理Ⅰ	3年 前期～後期	堤 順子	看護師	29	病院にて看護師として勤務	1. 既習の知識・技術・態度を統合し望ましい臨床実践マネジメント基礎能力を身につける。 2. チーム医療及び他職種との協力の中で看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解する。	1	15
				中原 彩実	看護師	15	病院にて看護師として勤務			
		看護管理Ⅱ 災害看護学	3年 前期～	渡邊 隆明	看護師	23	病院にて看護師として勤務	1. 災害直後から支援できる看護の基礎知識を理解すると共に医療安全の臨床に近い体験を事例を用いて認識を高める。	1	15
		看護管理Ⅱ 国際看護学	3年 後期	瓜生 知佳子	看護師	7	病院にて看護師として勤務	2. 国際社会において看護師として諸外国との協力を考えることを目的に異文化を理解しとの看護交流を学ぶ。		
実務経験のある教員等による授業科目の単位数の合計									54	単位

カリキュラムガイダンス

授業科目概要

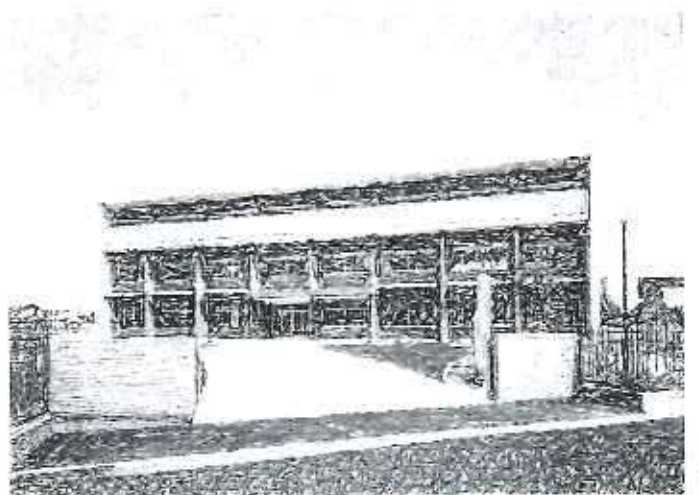


令和2年度

3年生（9回生）

あさくら看護学校

ASAKURA
MEDICAL
ASSOCIATION NURSING
COLLEGE



令和2年度 教職員氏名一覧

名称		氏名	担当領域
校 長		坂 田 高	
副 校 長		中 原 彩 実	
学校担当理事		杉 山 正 治	
健康管理医		安 永 祐 三	
教育科長(全般)/1年担任補佐		伊 藤 哉 女	老年看護学
教育科長(新力リ担当)/実習補佐		瓜 生 知 佳 子	在宅看護論
実習調整/2年生担任補佐		江 藤 則 子	成人看護学
1年生担任		瓜 生 知 佳 子	
専任教員/2年生担任		宮 川 理 恵	小児看護学
専任教員/3年生担任		堀 内 幸 代	基礎看護学
専 任 教 員	国試補佐	池 田 陽 子	看護の統合と実践
	健康管理	白 瀧 美 香	成人看護学
	1年生副担任	前 川 彩	母性看護学
		中 村 一 孝	精神看護学
実習担当教員		月 俣 里 美	
		小 河 恵 美 子	
		今 村 佳 代	
事 務 長		衛 藤 昌 一	
事 務		鳥 越 恵 理	
事 務		原 田 亮 二	
事 務		藤 本 喜 代 美	
事 務		養 父 ミ キ	
図 書 司 書		中 原 織 音	
		吉 岡 由 美 子	

目 次

令和 2 年度 学年歴	・・・ 1
【基礎分野】	・・・・・・・・・・ 2 ～ 3
健康運動論	・・・ 2
中国語	・・・ 3
【専門基礎分野】	・・・・・・・・・・ 4
関係法規Ⅱ	・・・ 4
【専門分野Ⅰ】	・・・・・・・・・・ 5～6
看護研究	・・・ 5～6
【統合分野】	・・・・・・・・・・ 7～13
看護技術統合Ⅰ・Ⅱ	・・・ 7～ 9
看護管理	・・・ 10～13
【その他：ルール】	・・・ 14～20
【実務経験のある教員等による授業科目の一覧表】	・・・ 21～23

令和2年度 学年歴

行 事	学 年	予 定 日
入学式	1	令和2年4月9日(木)
入学時オリエンテーション	1	令和2年4月10日(金) 4月13日(月)
健康診断	全	1年生 令和2年4月28日(火) 2年生 令和2年4月16日(木) 3年生 令和2年4月6日(月)
てふてふ祭(学校祭)	全	中止
防災訓練	全	令和2年6月10日(水)
宿泊研修	1	令和2年11月20日(金)～11月21日(土)
夏季休業	全	令和2年7月27日(月)～9月4日(金)
戴帽式	1	令和2年10月29日(木)
冬季休業	全	令和2年12月22日(火)～令和3年1月4日(月)
看護学会	2	
運動会(学校祭)	全	令和3年 2月18日(木)
国家試験	3	令和3年2月14日(日)予定
卒業式	全	令和3年3月4日(木)
春季休業	全	令和3年3月19日(金)～4月1日(木)

授業科目	健康運動論	講師名	開講年次：3年次後期	
			単位	時間数
			1	30時間 (試験含)
ねらい	<p>近年、身体活動・運動が総死亡率・がん・循環器疾患やその誘因となるメタボリックシンドローム等に対して予防・改善効果があるというエビデンスが確立されてきている。またメンタルヘルス対策や介護予防などの視点においても、身体活動・運動を活用する場面が多くなってきている。看護の一環として、健康障害時の援助のみならず健康の保持増進も視野に入れることは重要である。</p> <p>本科目では、身体活動・運動による疾病の予防、改善、および健康保持増進の理論と方法について学習する。さらに、各健康レベルに応じた援助法の理解とともに、運動・スポーツの特性に触れ、生涯にわたって身体活動・運動に親しむことができる意識を培う。</p>			
授業計画				
单元名	教育内容		時間	方法
1. 健康運動の根拠	①身体活動・運動がもたらす利益とヘルスプロモーションについて ②健康法事増進のための指針と施策について		4	演習、講義
2. 運動処方考え方	①運動のリスクについて ②運動時の生理的変化と運動処方について		4	講義
3. 健康運動の具体例	①体力の種類とトレーニング理論について ②メタボ改善に活かす身体活動・運動について ③リフレッシュに活かす運動について ④介護予防、転倒予防のための運動について		8	講義
4. 継続可能な運動実践	①リフレッシュに活かす運動 ②姿勢のチェックとコア・スタビリティ運動 ③安全に楽しく実践する体力づくり運動 ④手軽にできるゲーム		8	実技
5. 総合的な視野に立った健康保持増進の戦略	①行動科学を用いた身体活動・運動の継続法 ②健康増進プログラムの企画、立案		4	講義、演習
6. まとめ、試験	まとめと試験		2	
評価方法及び評価基準	筆記試験(80%程度)に授業評価点等(20%程度)を加味して得点化し(100点満点)、60点以上を合格とする			
テキスト	江口泰正、中田由夫(編著) 職場における身体活動・運動指導の進め方。大修館書店、2018			
参考文献	「健康づくりのための身体活動基準 2013」(厚生労働省ホームページ、下記アドレスより入手可能、もしくは「身体活動基準 2013」で検索) http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002xppl-att/2r9852000002xpqt.pdf			

授業科目	中国語	講師名	開講年次：3年後期		
			単位	時間数	
			1	30時間（試験含）	
ねらい	私達の住むアジアの中で特に関係の深い中国の語学と文化について理解を深めることと基礎的な医療的コミュニケーションの習得				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
第1課	自己紹介			4	講義 演習
第2課	どうなさいましたか			4	
第3課	この薬はどう飲みますか			4	
第4課	病室はどこですか			4	
第5課	具合はいかがですか			4	
第6課	心配ありません			4	
第7課	退院おめでとうございます			4	
試験	試験			2	
評価方法及び 評価基準	試験 100点				
テキスト	協同学習で学ぶ「医療系中国語会話」李偉 管虹 白帝社（2018.8 出版）				
参考文献	なし				

授業科目	関係法規Ⅱ	講師名	開講年次：3年次前期		
			単位	時間数	
			1	15時間(試験含む)	
ねらい	看護職に必要な法令を学び、看護業務及びその法的責任について理解する。その上で、国家試験で過去に出題された問題に対しても、解答できる知識を身につける。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
1. 講義ガイダンス	講義概要、看護に関わる法について法の種類			2	講義
2. 医事法① 民法(成年後見)	看護法(保健師助産師看護師法) 医事法(医師法、医療法)			2	
3. 社会保障法 医事法②	社会保障法の基礎知識、医療に関する法律(健康保険法、国民健康保険法等) 看護法(看護師等の人材確保の促進に関する法律)、医療法(医療施設に関する法律、診療に関する記録等)			2	
4. 保健衛生法①	地域保健法、感染症に関する法律、予防接種法			2	
5. 保健衛生法②	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、母子保健法、母体保護法			2	
6. 福祉法	介護保険法、社会福祉法、生活保護法、児童・高齢者・障害者福祉法			2	
7. 労働法、その他	労働基準法、労働安全衛生法、雇用促進に関する法律、配偶者暴力防止法			2	
8. 試験				1	
評価方法及び評価基準	筆記試験				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法令 医学書院 看護法のすすめ 大橋 将 マイクロコンテンツ 2019年版				
参考文献	必要に応じて講義の中で紹介する				

授業科目	看護研究	講師名	池田 陽子	開講年次:3 年次	
				単位	時間数
				1 単位	30 時間
ねらい	看護学における研究の意義と役割および研究の責任や倫理的配慮について理解する。 学習目標 1. 文献検索 : 必要な情報を検索できる 2. クリティーク : 批判的・分析的視点で読み取ることの重要性を理解する 3. 研究計画書の作成: 疑問や課題を明確にし、解き明かすための計画書の基本を理解する 4. 研究における倫理: 研究において擁護されるべき権利・倫理について理解する 5. 研究の成果を発表する				
授業計画					
回数	単元名	学習内容			方法
1	看護研究の特徴と展開	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 授業のねらい ➢ なぜ看護研究をするのか ➢ 研究の種類と特徴の理解 ➢ 質的研究、量的研究とはなにかを理解できる ➢ 研究デザインとはなにか ➢ 研究デザインの種類 			講義
2 3 4	文献研究の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 文献研究の過程 ➢ 研究課題(テーマ)の明確化 ➢ 文献検索の意義と方法 <ul style="list-style-type: none"> ● 文献検索の重要性 ● 文献の整理 ● 文献の読み方 ➢ 文献検索の演習 			講義 演習
5		<ul style="list-style-type: none"> ➢ クリティークとは <ul style="list-style-type: none"> ● クリティークの目的 ● 基準・視点 ● クリティーク(演習) 			
6		<ul style="list-style-type: none"> ➢ 研究計画書の作成のしかた ➢ 研究計画書の立案 			
7	看護研究における倫理	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 研究における倫理原則 ➢ 倫理的配慮が求められてきた歴史的背景 ➢ 研究において擁護されるべき権利 			講義
8 9 10 11 12 13	研究計画書の作成 抄録作成 (発表資料作成・発表)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 事例研究の実施 <ul style="list-style-type: none"> ①はじめに ②研究方法 ③結果 ④考察 ⑤結論 			講義 演習(個人) 研究計画書

14		発表	個人発表
15			
<p>評価方法</p> <p>単位認定は、研究計画書および文献研究結果にて評価する。</p> <p>*提出するレポート</p> <p>①研究計画書</p> <p>②事例研究</p>			
<p>テキスト</p> <p>看護研究 MCメディカ出版 2018</p>			

授業科目	看護技術統合 I	講師名	池田 陽子		開講年次： 3年次		
			単位	時間数	単位	時間数	
			1	30			
ねらい	臨床の場で日常生活援助を実施する際、優先順位を判断し時間のマネジメントをしながら実施することになる。優先順位の決定と時間のマネジメントには、患者一人ひとりの経時的な身体変化の把握と限られた時間の中でのケアの決定が必要である。また、臨床では複数患者を受け持ち、複数患者に対するケアの決定も含まれる。臨床の場に近い状態で、優先順位を決定して看護ケアを実施するための判断力と患者の状況の変化、状況に応じた日常生活援助技術の習得を目的として学習する。 授業方法としてはPBLによるグループ学習により、協調性と自己学習能力を身につけてほしい。						
授業計画							
単元名	教育内容					方法	
1	オリエンテーション	1) 看護技術統合 I の目的、意義、進め方のオリエンテーション ①看護技術統合 I の目的、進め方 ②目的・意義・すすめ方 1) グループ学習とし、2つの項目の中から1項目を選択する。(2項目を均等に分担する) 2) 学習の進め方					講義
2	事例作成	【解剖生理学・病態の理解】 ・課題分析・学習内容決定 ・プレゼンテーション ・討議 ・確認テスト					グループワーク 発表
3	患者理解						
4							
5		【患者理解】【看護計画の立案】 1) グループの全体関連図作成 2) 事例に必要なケア計画を作成する 3) 看護上の問題の抽出 4) ケア計画の作成 ・課題シートをもとに、日常生活援助のケア計画を立案する 5) グループ毎に学習成果を発表する ① 学びの過程の報告 ② 理解した患者像(全体関連図をもとに) ③ 看護の方向性、看護計画					
6							
7	患者へのケア						
8	の選択						
9		【状況に応じた看護の選択】 ①1日の中の1場面(日常生活援助技術)の技術を発表 ②1場面の技術ではあるが、ケア実施中の他患者に起こりうることを予測して対応する ③日常生活援助技術の実施					
10							
11							
12							
13	状況に応じた						
14	看護の選択						
15		筆記試験(実技試験)					
<p><備考>・グループワークでは1項目を中心に行うが、2項目とも共有を通して学ぶこと。 ・事例は身体面のみを追求するのではなく、患者を総合的にとらえるとともに生活している人としてとらえた看護を展開するという視点で検討する。看護ケアを実施する際も心理状態や社会的側面をも考慮したコミュニケーションや配慮を考えて実施する。 ・看護技術の習得とともに看護の場面での実践能力を統合して援助ができるように学んでほしい。</p>							
評価方法及び評価基準	筆記試験 50%・実技試験 50% (看護技術統合 I と II を合わせて評点を出します) *看護技術統合 I・II の筆記試験・実技試験をそれぞれクリアすることで合格とみなします						
テキスト	1) PBL テキスト(配布)						
参考文献	1) 山田 幸弘, 疾患別看護過程セミナー, 医学芸術社 2) 猪又 克子, 臨床看護技術パーフェクトナビ, Gakken 3) 関口 志子, 根拠がわかる症状別看護過程, 南江堂 4) 安部 紀一郎, 循環機能学と循環器疾患のしくみ, 日経研 5) 石原 昭他, 系統看護学講座 成人看護 3 循環器疾患患者の看護 血液疾患患者の看護, 医学書院 6) 市立豊中病院看護部編, 標準看護アセスメント, 日経研 7) 山口 瑞穂子他監修, New 疾患別看護過程の展開, 学習研究社 8) 大野 竜三他編, 白血病マニュアル, 南江堂 9) 馬場 元毅他監修, 絵で見る脳と神経 第3版, 医学書院 10) 児玉 南海雄監修, 標準脳神経外科学, 医学書院						

授業科目	看護技術統合Ⅱ	講師名	池田 陽子	開講年次： 3年次	
				単位	時間数
				1	30
ねらい	医療機器を装着している患者に対する観察の視点を明確にし、観察力を身につけてほしい。また、臨床の場に最も近い状況で患者の観察やケアを実施できるために、医療機器を装着し医療処置を必要とする患者を複数受け持つ場合の観察力、判断力（実施項目の判断・優先順位の判断）、マネジメント力、実践のためのコミュニケーション能力を習得することを目的とする。				
授業計画					
回数	教育内容	意図			方法
1	1、オリエンテーション 1) 看護技術統合Ⅱの目的・目標・進め方 2、科学的根拠に基づいた観察 1) 4つの事例を提示する 2) 事例について自己学習	臨床の場では、同時に複数の患者を受け持ち看護を行うことになる。そこで、複数の患者一人ひとりの状態を把握しながら、複数の患者を受け持った場合の観察の視点や患者の状態によるケアの優先度決定、状況に対する対応を体験的に学ぶことを目的とする 1) 事例の設定 事例については、卒業時の到達度を元に医療処置を必要とする患者の事例とした。			講義
2	1、事例の理解 1) 観察の視点理解 ・事例1～事例4までの観察の視点をまとめる	1) 観察の視点理解 複数の患者の観察を実施する前に、一つ一つの事例について観察ポイントがわかり、確実に観察することができる。			演習
3 4	1、看護技術の習得 1) 観察の実施 ・事例1～4の観察の練習	1) 観察の実施 フィジカルアセスメントおよび医療機器のチェック方法を身につける。			
5 6	1、的確な判断とマネジメント 3) 観察の評価 ①事例1～4の観察チェック ・アールームに4つの事例を設定し、1～4の事例中1事例で観察したことを挙げる	1) 観察の評価 4つの事例について、観察点を理解し、観察ができたかを評価する テスト項目については、状態変化を設定し観察の内容を評価する			
7 8 9	1、医療機器の取り扱い 1) 事例1～4の医療機器の取り扱い	1) 事例の医療処置に伴い必要とされる診療の補助技術を身につける（モデル人形に対して）			
10 11 12 13	1、グループで演習 1) 事例1～4を同時に受け持った場合の様々な場面における対応方法を考える（グループで） RP事例1：受持ち部屋の患者観察 RP事例2：立腹されている患者の点滴静脈内注射の抜針と針の刺入、点滴 RP事例3：AEDの使用、胸腔ドレーン挿入中の移乗 RP事例4：人工呼吸器アラームと胸腔ドレーンのトラブル 1) ロールプレイング 1) 事例をグループ毎に配布し、グループで対応を考えクラス全員に発表する 2) ロールプレイングの結果について、クラスで話し合う	1) ロールプレイングについては、今まで学んできた、観察の視点および診療の補助技術を活用して実施する ・実際の患者と同様に患者とのコミュニケーションを図りながら実施できる。また、患者の心理状態を考えながら行動する ・優先順位を決定する際には、その根拠を明確にする ・一人で判断や解決できない事に対して、他のスタッフに相談や依頼する ③ロールプレイングの結果について、話し合いをすることで事例の解釈および対応について深める。 他の事例について、クラスで話し合うことで学びの共有をする 2) テストの事例は、看護技術とロールプレイングで学んだ項目を元にする。新しい事例により、判断力、コミュニケーション力を評価する			
14 15	1) テスト (OSCE)	①看護技術と判断、マネジメントをテスト項目とする ②事例1～4を同時に受け持った場合の様々な場面における対応方法をテストする（個人で）			テスト
<p><備考>・単元名1～2については、胸腔ドレーン挿入患者、心電図モニター装着中の患者、人工呼吸器装着中の患者、点滴静脈注射の患者の観察の視点を学び、実際に観察ができることを目的とする。その過程を経ることで、他疾患、状態の患者も観察できるための考え方を学ぶ。</p> <p>・単元3～4については、実際の看護場面を設定し、その中で判断（患者の状態把握・適切な対応・優先順位・実施のためのマネジメント・コミュニケーション）する力を身につける。また、複数患者を受け持つ、看護の実践と統合実習に向けての準備段階とする。</p>					

評価方法及び 評価基準	筆記試験50%・実技試験50% (看護技術統合IとIIを合わせて評点を出します) *看護技術統合I・IIの筆記試験・実技試験をそれぞれをクリアすることで合格とみなします *看護技術統合IとIIの総合点で再試験を行うものではありません。(再試験は60点に満たなければ筆記・実技それぞれの試験を行います)
テキスト	テキスト配布
参考文献	1) 山田 幸弘, 疾患別看護過程セミナー, 医学芸術社 2) 猪又 克子, 臨床看護技術パーフェクトナビ, Gakken 3) 関口 志子, 根拠がわかる症状別看護過程, 南江堂 4) 山口 瑞穂子ほか監修, New疾患別看護過程の展開, 学習研究社 5) 田中 美智子, 呼吸器看護のフィジカルアセスメント, メディカ出版 6) 国立循環器病センター看護部, 標準循環器疾患ケアマニュアル, 日総研出版 7) 永井 秀雄, Nursing Mook見てわかるドレーン&チューブ管理, 学習研究社 8) 鈴木 玲子, Nursing Mook最新輸液管理, 学習研究社 9) 花田 妙子, 困ったときの心疾患患者の看護, 医学書院 10) 山瀬 博彰, 救急看護学, 医学書院 11) 東口 高志, わかる・できる・注射・輸液・輸血・採血, 南江堂 12) 道又 元裕, 人工呼吸ケアなぜ何大百科, 昭林社 13) 初めての人工呼吸器, メディカ出版 14) 釘宮 豊城, 写真でわかる人工呼吸器の使い方, 医学芸術社 15) 坂東 興, 新人ナースの循環器basic, メディカ出版

授業科目	看護管理 I	講師	堤 順子 中原 彩美	開講年次：3年次・全期	
				単位	時間数
				1	15
ねらい	看護実践において看護管理の概要と外観は大変重要な要素があるといえる。 看護管理は看護師長など管理者の知識・実践のみではない。看護職が新しいヘルスケアシステムを創造しチームや組織、システムを動かしてゆく活動である。看護職はじめ医療チームが共に働く技術といっても良い。卒業前までに是非身につけて欲しい。				
単元	教育内容	学習目標と内容		時間	方法
1. 看護とマネジメント (堤先生)	1) 看護管理学とは 2) マネジメントが必要とされる場	1.看護管理学に含まれる要素についての概略がわかる 2.マネジメントプロセスとマネジメントの概要について理解できる。(看護管理過程と看護過程の考え方) 3.看護のマネジメントが必要とされる場について理解できる 4.看護におけるマネジメントの変遷とこれから求められることについて考察する。		2	(8時間) 講義 レポート
2. 看護ケアのマネジメント	1) 過程と機能 2) 看護基準と看護手順 3) 患者の権利 4) 安全管理 5) 提供システム	1.看護職の提供するケアのマネジメントについて、その過程と機能について理解できる。 2.看護基準と看護手順について、その概要が理解できる。 3.患者の権利を守るための概念について理解を深めることができる。(看護者の倫理綱領) 4.安全管理のための予防対策と、非常時の対応について整理し、理解することができる。 5.看護ケアの提供システムの種類と特徴について理解し、また他職種との連携について、その業務と合わせて理解できる。		2	
3. 看護サービスのマネジメント	1) 対象の範囲・マネジメントサイクル 2) マネジメントの組織 3) 労働環境管理 4) 必要な情報の種類 5) 看護職の技術の広がり 6) リスクマネージャーの役割	1.看護サービスのマネジメントの対象と範囲について、マネジメントサイクルと関連して理解できる。 2.組織をマネジメントするにあたり理念と現状分析の必要性を理解し、看護の組織化との関わりを理解することができる。 3.人的資源のマネジメントについて、看護師システムの種類や看護単位などをあわせて、労働環境管理について整理することができる。 4.組織の管理・運営に必要な情報の種類とそのマネジメントについて理解できる。 5.看護職の技術の広がり、安全管理について理解することができる(リスクマネージャーの役割) 6.対象者へのサービスの評価について、どのような視点があるのかについて理解できる。		4	

<p>4. 看護をとりまく制度 (中原先生)</p> <p>5. マネジメントに必要な知識と技術</p>	<p>1) 看護職の法的責任 2) 職業倫理</p> <p>3) 教育制度 4) 医療制度</p> <p>1) 組織とマネジメント</p> <p>2) リーダーシップとマネジメント</p> <p>3) 組織の調整とキャリア形成</p>	<p>(6時間)</p> <p>講義</p> <p>レポート</p> <p>演習</p>
<p>テキスト</p>	<p>上泉和子『看護管理』 医学書院 2018</p>	
<p>評価方法及び基準</p>	<p>筆記試験、レポート点、演習点を含めて評価します</p> <p>評価は堤先生(60点)、中原先生(40点)で合計100点です</p> <p>試験時間は60分です</p> <p>*筆記試験は受験する事、レポートは提出を最低条件とします。課題、レポートの未提出の場合は、看護管理の点数はありません。</p>	

授業科目	看護管理Ⅱ	講師	渡邊 隆明 瓜生 知佳子	開講年次：3年次・全期	
				単位	時間数
				1	15
ねらい	未来においてこれからの世界視野から保健医療の動向を見据え、看護の必要性と意義を問うことは大変重要である。未成熟の分野に我々が何を目指さねばならないかを考えていきたいと思う。災害とグローバリゼーションが主たる内容となる。				
単元	教育内容	時間	方法		
<国際看護学> (瓜生先生) 1 看護とグローバリゼーション 2 国際看護とはなにか	①概念 ②新たな感染症と看護 ①多文化看護 ②国際組織 ③保健医療の国際協力	6	講義 レポート		
<災害看護学> (渡邊先生) 1 災害医療の基礎知識 2 災害看護の基礎知識 3 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護	①災害の定義 ②災害の種類と健康障害 ③災害医療の特徴 ①災害看護の定義と役割 ②災害看護の対象 ③災害看護の特徴と看護活動 ①急性期・亜急性期 ②回復期・復興期 ③静穏期 演習：災害看護の実際	8	講義 レポート 演習		
筆記試験					
備考	非日常の出来事である災害現場を具体的にイメージしながら、刻々と変化する状況の中で、看護師がどのように活動していくのかが理解できるように、知識の提供のみでなく演習を取り入れながら講義を展開していきたい。限られた講義時間の中で災害看護を理解するために事前学習課題を提示する。国家試験での国際看護学、災害看護学の出題状況もふまえて各自が積極的に講義に参加してほしい。 看護の場の広がりとして、国際的な視野で看護を学んでほしい。				
テキスト	系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学—看護の統合と実践③— (医学書院)				
参考文献	1) 黒田裕子 災害看護 (人間の生命と生活を守る) MC メディカ出版 (2009) 2) 黒田裕子 災害看護 MC メディカ出版 (2011) 3) 志自岐康子 看護学概論 MC メディカ出版 (2014)				

評価方法及び基準	<p>筆記試験、レポート点、演習点を含めて評価をする。 渡邊先生（60点）、瓜生（40点）で合計100点とする。 試験時間は60分である。各講義詳細は時間内に説明をする。 *筆記試験は受験する事、レポートは提出を最低条件とします。課題、レポートの未提出の場合は、看護管理の点数はありません。</p>
----------	---

あさくら看護学校 授業の受講についてのルール

1. 受講上の注意

1. 受講マナー

- (1) 板書等の撮影、授業を録音・録画することを禁止します。
- (2) 受講に関しては、静粛かつ真剣に受講してください。私語は禁止します。
- (3) 授業担当者からの再三の注意にもかかわらず、受講態度を改めない学生には、授業担当者の判断により教室から退出を求める場合があります。
- (4) 携帯電話・スマートフォン・タブレット等の使用を禁止します。
受講中、携帯電話・スマートフォン・タブレットの電源は、切るかマナーモードにしておいてください。
(講義途中、呼び出し音などがなることは厳禁です)
- (5) 授業中の飲食は禁止します。ガムをかむなどの行為もしてはいけません。
- (6) 授業に遅刻して入室しなければならなくなったときは、必ず授業担当者とその旨を報告の上、着席してください。
- (7) 授業中に無断で退出することは禁止します。

* 授業の録音、録画について

授業の録音、録画については、各学校によってさまざまな対応がなされています。本学校では、2点から録画、録音の禁止を行っています。1点目は、看護学校の講義内容の特殊性から講義中の話には、学生の名前、患者のプライバシーなど含まれる可能性があります。それらは講義中の学習として話されたものでありますが、録画・録音をした場合、外部に漏れる可能性があります。録音・録画されたものの取り扱いについてのチェックは難しく、それらが更にインターネット上にアップロードされる危険性を考えると、録音録画は禁止とさせていただきます。

2点目は、我々がなろうとする看護師は、場面での話をきちんと聴く能力が求められます。講義においても、その場その時講師が何を言わんとしているかをきちんと聞き取ることを訓練していただきたいと考えます。それが、聴く能力の獲得につながると思います。以上、2点から本校では録音録画を禁止いたします。

2. 教室内のマナー

- (1) 消し忘れの板書は消し、清潔な教室を常に心がけましょう。
- (2) 授業終了後、不要な照明や冷暖房は、スイッチを切ってから退出しましょう。
- (3) 教室を利用して飲食をする場合は、ゴミを教室に捨てないで、所定の場所に分別して捨てましょう。
- (4) 机・椅子を移動した場合は元の状態に戻してください。

3. 授業アンケート

本学では、授業担当者がより良い授業を行うために、授業アンケートを実施しています。

授業アンケートは、授業期間中に授業改善ミニアンケートやリアクションシート、授業評価といった用紙を使用して、学生の皆さんの意見を確認します。授業期間内にアンケートを実施することによって、授業をより良くすることができますので、協力をお願いします。

その結果は学校全体として分析し、学生の皆さんがより良い授業を受講できるよう改善を進めていきますので、必ず回答をお願いします。

成績評価の対象にもなりませんので、授業に対して感じた率直な意見や感想を入力してください。

平成30年6月24日作成

単位認定試験受験のルール

1. 受験のルール

- ①授業時間の2/3以上を受講しなければ受験資格はない
- ②試験に無断で欠席した場合は受験資格を失うことになる
(単位認定ができないため進級はできない)

	内容	備考
	<p>事前に受験方法及び試験に関する決まり事を説明を受け理解しておく 週番は、早めに出席確認をして、出席していない学生については、クラス内で連絡をとる 体調不良者は事前に教務室に来て、教務にその旨を報告し指示を受ける</p>	
1	1. 学生は試験5分前に着席しておく	1. 受験できる体制で着席しておく 2. 5分前になったら入り口のドアを閉める(入室禁止とする)
2	1. 出席確認をする ①出席番号順に着席する	1. 仮に欠席者がいたとして机を前に詰めない
3	1. 出席確認後、 ① 机の上に落書きや文字が書かれていないか確認する ② 机の中にモノが入っていないか確認する ③ 机の上に置けるもの ・鉛筆(シャープペン)、消しゴム、時計機能だけの時計、シャープペンの芯はあらかじめ入れておけるため不可、その他講師が特別指示したモノ ・ポケットティッシュ、ハンカチは事前に教員にチェックを受けたモノのみ可とする *目薬は持ち込み不可	1. 試験の前日に自分が座っている机上の落書きを消しておくように伝える もし、後でわかったら席についている学生の責任とし試験が無効になることもある 2. 自分の机と異なるが、引き出しに物が入っていたら着席している人の責任となるため確認をする
4	1. 週番は、黒板に指定の記載事項を記入しておく 科目名(担当講師名) 試験時間 退出可能時間 在籍人数 欠席人数・名前 2. 試験問題配布される ① 解答用紙を配布されたら、後ろの人に回す(裏にして) ② 次に試験問題を配布されたら、後ろの人に回す(裏にして) 3. 試験問題の枚数と解答用紙の枚数を伝えられるため、試験開始後すぐに確認する	*遅刻については、15分以内に教室入っていないければ15分遅刻と認めない。(教室に入った時間が15分以内の場合は認める)従っ

	<p>4. 問題の質問や落とし物等は必ず挙手する</p> <p>5. 遅刻の際 15 分以内であるならば受験可能である</p>	<p>て、教室外で 15 分を超えた場合も受験資格はない</p>
5	<p>1. 教室前の時計を日安に試験開始の合図をされるため、験を開始する</p> <p>① 試験問題枚数と解答用紙枚数の確認をする</p> <p>② 試験問題、解答用紙共に名前の記載をする</p>	
6	<p>1. 試験が始まって落ち着いてきたら、机間巡視が始まる</p> <p>① 机上に文字が書いていないか確認される</p> <p>② 机上に指定されたもの以外がないか確認される</p> <p>③ 受験環境として、机に位置、個人のモノの所在、机間巡視できる幅があるかど確認される</p> <p>④ 後ろから、机の中にモノがないか確認される</p> <p>⑤ 試験の受け方で、問題用紙を机から垂らしている・姿勢が悪く斜めで記載しているなどは随時声を出さずに注意をされることがある</p>	<p>1. 教員は試験時間中、監督を行っているため質問等があれば挙手する</p>
7	<p>① 学生はトイレに行きたい場合は申し出る（他教員を呼んでもらうため早めに申し出る）</p> <p>・学生は、問題用紙解答用紙を裏にして席を立つ</p>	
8	<p>1. 途中退出者について</p> <p>① 途中退出者は、問題用紙、解答用紙を裏にする</p> <p>② 静かに立ち、自分の席から近いドアから退出する</p> <p>③ 試験後授業がある場合もあるため、待機場所はさくらホールとする（他の授業のことなどはしない）</p>	<p>1. 途中退出は可能であるが、試験時間はその科目の授業時間であるため、他の授業のことや飲食をする時間ではない</p>
9	<p>1. 試験終了 5 分前になったら「試験終了 5 分前です。再度試験問題、解答用紙に名前を書いているか確認してください」と伝えられるため確認をする</p>	<p>1. 枚数が多いものはすべての問題用紙に名前を記入する</p>
10	<p>1. 試験終了の合図をされたら、鉛筆を置いて解答用紙を裏にする。監督の指示に従って、後ろから集める</p>	
11	<p>1. 次の指示がなされるため、指示に従う</p> <p>授業</p> <p>① 途中退出者は教室に入る</p> <p>② 授業を開始する</p> <p>授業外</p> <p>① 他学年は授業中であるため、静かに過ごす</p>	

問題用紙・解答用紙返却に際してのルール

- ①返却のルールは、読んで理解しておく
- ②返却に際して、事前に返却する旨の掲示があるため必ず掲示板で確認する。
- ③点数 57 点以上 60 点未満の答案用紙はコピーをする

- ③解答用紙、問題用紙を返却後、模範解答を伝える
- ④ 採点間違いの申告は、模範解答を伝えたのち 10 分以内としそれ以降はどのような申し出も受け付けない
 - ・単純な採点ミスは受け付けるが、記述式の問題については受け付けない（特に外部講師の記述式については受け付けない）

- ⑤返却時の環境
 - ・返却の場所は、整理された環境で返却を行うことになっており、掲示板で事前に指示がある
（基本的には、自教室以外の場所で行うこと）
 - ・返却されたら、各自座って確認する
（他の学生の席に移動してはいけない）
 - ・採点間違いを申告しないものは、返却場所から速やかに退出する
 - ・一度退出した学生は、再び返却場所に戻って対象科目の試験について異議申し立てをすることはできない
 - ・返却の際、鉛筆、消しゴムの持ち込みを厳重に禁止する
（単色（青色）ボールペンのみ持ち込み可・消しゴム・鉛筆の持ち込みは不可とする）

令和元年 6 月 27 日作成

令和元年 7 月 2 日改正

再試験・追試験の受験料支払いについてのルール

あさくら看護学校細則

(追試験)

第22条 本試験を受けることができなかった場合、追試験を受けることができる。

- 2 追試験は、次の各号をすべてみなさなければ認められない。
- 3 追試験が認められた者は、当該試験の3日前(17:00)までに事務室に受験料を納付しなければならない。

*追試験は、やむを得ない場合を除いては認めない方針である

(再試験)

第23条 本試験に不合格となった場合、再試験を行う。

- 2 再試験を希望する者は、事務室に再・追試験願と受験料を添えて当該試験日の3日前(17:00)までに提出しなければならない。

【運用】

- 1、土曜日・日曜日・祝日・及び学校が規定した休業日を入れない3日前とする

運用例

水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日	試験日
	3日前 支払最終日	2日前			1日前	当日

*木曜日の17:00までに支払いを行う

水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日 (祝日)	試験日
3日前 最終支払日	2日前	1日前				当日

*水曜日17:00までに支払いを行う

*土曜日・日曜日・祝日及び学校が規定した休業日を入れないとは・・・

学則第7条

休業日は、次の通りとする

- (1) 国民の祝日に関する法律に定める休日
- (2) 土曜日および日曜日

(3) 季節休業は学年を通じて10週間とする

夏季休業6週間、冬季休業2週間、春季休業2週間

(4) 前3号に定めるもののほか、校長の定める日

とあるため、上記1号・2号・4号とする。

・3号に関しては、やむを得ない場合、季節休業時に再試験・追試験を行うことがあるため、その限りではない。

(季節休業中も、原則試験日3日前の支払いとする)

・土曜日、日曜日が出校日の場合(てふてふ祭・宿泊研修等)でも、土曜日・日曜日となるため3日前には入らない。

結論

3日前とは、下記に挙げた休業日以外の日(平日)とする

- 1、 国民の祝日に関する法律に定める休日
- 2、 土曜日および日曜日
- 3、 前3項に定めるもののほか、校長の定める日
- 4、 土曜日、日曜日が出校日の場合(てふてふ祭・宿泊研修等)でも、土曜日・日曜日となるため3日前には入らない。

2、支払いができなかった場合の対応

*払う意思がない(受験の意思がない)ものとして受験することはできない。

再試験を受験できないということは、単位認定ができないということであり、進級・卒業に係る

*不測の事態も考えられるため、掲示されたらできるだけ早めに支払いをすること

*個人的に支払いについての促しはしない。自己責任として、受験不可となる。

平成30年10月26日作成

授業科目		配当年次・学期		講師名	資格	実務経験年数	実務経験内容	授業科目概要・目標	単位	時間数	
基礎分野	家族論	2年	前期	入部 久子	看護師 保健師 助産師	3	病院にて看護師として勤務	1. わが国の家族は、少子・高齢化が進む中で育児不安や離婚の増加、高齢者のケアなど諸問題に直面している。このような中で、家族の構造や機能を含めて家族とはなにかについて考える。社会的要因の家族への影響や家族支援など看護師に求められる看護ケアの進め方を学ぶ。	1	30	
	人権論	2年	前期	信友 浩一	医師	12	病院（呼吸器内科）にて勤務	1. 社会的なものの方や考え方を身につけ、偏見や感情や自分の立場に支配されずに現実を見る目を養う。	1	30	
専門基礎分野	病理学	1年	前期	田口 順	医師	31	病院（病理診断科）にて勤務	1. 疾病になる原因を探り、疾病によって患者の身体に生じている変化を明らかにし、診断や予防において観察力を高め判断力を養う。	1	30	
	疾病と治療Ⅰ	アレルギー	1年	前期	古賀 丈晴	医師	33	病院（呼吸器・内科）にて勤務	1. 呼吸器疾患・アレルギー疾患、血液・造血器疾患、膠原病、皮膚疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。	1	30
		呼吸器			草場 信秀	医師	31	病院（血液・内科）にて勤務			
		血液・造血器・膠原病			松元 二郎	医師	33	病院（皮膚科）にて勤務			
		皮膚疾患									
	疾病と治療Ⅱ	循環器疾患	1年	前期～後期	大島 英樹	医師	14	病院（循環器内科）にて勤務	1. 循環器疾患、運動器疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。	1	30
					堀 真貴子	医師	10	病院（循環器内科）にて勤務			
		運動器疾患			藤井 正敏	医師	43	病院（整形外科）にて勤務			
					小山 耕一	医師	30	病院（整形外科）にて勤務			
	疾病と治療Ⅲ	腎	1年	後期	森山 敦夫	医師	40	病院（腎臓・内科）にて勤務	1. 腎・泌尿器疾患、内分泌・代謝疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。	1	30
		泌尿器疾患			松永 祥弘	医師	4	病院（泌尿器科）にて勤務			
		内分泌・代謝疾患			山田 研太郎	医師	43	病院（糖尿病・内科）にて勤務			
	疾病と治療Ⅳ	小児	1年	後期	黒田 直宏	医師	21	病院（小児科）にて勤務	1. 小児疾患や消化器疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。	1	30
		消化器疾患			河口 康典	医師	21	病院（消化器内科）にて勤務			
高田 晃男					医師	26	病院（消化器内科）にて勤務				
疾病と治療Ⅴ	女性疾患	1年	後期	東島 利紀	医師	32	病院（産婦人科）にて勤務	1. 脳神経疾患、リハビリテーション、女性疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。	1	30	
	リハビリテーション			下川 裕	理学療法士	16	病院（リハビリテーション科）にて勤務				
	脳神経疾患			大浅 貴朗	医師	26	病院（脳神経外科）にて勤務				
疾病と治療Ⅵ	歯科口腔疾患	2年	前期	廣田 溪	医師	6	病院（歯科・口腔外科）にて勤務	1. 眼科疾患、耳鼻咽喉器疾患、歯科口腔疾患、精神疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と判断力を養う。	1	30	
	精神疾患			吉良 健太郎	医師	9	病院（精神科）にて勤務				
	眼科疾患			廣木 稔	医師	22	病院（眼科）にて勤務				
	耳鼻科疾患			富田 和英	医師	24	病院（耳鼻咽喉科）にて勤務				
栄養学		1年	前期	小島 良子	管理栄養士	50	病院にて管理栄養士として勤務	1. 生体に必要な栄養素のはたらきを理解する。 2. 食事の重要性や食生活に伴う健康問題について学び臨床で活用できる知識を養う。	1	30	
薬理学		1年	後期	江藤 良典	薬剤師	36	病院（薬剤科）にて勤務	1. 薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び薬物の管理について理解し臨床で活用できる。	1	30	
保健医療論Ⅰ		1年	前期	西依 淳	医師	30	病院（小児科）にて勤務	1. 人々が生涯を通じて健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できる必要な知識を学ぶ。 2. 保健医療に関する基本概念・関係制度から関係職種役割を理解する。	1	15	
社会福祉学概論		2年	前期	泉 賢祐	社会福祉士	15	病院にて社会福祉士として勤務	1. 社会福祉の変遷や基本理念・概念を理解し、社会保障制度の内容とその背景を理解する。 2. 人々が生涯を通じて健康や障害の状況に応じて社会資源を活用できるように必要な知識と基本的能力を養う。	1	15	
社会福祉法制論	前期		病院にて社会福祉士として勤務				1. 社会福祉の法制度及びその活用方法を理解し、臨床現場での他職種との連携に役立てることができる。	1	15		

授業科目		配当年次・学期		講師名	資格	実務経験年数	実務経験内容	授業科目概要・目標	単位	時間数
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	1年 前期	中原 彩実	看護師	15	病院にて看護師として勤務	1. 「看護」「健康」「人間」「環境」を看護に活用できるように基本要素を学ぶと共に意義を理解する。 2. 看護の対象や看護の場、看護倫理、看護システム、看護の国際化の学びを通し、実際の看護活動や今後の看護のあり方について考える。	2	30
		方法論Ⅰ	1年 前期～後期	江藤 則子	看護師	17	病院にて看護師として勤務	1. 科学的な根拠に基づいた看護技術を習得する。 2. コミュニケーション、フィジカルアセスメントを強化し看護過程を学び実践のための基礎技術を習得する。 3. 事例を通し看護技術を適用する方法を学ぶ。	2	90
				白瀧 美香	看護師	19	病院にて看護師として勤務			
				堀内 幸代	看護師	11	病院にて看護師として勤務			
		方法論Ⅱ	1年 前期～後期	白瀧 美香	看護師	19	病院にて看護師として勤務	1. 健康生活の維持や疾病回復の過程を「生活する視点」から諸科学を結びつける形で援助を捉える。 2. 看護の対象の生活過程を整えるため、その援助方法を習得する。	2	90
				堀内 幸代	看護師	11	病院にて看護師として勤務			
				宮川 理恵	看護師	16	病院にて看護師として勤務			
方法論Ⅲ	1年 後期	白瀧 美香	看護師	19	病院にて看護師として勤務	1. 診察、検査・治療処置をうける患者への援助及び診療補助技術が身体に及ぼす影響を理解する。 2. 患者への安全な看護技術の援助方法を身につける。	1	45		
		宮川 理恵	看護師	16	病院にて看護師として勤務					
臨床看護総論	2年 前期～後期	堀内 幸代	看護師	11	病院にて看護師として勤務	1. さまざまな健康上のニーズをもつ人々に、既習の個々の看護技術を統合し、主要症状別看護、経過別看護で疾病・障害をもった患者に対しての看護技術の応用を学ぶ。	2	90		
白瀧 美香	看護師	19	病院にて看護師として勤務							
池田 陽子	看護師	9	病院にて看護師として勤務							
看護研究	3年 前期～後期	池田 陽子	看護師	9	病院にて看護師として勤務	1. 看護における研究の意義・役割を理解し、文献検索の重要性と積極的活用を学ぶと共に、研究の方法についての基本的知識を習得する。	1	30		
専門分野Ⅱ	成人看護学	概論	1年 前期	江藤 則子	看護師	17	病院にて看護師として勤務	1. 青年期以降50年間にわたる成人期にある人々の生活が時代と共に様変わりすること、及びライフサイクルにおける対象を理解し、成人期の特徴、成人保健の動向や成人期の健康問題を学ぶ。	1	15
		方法論Ⅰ	1年 前期	白瀧 美香	看護師	19	病院にて看護師として勤務	1. 社会の中核となる成人期のさまざまな健康レベルにある人々を支える看護のあり方を学び、身体的精神的社会的に複雑な様相を呈する成人の健康状態に焦点を合わせて、健康生活を促す看護を学ぶ。	1	15
		方法論Ⅱ	2年 前期	河原 朋果	看護師	13	病院にて看護師として勤務	1. 急性期にある患者の特徴を理解し、手術療法をうける患者への看護援助や生命の危機的状況にある患者への看護援助を学ぶ。 2. 救急看護における知識・技術・態度を学び、看護過程を通して臨床実践能力の向上を図る。	1	45
				今村 佳	看護師	19	病院にて看護師として勤務			
				内田 ひろみ	看護師	20	病院にて看護師として勤務			
				吉宗 由美子	看護師	36	病院にて看護師として勤務			
				江藤 則子	看護師	17	病院にて看護師として勤務			
		方法論Ⅲ	2年 後期	江藤 則子	看護師	17	病院にて看護師として勤務	1. 身体の喪失や身体機能の障害をもつ人の、回復期の患者を理解し、その人らしく生活するための生活過程を整える知識・技術・態度を学ぶ。 2. 事例を通し臨床実践能力の向上を図る。	1	30
		方法論Ⅳ	1年 後期	原 妙子	看護師	22	病院にて看護師として勤務	1. 長期にわたって治療を必要とする慢性疾患をもつ患者の、生涯疾病と共に生活するためのマネジメントができるような看護援助に必要な知識・技術・態度を学ぶ。 2. 看護過程の展開を通して臨床実践能力を図る。	1	30
				白瀧 美香	看護師	19	病院にて看護師として勤務			
方法論Ⅴ	2年 後期	満上 千代美	看護師（緩和ケア認定看護師）	28	病院にて看護師として勤務	1. がん等の治療困難な疾病を持つ患者の終末期の苦痛を理解し、がん看護における緩和ケアを学ぶ。 2. 生命の尊厳やQOL等、倫理的配慮を含め事例を通して学ぶ。	1	15		
老年看護学	概論	2年 前期	中原 彩実	看護師	15	病院にて看護師として勤務	1. 老年看護学概念を理解し、加齢に伴う身体的・生理的・社会的変化を理解する。 2. 高齢化社会の現状やライフスタイル、ニーズを理解し、老年看護の対象、目的、役割について学ぶ。	2	30	
	方法論Ⅰ	2年 前期～後期	馬田 聡美	看護師	30	病院にて看護師として勤務	1. 老年期の健康状態と老化の側面から把握し、生活機能の観点からアセスメントすることで看護を展開する方法を学ぶ。	1	30	
			伊藤 哉女	看護師	17	病院にて看護師として勤務				
	方法論Ⅱ	2年 後期	福嶺 初美	看護師（老人看護専門看護師）	33	病院にて看護師として勤務	1. 健康障害のある高齢者を理解し、疾病予防・健康の回復・保持増進の視点を含め、看護過程の展開を通して看護実践能力を養う。	1	30	
伊藤 哉女			看護師	17	病院にて看護師として勤務					
小児看護学	概論	1年 後期	堤 順子	看護師	29	病院にて看護師として勤務	1. 小児看護の特徴、小児各期の生活と環境について理解し、健康な小児の日常生活の保持・増進さらに小児看護の目的、役割、機能について学ぶ。 2. 健康障害が小児と家族に与える影響を理解し予防、健康の回復及びよりよい成長・発達への看護支援を学ぶ。	2	30	
	方法論Ⅰ	2年 前期	伊藤 哉女	看護師	17	病院にて看護師として勤務	1. 健康障害が小児及び家族に及ぼす影響を理解し、小児の症状・検査・処置に応じた看護援助の方法と看護アセスメントを学ぶ。 2. 小児と家族のおかれた環境、生活に適應できるための援助を理解する。	1	30	
			宮川 理恵	看護師	16	病院にて看護師として勤務				
	方法論Ⅱ	2年 前期～後期	伊藤 哉女	看護師	17	病院にて看護師として勤務	1. 小児の疾病・障害の病態を理解し、健康障害に応じた看護を理解する。 2. 小児の成長・発達をふまえたアセスメント力を高め、健康問題を理解する中で臨床実践能力の向上を図る。	1	30	
			宮川 理恵	看護師	16	病院にて看護師として勤務				

授業科目		配当年次・学期		講師名	資格	実務経験年数	実務経験内容	授業科目概要・目標	単位	時間数
専門分野Ⅱ	母性看護学	概論	1年 前期	前川 彩	看護師 助産師 保健師	11	病院にて看護師・助産師として勤務	1. 母性看護の対象を理解し、母性看護の意義を学ぶ。 2. 母性を取り巻く社会情勢と法制度、母子保健の動向を理解し母性看護の役割を学ぶ。	2	30
		方法論Ⅰ	2年 前期	井手 輝実	看護師 助産師	37	病院にて看護師・助産師として勤務	1. 妊娠・分娩・産褥期における対象理解と健康の保持増進の看護を学ぶ。 2. 新生児の看護と保健指導の意義を理解する。	1	30
				前川 彩	看護師 助産師 保健師	11	病院にて看護師・助産師として勤務			
	方法論Ⅱ	2年 前期	前川 彩	看護師 助産師 保健師	11	病院にて看護師・助産師として勤務	1. 産褥期の看護、正常分娩の経過からハイリスクな状況の人々の分娩経過とその看護を学ぶ。 2. 新生児の看護と産後の保健指導を理解し看護過程の展開を通して臨床実践能力の向上を図る。	1	30	
	精神看護学	概論	1年 後期	中村 一孝	看護師	30	病院にて看護師として勤務	1. 精神の健康の保持増進と、健康障害時の看護を理解する。 2. 人間の心の健康と精神障害者を理解し生活の場及び精神の健康問題について考え、ストレスの状況と危機の状況に対する適切な危機介入や精神保健活動を通し精神看護の意義・役割・機能について学ぶ。	2	30
		方法論Ⅰ	2年 前期	田中 みとみ	看護師	48	病院にて看護師として勤務	1. 精神を病む人への看護援助を学ぶ中で、精神看護師の役割及び知識・技術・態度を理解し対象に応じた援助を学ぶ。	1	30
方法論Ⅱ		2年 後期	安本 圭一	看護師	24	病院にて看護師として勤務	1. 患者と看護者関係を築いていく上で必要な自己理解、他者理解のための知識・技術・態度を学ぶ。 2. 精神障害の特徴的な症状とその看護を理解する。	1	30	
	平山 顕行		看護師	19	病院にて看護師として勤務					
統合分野	在宅看護論	概論Ⅰ	2年 前期	瓜生 知佳子	看護師 保健師	7	病院にて看護師として勤務	1. 地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し在宅での看護の基本概念を学ぶ。 2. 在宅看護を取り巻く社会の現状や時代背景及び歴史の変遷を学び、在宅看護の意義や目的、更に他職種との連携を理解する。	1	15
		概論Ⅱ	2年 前期	長尾 一樹	看護師（認知症看護認定看護師）	15	病院にて看護師として勤務	1. 在宅看護の対象となる人とその家族を理解し在宅で療養する看護の実践を学ぶ。 2. 療養者が生活する地域の特徴と地域が療養者、家族に及ぼす影響が理解できる。	1	15
				瓜生 知佳子	看護師 保健師	7	病院にて看護師として勤務			
		方法論	2年 前期～前期	瓜生 知佳子	看護師 保健師	7	病院にて看護師として勤務	1. 在宅看護を実施する上で必要とされる実践に必要な知識・技術・態度を実践的に習得する。 2. 事例を通して、在宅看護における看護過程の展開方法を学ぶ。	2	60
	看護の統合と実践	看護技術統合Ⅰ	3年 前期～後期	池田 陽子	看護師	9	病院にて看護師として勤務	1. 臨地に近い状況で看護を学び複数患者を受け持ち、優先順位を判断し実施することができる判断力と日常生活技術を習得する。	1	30
		看護技術統合Ⅱ	3年 前期～後期	池田 陽子	看護師	9	病院にて看護師として勤務	2. 医療機器を装着している患者の観察と判断力・マネジメント力・実践のためのコミュニケーション能力を学ぶ。看護技術の総合的評価を行う。	1	30
		看護管理Ⅰ	3年 前期～後期	堤 順子	看護師	29	病院にて看護師として勤務	1. 既習の知識・技術・態度を統合し望ましい臨床実践マネジメント基礎能力を身につける。 2. チーム医療及び他職種との協力の中で看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解する。	1	15
				中原 彩実	看護師	15	病院にて看護師として勤務			
		看護管理Ⅱ 災害看護学	3年 前期	渡邊 隆明	看護師	23	病院にて看護師として勤務	1. 災害直後から支援できる看護の基礎知識を理解すると共に医療安全の臨床に近い体験を事例を用いて認識を高める。	1	15
		看護管理Ⅱ 国際看護学	3年 後期	瓜生 知佳子	看護師	7	病院にて看護師として勤務	2. 国際社会において看護師として諸外国との協力を考えることを目的に異文化を理解しとの看護交流を学ぶ。		
実務経験のある教員等による授業科目の単位数の合計									54	単位